

浦安市における学校配置の 適正化に向けての基本方針

～「第2次学校適正配置等検討委員会」における検討結果を受けて～

資 料 編

平成21年3月

浦安市教育委員会

－ 目 次 －

1. 第2次学校適正配置等検討委員会議事録.....	1
(1) 第1回委員会 議事録.....	1
(2) 第2回委員会 議事録.....	8
(3) 第3回委員会 議事録.....	15
(4) 第4回委員会 議事録.....	21
(5) 第5回委員会 議事録.....	29
2. 小中一貫校先進事例「興本扇学園」視察結果.....	35
3. アンケート調査結果.....	40
(1) アンケート調査の概要.....	40
(2) 集計結果.....	42
4. 児童生徒数推計結果.....	75
(1) 推計内容.....	75
(2) 推計手法.....	77
(3) 推計結果.....	79

1. 第2次学校適正配置等検討委員会議事録

(1) 第1回委員会 議事録

- | | | |
|----------------|-----------------------------|-------------|
| 日 時 | 平成20年7月11日(金) | 10:00~11:30 |
| 場 所 | 文化会館 3階 | 大会議室 |
| 参加委員 | 14名 | |
| 次 第 | | |
| 1. 開 会 | | |
| 2. 委嘱状交付 | | |
| 3. 委員・事務局の紹介 | | |
| 4. 教育委員会挨拶 | | |
| 5. 委員長、副委員長の選出 | | |
| 6. 議 事 | | |
| | (1) これまでの取組み経緯、及び浦安市の現状について | |
| | (2) 委員会の方向性について | |
| 7. その他の諸連絡 | | |
| 8. 閉 会 | | |

○議事要旨

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 委員・事務局の紹介
4. 教育委員会挨拶

【黒田教育長】

- ・本日、この委員会の前に開催された会合で、第2期基本計画が成立した。本委員会で議論する学校の適正配置計画は、その第2期基本計画の中で大きな意味を持つ、具体的な事業の1つである。
- ・浦安市には子どもの数が200人以下の小規模校と1000人を超える大規模校があり、大きな課題として認識している。今後は、学区の再編などさまざまな可能性を視野に入れて検討していく必要があると考えている。
- ・国の意向もあるが、浦安市は元来、独自の自治体運営を基本的な考え方としている。国の掲げる方向性を尊重しながらも、浦安市にふさわしい独自性の高い計画を作っていきたい。そのためにも、委員会の場で天笠先生、斎藤先生はじめ委員の皆様には、忌憚のない意見をたまわりたい。
- ・本委員会の成果が浦安市の子どもたちの幸せの出発点となるよう期待している。

5. 委員長、副委員長の選出

*事務局より、委員長に天笠委員、副委員長に斉藤委員を推薦。委員全員の了解を得る。

【委員】

- ・この委員会はメンバーが知恵を出し合って、それを1つの形にまとめ上げていくものだと認識している。そのとりまとめ役としての役割を果たしていきたい。

【委員】

- ・学校は都市計画の中でも、まちの中心となる重要な施設である。専門である都市計画の分野を中心に、ニーズにあった計画づくりに貢献していきたい。

6. 議 事

*以下、委員長の司会により議事を進行する。

(1) これまでの取組み経緯、及び浦安市の現状について

【委員】

- ・事務局から準備した資料についての説明をしてもらい、浦安市の現状や委員会の果たすべき役割などについて、メンバーの共通理解を図っていきたい。

【事務局】

*資料にもとづいて「これまでの浦安市の取組み経緯」について説明。

【事務局】

*資料にもとづいて「浦安市の現状、課題」について説明。

[主な課題]

○大規模校と小規模校があること

- ・例えば、32学級、児童数1000人超の富岡小がある一方で、そこからわずか1kmの場所に6学級（各学年1学級）、児童数200人以下の美浜北小、入船北小が立地している。

○特別支援教育用などのスペースが十分に確保できていないこと

- ・市では特別支援教育に力を入れており、全学校に広げていきたいと考えているが、児童生徒数の増加により、一般教室を確保することで精一杯の学校もある。こうした学校では、特別支援教育など、余裕教室を使った活動ができない状態にある。

[地区ごとの特徴]

○元町地区

- ・南小、北部小など大規模な小学校が多い。
- ・ただ、新たな学校を設置するとしても、それにふさわしい用地を確保することは難しいのが現状。
- ・また歴史的に伝統がある地域であり、それぞれの学区で地域コミュニティができあがっているといえる。

○中町地区

- ・子どもの減少により急激な学校の小規模化が進んでいる。
- ・市のなかでも、私立中学校への進学率が特に高い地域。40～50%が私立中学校へ進学している。

○新町地区

- ・日の出、高洲地区では新たな開発が予定されており、子どもの数はさらに増加することが見込まれる。日の出南小は、児童が通常の教室では入りきれず、余裕教室を使って授業を行っている。
- ・マンション建設の動向により、学区割りが複雑化している。児童数の関係で近くにある学校でなく、遠い学校に通っている子どもがいる。

【委員】

- ・これまでの説明で、質問・意見などはないか。

【委員】

- ・高洲地区、日の出地区における通学区のクロスの現状について、再度説明をお願いしたい。

⇒事務局

- ・高洲地区を例にとると、高洲小のすぐそばに、当初想定していなかった大型マンションが建設された。高洲小の収容規模から児童の受入れはこれ以上無理であったため、そのマンションは、やむを得ず少し離れた高洲北小の学区とし、子どもたちは高洲北小へ通っている。

(2) 委員会の方向性について

【委員】

- ・今回の委員会で検討を行っていくにあたり、事務局の考えている方向性について説明を。

【事務局】

- ・今回の計画は、10年後の浦安市の姿を見据えて有効な対応策を構築していくもの。これからの約8ヶ月で市の学校適正配置の整備案、実施計画案を策定していきたい。
- ・浦安市では平成13年度に行った前回の検討委員会の結果を踏まえて、これまで12～18学級を学校の適正規模としてきた。しかし最近の子どもの数の増加状況などを踏まえて、今回の計画では、6～30学級を適正規模とし、30学級以上を過大規模校、6学級以下を過小規模校として、これらについての議論を本委員会で集中的に行っていくたい。
- ・具体的には、元町の大規模校、中町の小規模校を中心に議論を行いたいと考えている。特に中町では、狭い範囲に小学校4校、中学校2校、そのうち小規模の小学校が2校、中学校が1校あり、今後の対応について十分に検討していく必要がある。

【委員】

- ・今の説明を踏まえて、委員の皆さんから自己紹介も含めて意見や感想などをお願いしたい。

【委員】

- ・入船中学校に勤務している。当校は中町地区にあり、現在特別支援学級1学級を含めて

12 学級（4・4・3+1）。一部の生徒は、新町地区の明海中に流れてしまっている。

【委員】

- ・高洲小に勤務している。学級数は 25 学級に特別援学級 2 学級で、合計 27 学級（4・4・5・4・4・4+2）。
- ・当初 24 教室を想定して作られた学校だが、子どもが増えて、昔ホールであったスペースを区切って教室として使用している。
- ・隣地に大型マンションのプラウドができたが、当校ではこれ以上受入ができないため、そこに住む多くの子どもたちは、当校ではなく高洲北小へ通っている。さらにプラウドがもう 1 棟建設中であるが、そこは高洲小の学区となっている。

【委員】

- ・市立小中学校 PTA 連合協議会（市 P 連）に所属している。市 P 連には、市内の全ての小中学校が加盟しているわけではない。新しい学校のほか、入船北小などの小規模校は、PTA の数が少ないからということで加盟してもらえていない。

【委員】

- ・公立幼稚園地区 PTA 連絡協議会に所属している。
- ・私自身が東小、主人は浦安小の出身だが、元町地区は子どもを中心とする地域のコミュニティができあがっているので、子どもを持つ親として安心感を抱けている。

【委員】

- ・自治会連合会に所属している。
- ・学校の格差が問題となっているようだが、個人的には格差があっても良いのではないか、学校ごとの個性を重視していけばよいのではないかと考えている。
- ・それよりも、社会的資産・施設としての学校をどう捉えていくかが問題。今回の議論の範疇に、この問題が含まれるのか。その点を注目していきたい。

【委員】

- ・学校の適正配置は、単純に「子どもの数がどうなるから、こうする」ということで割りきれない問題ではないと考える。
- ・小学校の場合、選択する理由は近いということが一番だろうが、中学校の場合はそうではない。学校ごとの魅力が大事であり、参加した市民会議でも、そうした観点から学校選択制度を推進すべきとの提言を出している。学校適正配置にも、そうした考えが十分に反映されるべき。難しい判断が必要である。

【委員】

- ・都内で社会教育分野の仕事に携わっている。
- ・事務局の説明を聞いて、市内の各学校でこれほどの格差があることを知り、驚いている。学校教育についての専門的な知識はないが、子どもの親の視点からいろいろと考えていきたい。

【委員】

- ・明海大学に赴任して 12 年で、市内の実情についてはほぼ把握している。
- ・今回の取組みでは、学校の数の手当ても必要だが、それだけでは結論にならないだろう。

地域の人々が納得できる学校の姿を、地域ごとに明確にしていきたい。

【委員】

- ・この委員会に求められていることは、まず、「大規模校がある→それをどうしていくべきか」、「小規模校がある→それをどうしていくべきか」、という問題についてメンバーで議論しながら結論をまとめあげていくということ。そして適正配置、学区のあり方について検討していくこと。この問題に関しては、1つの学校をどうこうするという議論では収まらないだろう。
- ・既にメンバーから意見が出ているように、適正配置は子どもの数の足し算、引き算だけで決められる問題ではない。そうであれば、こうして委員会を開催する必要はない。さまざまな要素を検討していく必要がある。
- ・これまで自治体における学校の配置は、どちらかという関係者だけの協議で決定されてきたといえる。浦安市では前回に続き今回もこうした委員会を設置し、市民の意見を取り入れながら、合意形成を図ろうと努めている。委員会として、その期待に応えていきたいと考えている。
- ・現在国においては、教育改革が進められている。新たな学習指導要領が3月末に発表になり、今年から来年にかけて、それへの対応は各学校にとって大きな課題となっているはずである。本格的に実施されるのは2、3年後だが、来年4月からほぼ新しい指導要領に沿って取り組んでいく必要があり、実際には時間がない。
- ・今回の指導要領は、これまでと同じように、表紙は小学校用、中学校用と分かれている。しかし小学校用指導要領のなかには、その後ろに中学校用の内容も収められており、中学校用指導要領のなかには小学校用の内容が収められている。このことが示すメッセージは、「国は今後義務教育の9年間を一体的に視野に入れた教育を推進していく方針だ」ということ。昨年改正された学校教育法でも、義務教育の方向性として、小学校の問題を検討していくにあたっては、中学校の問題もあわせて検討していく必要がある、としている。
- ・数年後には、小学校と中学校の関係のあり方についての検討が、今以上に求められてくることは間違いない。実際に三鷹市や足立区では小中の一体化に向けた先進的な動きも起きている。今回の委員会でも、こうした動きも視野に入れて議論していくべきである。
- ・この委員会での直接的なテーマではないが、こうした考え方が市の将来プランにも繋がっていくはずである。具体的なテーマは学校の適正配置だが、その検討過程で浦安市のまちのあり方についても考えていきたい。
- ・今後の委員会での議論の方向性などについて、メンバーからもう1回ずつ意見を求め、それを事務局でまとめて交通整理をしたうえで、次回の検討の材料にしていきたい。
- ・長期的なプランを策定するわけではないので、ある程度限定したテーマも必要だと考える。こうしたことをテーマにしたらどうか、という意見があれば提示してほしい。

【事務局】

- ・今回の計画づくりでは、市民の意見を聞くという意味で保護者等を対象としたアンケートの実施を予定している。行政が適正と判断した案でも、市民はそう考えていないかもしれない。市民の意向を反映させるのが目的。

- ・アンケートは9月に行う予定で、8月に設問の素案を作成する。委員の皆様には、何らかの形で事前に素案を提示し、意見をいただきながら作業を進めていきたい。
- ・もう1度皆様から意見をいただくなかで、アンケートについても考えがあれば、あわせてお願いしたい。

【委員】

- ・アンケートについてだが、配布された保護者は、自分の子どもの学区のことにしか目がいかないだろう。市内でこれだけの格差があるということを示したうえで、①総論として、市内全体についてどう考えるか、②自分の子どもの学区についてどう考えるか、というように、2つの設問を設ける必要がある。そうでないと、②だけにとらわれた回答となってしまう。
- ・議論すべき課題が多いので、2つのグループに分かれて議論するのも1つの方法ではないかと考える。

【委員】

- ・この委員会での検討対象は小学校だけでなく中学校も含まれているのか、確認したい。

⇒事務局

- ・小学校の配置は、中学校の配置にも影響を与える。小学校と中学校を分けて検討していくことは出来ないと考えている。

【委員】

- ・小学校と中学校は、当然別のものだと考えられてきたわけだが、それで本当にいいのかはわからない。市民会議で提言したように小中一貫校という考え方もある。今回適正配置を検討していくなかで、小中一貫校についても議論していきたい。

【委員】

- ・学校の適正配置を検討するうえでは、税の公平性も考慮に入れ、学校の施設をどうするかという視点も必要である。例えば学校施設を設置すべきかを検討する場合に、保護者の意見、一般市民の意見、市全体としての意見、どれが優先されるべきかなど、よく議論していく必要がある。
- ・学区のクロスがあると、コミュニティの形成が難しくなると考えられる。
- ・また、自治会として活動ができるのは、小学校の子ども会まで。半分近くが私立の中学へ進学してしまうと、中学校を中心としてコミュニティを機能させていくことは難しい。

【委員】

- ・とにかく子どもたちに、楽しく学べる環境を提供してくべき。そのための方策をこの場で考えていきたい。

【委員】

- ・適正配置を考えるにあたって、子どもの安全確保という視点も重要。例えば自治会によるパトロール活動が行われているが、地域の学区割りの関係で、遠方から通う子どもが増えると、地域のパトロール活動の目が届かなくなるといったことも考えられる。

【委員】

- ・地域の学校は自分たちのものだという考え方から、子どもが通う小学校を中心として町

会のつながりができる。学校の配置を考える際に、このことをよく踏まえておく必要がある。

- ・一般的に、ある程度の規模の学校が好ましいと考えられているが、以前に勤務していた学級数が少ない美浜北小では、悪いところだけでなく良いところもあった。小規模だから悪いと一概にはいえないと考える。

【委員】

- ・中町地区の学校は小規模校が多い。私立中学校へ進学する比率が高いという要因もあるだろうが、自らの手で魅力ある学校づくりを進めていこうとする努力も必要だろう。
- ・将来推計の結果を見ると、新町地区などでは大規模校になると想定されている学校も多い。新たな学校の設置も検討していく必要がある。

【委員】

- ・市の現状のなかで、できることとできないことがあるはず。できないこと、はまらないことは、議論の対象にはならない。
- ・可能であれば、各学校の児童生徒数をどこまで調整できるのか、あらかじめ具体的に提示したほうが良い。選択肢があれば、これよりはこっちの方がよい、とどのように判断がしやすくなる。

【委員】

- ・今回の委員会のテーマは具体的である一方で、10年、20年先という不確定な要素も見据える必要があり、ある意味では非常に抽象的ともいえる。また国による教育改革が進められているという環境の変化も取り込んでいかねばならない。いろいろな意味で難しい内容になると思うが、メンバーの知恵を借りながら、最終的に良い結論を導きだしていきたい。

【事務局】

- ・委員の皆様は、関係団体の中心の方々。このような委員会が行われていることを、それぞれの団体で伝えていただき、またこの問題に関する意見を吸い上げて、委員会の場で発表していただきたい。

7. その他の諸連絡

【事務局】

- ・本委員会は、配布した年間予定表のとおり5回行う予定だが、ここに記載した日程はあくまで予定である。次回は9月下旬の開催を想定しており、日程が決まり次第、各委員には連絡する。

8. 閉 会

以 上

(2) 第2回委員会 議事録

日 時	平成 20 年 10 月 8 日 (水) 13 : 30~15 : 00
場 所	文化会館 3階 第3練習室
参加委員	13名
次 第	
	1. 開 会
	2. これまでの経緯、及び今回のテーマの説明
	3. アンケート調査の単純集計（速報）結果の発表（一部）
	4. 今後の浦安市の「学校適正配置」「小中連携・一貫教育」について
	5. 今後の進め方、スケジュールについて
	6. 閉 会

○議事要旨

1. 開 会

2. これまでの経緯、及び今回のテーマの説明

*以下、委員長の司会により議事を進行する。

【委員】

- ・本日の議題は2つ。1つ目の先だって実施したアンケート調査の結果報告、及び意見交換。もう1つはアンケート結果とも関わるが、これからの浦安市の学校適正配置を考えるうえで、小中連携・一貫教育について事務局から説明があり、それに関する意見交換。

【事務局】

- ・資料の確認。資料1・第一回検討委員会の議事要旨、資料2・アンケート調査の集計結果、資料3・小中連携・一貫教育についての3点。また、あとで報告するが、足立区立興本扇学園に視察に行った際の資料。
- ・はじめに議事録の報告だが、今回の議事録は逐語録ではなく要旨録であることを了解いただきたい。最終的な報告書にも議事要旨は掲載予定であり、内容の濃いものとしたためである。事務局でまとめたものについて発表するので、後ほど加筆修正等あれば連絡して欲しい。

*以下、資料1に基づいて、要旨を説明。

【委員】

- ・この議事録はどんな形で、またいつ頃公表するのか。

⇒事務局

- ・議事録は委員の確認がとれ次第随時公表していく。最終的には報告書の中に盛り込む。

【委員】

- ・委員からの修正をうけて公表という段取りでお願いしたい。いつまでに修正等連絡したらよいか。

⇒事務局

- ・事務的な連絡は後ほど各委員宛に行う。

【委員】

- ・議事要旨に個人名が掲載されるのか。

⇒委員

- ・本委員会は公表されているもので、市民の関心も高い。議事録も公表されるもののご理解いただきたい。個人名については委員の了解が得られれば公開する。

【事務局】

- ・続いて議題についての説明。これまでの流れだが、7月11日に行った第1回委員会の前に庁内部会を開催しており、7月16日に事務局で足立区立興本・扇学園の視察を行った。アンケートは9月初旬に配布し、回収が終了したところであるため、本日報告する内容は一部の速報ということでご理解いただきたい。その後、適正配置、小中連携・一貫教育について、今後の方向性について説明する。

3. アンケート調査の単純集計（速報）結果の発表（一部）

【委員】

- ・それではアンケート調査結果について説明を。

【事務局】

- *以下、資料2に基づいて、アンケート調査結果要旨を説明。

【委員】

- ・この内容だと、次の小中連携・一貫教育の議題にも関連してくるので、この場ではアンケートに対する質問に限定し、意見交換は次の説明後、まとめて行う。回収率はどの程度だったのか。

⇒事務局

- ・調査票は1,702通回収したが、配布した母数は学校によって異なるので、現段階で回収率は把握できていない。後日報告する。

【委員】

- ・学校規模についてのデータは与えたのか。

⇒事務局

- ・調査票と一緒に、学校規模のデータも添付した。

【委員】

- ・大規模、小規模の学校に子どもを通わせている保護者の意見はどうなっているのか。

⇒事務局

- ・時間的な制約があり、本日の提示は単純集計の速報版のみ。次回の会では学校ごとの詳細なデータを出す。

【委員】

- ・実際の通学距離と対応させての分析は予定されているか。

⇒事務局

- ・実際の通学距離が何メートルかという設問を設けていないので、想定していない。

【委員】

- ・ある一定のサンプルを抽出して、学区の最小距離と最大距離をとって分析することはできないか。保護者によって近いか遠いかの感じ方が違うので、実際回答するときどの程度の距離を想定していたのかわかった方がよいのでは。

⇒事務局

- ・調査票に「小学生徒歩 20 分程度（中学生徒歩 30 分程度）をおおよその目安とお考えください。」と注釈をつけることで対応している。

4. 今後の浦安市の「学校適正配置」「小中連携・一貫教育」について

【委員】

- ・それでは次の議題の説明を。

【事務局】

- ・まず、アンケート調査にご協力いただき御礼申し上げます。結果についてはまだ速報なので、これから分析することをご了承いただきたい。

*以下、資料3に基づいて、適正配置、小中連携・一貫教育についてを説明。

【委員】

- ・今の説明で、適正配置、小中一貫教育について説明があったが、小中一貫教育は後で議論するとして、まずは適正配置についての意見交換をしたい。この会は浦安市の学校適正配置について検討する会であり、その結果として小中一貫という選択肢もあるという結論がでる可能性はあるが、議論の内容が逆転しないように気をつけたい。現在の学校適正配置について意見は。

【委員】

- ・自分も大規模校に子どもを通わせる保護者の視点でアンケートに回答してみたが、この調査結果は納得できるものだった。問 1-2 の大規模と感じるタイミングについては、半数以上が「行事等の参観で支障」と回答しているが、実際そのように考えている保護者もっているのではないかと思う。大規模校の数人の保護者と意見交換を行ったが、行事の際あまりに人が多くて、学校内で迷子が出たという話が出た。同じ空間で同じことができない環境はコミュニケーションや人間関係の形成においても、子どもの成長を阻害するのではないか。このようなことがあると、小規模の学校に通っている子どもと教育環境に不公平を感じる。子どもの成長過程において大変な問題であり、早急に学校規模適正化は進めるべきと思う。

【委員】

- ・昔から学校規模の議論をするときに、行事に参加できないといった視点はあまりなかった。行事を行う際の一体感、空間の一体感についてはあまり議論されてこなかった。

【委員】

- ・昔よりも行事に参加する保護者が増えているということはないのか。少子化で子どもが減っているから。

⇒委員

- ・小学校はあるかもしれない。中学校はあまり増えたという感じはしないが。

⇒委員

- ・入学式、卒業式などは、父親、母親だけでなく、祖父母まで参加するケースは増えている。児童1人につき3人+アルファの保護者が参加している。運動会、授業参観、父親参観などについても学校へ来る保護者は増えている。

【委員】

- ・保護者としては仮に1人の子どもに対して、保護者が増えたとしても許されるくらいの規模であってほしい。

【委員】

- ・運動会の参加者の推移などもデータとして残しておけば、今後必要になることがあるかもしれない。

【委員】

- ・アンケート調査で、大きすぎる、小さすぎるという回答は規模について不満と感じていると考えられるので、適正化に問題があると感じられる。問3で地域活動についての設問があり、注釈をみると「地域活動・・・自治会活動，地域福祉活動，防火・防犯・防災活動，環境美化活動など、地域をよりよくすること、暮らしやすくすることを主な目的とした地域の生活に密着した活動のこと。」とあるが、普段実際に児童生徒によるそのような活動を見たことがあまりないのだが。実際どんなことをしているのか。

⇒事務局

- ・実感として感じられないかもしれないが、防犯パトロール、環境美化活動、子ども会での活動など、様々な活動をしている。自治会活動と結びついているところは多いと認識している。

⇒委員

- ・これらの全てが学校単位での活動かどうかはわからない。保護者は学校中心に考えているので地域活動＝学校が連携している活動と思っているかもしれないが、実際は連携しているものとそうでないものがある。この点をどう考えるかは、今後の地域活動を考えていく上で大切だ。

【委員】

- ・富岡中学校では緑化活動で花を植えている。

【委員】

- ・浦安市は学校数が多くないので、ケーススタディでそれぞれの学校をみていけば姿がみえてくるのではないか。どこの学校ではこういった活動をしているというのと合わせて分析すればよい。また、大きすぎる、小さすぎると感じているからといって、不満に思っているとは限らない。学校の現状との関わりが大切だろう。

- ・アンケート結果からは、学区の変更について比較的緩やかな意見が多いが。

【委員】

- ・東小は学級数が多く、プレハブ校舎で授業を受けている子どもたちはかわいそう。できれば見直した方がいいと思うので、このアンケート調査結果には満足している。PTAとして、一番重視しているのは、学校へ安全・安心して通わせるということであり、交通安全・防犯パトロールなどを行っている。通学距離においては、その点について気にしているのではないか。目の前に学校があるのに、別の学校へ通わなくてはならないという不満が見える。

【委員】

- ・こういう議論をすると総論賛成、各論反対の傾向があるが、どう思うか。

【委員】

- ・個人的な意見としては全体を見れば近い学校に通えることと、ちょうどいい教室の数を望むと思う。学校の良し悪しもあるので、大きいからいいとも限らない。PTAとしては安心・安全であれば。

【委員】

- ・元町では反対意見が多いかもしれない。新町は地域のつながりはこれからなので、あまり反対はないだろう。

【委員】

- ・アンケート結果は浦安市全体の世論として受け止め、具体的にになった時のバランスをどうとるかが課題。

【委員】

- ・学年間の児童・生徒数のアンバランスはないのか。1年生から3年生は多いが4年生から6年生が少ないなど、現在そういった懸念はないか。

⇒事務局

- ・現状アンバランスは起きていない。大規模なマンションが建ってしまうと一時的にそういう状況も考えられなくはないが、現状どの学校も学年間の学級数は1クラスしか変わらない。

【委員】

- ・全体についてしか申し上げられないが、学校と地域との連携がかなり密になってきたと思う。10年前、両者の関係は、自治会長が入学式、卒業式に呼ばれる程度だったが、現在は地元のお祭り等にも子どもが参加しているし、自治会から学校への機材の貸し出しなども行っており、頻度も増えている。自治会と学校との連携が密になってきているという実感がある。

【委員】

- ・学校規模についての調査をやると、望ましい規模よりも少し大きめに、また少し小さめになど心理的なバイアスが出ることがある。特に教員にとるとその傾向が強い。今後、学校規模別に保護者がどう考えているのかを見ていきたい。
- ・高知県に先日学校規模調査の関連で行ってきたが、高知県内でも2つしかない『寮を持っている中学校』のうちの1校だが、統合したときに、寮の設置が条件だったそう。30年～40年前から運用されている。寮がなければ子どもは片道十数キロの距離を通わなくてはならない。月曜日～木曜日までは寮生活を行い、金曜日に自宅へ帰る生活で、教員も交代で宿泊する。浦安市ではありえない話だが、これも地域的な事情で考えられた手段。浦安市も地域の特性をどう読んでいくのが重要。学区の変更が容易に進むのかどうか、特徴を見極めていく必要がある。
- ・横の動きは学区の変更だが、もう1つ、縦の動き、小中一貫教育についてだが、事務局では資料収集を始めている。足立区の視察を行ったようなので説明を。

【事務局】

- ・小中一貫は同じ義務教育だが意外と壁がある。中高一貫教育は事例が多いのに、小中の連携については今まであまり視点がなかった。学習指導要領でも義務教育9年間で育てていくとなっているが、一貫教育までは至っていない。足立区で初めての小中一貫教育校、興本・扇学園を視察してきた。

*以下、足立区興本・扇学園のパンフレットに基づいて、要旨を説明。

- ・足立区のケースは特区申請をしなくてはならず、29回の地元説明会を経て実現にこぎつけた。今後は特区申請しなくても小中一貫教育が可能だという説明を受けている。もともと扇中学校の生徒数が減ってしまい、それに対応するために興本小学校と一緒にした。教員兼務発令や副担任制度の導入、新教科の設定などの取り組みを行っている。校長1人、副校長3人。行事では運動会が大変盛り上がるという説明だった。

【委員】

- ・実感として、浦安市では小学校は子ども、中学校は大人でもないし子どもでもなく、地域との関わりもなくなると感じている。言い方は悪いが中学生に小学生が毒されるような懸念はないのか。

【委員】

- ・いい意味での緊張感はあると思う。中学生からみれば後輩がみているから兄貴分らしく振舞うとか。兄弟が少ない家庭が多い中で、年下の子どもと触れ合う機会が増えるのはいい。小学生からみれば、お兄さんになったらああなりたいと思われるような行動を中学生が取ればよいのでは。小学生の期待を裏切らないように。

【事務局】

- ・興本扇学園では、5年生の隣に7年生、6年生の隣に8年生と、わざと離れた学年を隣同士の教室にしている。これはやはり年齢が近い学年同士を近づけると引きずられるため、

あえて違う学年を隣にすることで、効果を狙っているとの説明だった。

【委員】

- ・今の子どもは思春期が早く、5～6年生で思春期を迎える子どもも多い。子どもたちの成長段階に合わせた教育という視点からみると6・3制では弊害があるという見方もある。

【委員】

- ・小中一貫教育にはメリットがあると思う。ただ、心配なのは、デメリットと考えられていることをどう克服するか。いじめの問題など、足立区からは何かコメントがあったか。

⇒事務局

- ・足立区も一貫校設立後まだ間もなく、結果が出ていない。現在模索中とのこと。今後データは必要だと思う。

5. 今後の進め方、スケジュールについて

【委員】

- ・今後の会でアンケートについても詳細なデータが出てくる。それを見て具体的な議論を進めたい。
- ・この委員会はあくまで適正配置、規模に関するもの。従来学校配置検討時は単純に学区の線引きや足し算引き算で考えられることが多かったが、今後は検討を進めて行く中で、たとえば、一つのアイデアとして小中一貫教育も考えられるということになるだろう。浦安市として小中一貫教育をやることになれば、検討事項も多く、また新しく別の会議を設けて考えていなければならぬ。そうすると幼稚園の話もでてくるだろう。
- ・今後の委員会の進め方も含めて、小中一貫教育については事務局からアイデアを出してもらい考えていきたい。

【事務局】

- ・委員会は年間5回予定しているが、今回で2回が終了した。次回には具体的な案を提示したい。サンプルは多くないが、学校別の調査結果を出し話し合いができると思う。次回は事前に資料を送付する予定。

6. 閉 会

以 上

(3) 第3回委員会 議事録

- 日 時 平成 20 年 11 月 26 日 (金) 13 : 30 ~ 15 : 20
場 所 市役所 第 2 庁舎 204 ・ 205 会議室
参加委員 12 名
次 第
1. 開 会
2. これまでの流れ
3. 議 事
(1) アンケート調査結果等について
・ 調査の概要と調査集計結果の発表
・ アンケート結果からポイントとなる事項の説明
・ アンケート調査結果の分析結果の発表
・ 質疑応答、感想・意見の聴取
(2) 今後の委員会での議論の方向性について
4. 事務連絡・閉会

○議事要旨

1. 開 会

2. これまでの流れ

- * 事務局より、前回議事録（資料 1）の内容について確認。
 - ・ 異論なく、了承される。

3. 議 事

(1) アンケート調査結果等について

- * 事務局より、資料 2. 3 にもとづき、アンケート調査結果について説明。
- * 続けて事務局より、資料 4 にもとづき、アンケート調査結果から分析した内容について説明。

【委員】

- ・ 事務局からアンケート調査結果と分析内容について説明があった。前回の単純集計に続いて詳細にみた内容を発表してもらったが、各委員からこれについての意見や感想、また質問などをお願いしたい。

【委員】

- ・ 入船中、美浜中が小規模校として分類されているが、来年度は学校選択制度により両校に入学してくる生徒は増加する予定。その結果、小規模校ではなく適正規模校になるものと考えられる。
- ・ 学校選択制度により学校規模の適正化が図られていく傾向が見られ、制度として有効に

機能しているといえる。

【委員】

- ・適正配置に関する保護者の考え方の傾向を見て、もっともだなと感じた。
- ・歴史がある学校と新しい学校では意識に違いがあることもわかった。
- ・学校選択制度については、その利用は小学校から異なる学区の中学校へ移るということであり、その結果、学校と地域とのつながりが希薄になることが危惧される。

【委員】

- ・アンケート結果によると、小規模校では「友人関係が固定化する」という意見が多い。学校では、一度いじめにあうと、長くそのままその状態が続くという声も聞く。
- ・また、同じく小規模校ではP T A役員等の負担が多いことも指摘されているが、実際に役員決めの際に逃げてしまう保護者も少なくない。

【委員】

- ・小規模校、大規模校というが、時代の流れがあるので、規模にそれほどこだわる必要はないのではないか。
- ・学校を自由に選択できることは大事なこと。学校配置も時流を考慮し、今後を見据えた方向で考えていくべき。
- ・それぞれの地区や学校には、それぞれの特色がある。すべてを同じような学校にするのではなく、特色を活かしていくべきである。従来通りではなく、何かを仕掛けていく、前進していくという意識が求められる。

【委員】

- ・アンケートで、学校別の成績やクラブ活動といった要素も取り入れて分析していくのも一つの手法であろう。
- ・アンケート結果を見ると、大規模校では自らの子どもの学校の規模を「ちょうどよい」とする回答が多いのに対し、小規模校では「小さい」との回答が多いことがわかる。大規模校よりも小規模校で「何とかして欲しい」と考えられているようだ。

【委員】

- ・全体の6割が、自らの子どもの学校の規模を「ちょうどよい」としているが、満足していない比率が4割と少ないことが意外だった。全体として、学校の規模にそれほど不満を感じていないのではないか。
- ・地域活動に関しては、新町地区で「活発」という結果が出ているが、これは地域の人間関係が希薄であることの裏返しではないかと感じた。地域のつながりを学校での活動を通してやっていきたいという願いが込められているように思われる。

【委員】

- ・大規模校対策として、「増築等」より「学区の見直し」が多いことがわかった。また小規模校対策は「統合」より「学区の見直し」が多くなっている。全体として施設で対応するよりも「学区で対応を」という傾向が強いことを認識した。

【委員】

- ・学校規模を「ちょうどよい」とした回答が6割を占めたが、事務局としては「大きい」

「小さい」との回答がもっと多いものだと考えていた。

- ・ただし、これらの回答の対象が特化されていることもわかった。今後各論として具体策を検討していくなかで、詳しくみていく必要がある。
- ・学校選択制度については、都内では廃止の動きも出てきている。コミュニティとの関係も含めて、今後議論していく必要があるだろう。

【委員】

- ・子どもの絶対数が増加した大規模校では、現実的に増築や学区の変更などの対応が必要になる。そうした場合に、このアンケート調査の結果は参考になる。
- ・これまで大規模校対策としては、北部小での2層へのプール設置、富岡小の新設東野小への分離などを行ってきた。日の出南小については、まだ具体案が示せずにいるが、今後対応策を施していく必要があると認識している。

【委員】

- ・大規模校については、課題は多いと考えていたが、アンケート結果から見ると、それほどでもない、ある程度は容認されているように見受けられる。
- ・一方、小規模校については、統廃合に対する抵抗が思ったほどではないと感じた。ただし、実際に対応策を進めていく際には、この数値だけで捉えるのではなく、さまざまな要素を考えていくべきであろう。

【委員】

- ・小規模校対策としては「統廃合」が究極的な結論であろうが、「学区の見直しで」という回答が多かった。「統廃合するよりこのままで」という意識の現れであろうか。「学区の調整で」ということは、保守的な回答だと考えられる。現状容認の意見が多い中で、説得力のある提案を示していかないと、市民の支持は得られないだろう。
- ・子どもの数、耐震性なども含めた施設の水準等も考慮していく必要がある。

【委員】

- ・このアンケートは提案を導き出すことを目的としたものではなく、市民の意識の現状を把握するためのもの。そういう意味で市民の意向の全体像の把握はできた。
- ・これを材料として、今後どういった提案をまとめていくかが、この委員会の役割である。
- ・こうした視点から、各委員から意見をいただきたい。

【委員】

- ・大規模校、小規模校という区分けでは、大規模校はプールの2層化など、ある程度の対応策は既に出ている。小規模校対策に絞って意見交換をしていったらどうか。

【委員】

- ・次回の第4回委員会で、テーマを絞って議論を行う予定。「小規模校対策」はそのときに突っ込んだ議論をすることとしたい。
- ・今日は、テーマを定めずに、フリーに幅広くいろいろな意見をいただきたい。

【委員】

- ・入船北小と美浜北小で「小さい」との回答が多い。しかし「小さいから良い」という意見もあるはず。一人一人に目が行き届くことで成績が良くなるということも考えられる。

そうした意味で、先ほど成績との関連性も知りたいと発言した。

- ・適正規模の箱の中に子どもたちを入れるという考え方だけでいいのだろうか。成績のこと、クラブ活動のことなども考えなくてはならないだろう。

【委員】

- ・小規模校は、学校全体がまとまりやすいなど良い点はたくさんある。ただし、クラスが固定化されるなどの問題点も少なくない。大規模校についても、良い点、悪い点はある。
- ・学力に関しては、どの学校も当然一生懸命に対応している。大規模校でも小規模校でも、各学級を受け持つ担任は一人と同じ。学校の規模には関係ない考える。

【委員】

- ・教員の視点からみると、大規模校でも小規模校でも、出張や教科指導のため一人の先生が学校を離れなければならない頻度は同じ。それによりあく穴を埋めるために、小規模校の方が、負担が大きいといえる。

【委員】

- ・保護者にとって、子どもの学校が大規模校、小規模校ということは気になるものだろうか。

【委員】

- ・小規模校はクラス替えができないため、いじめがあってもそのままのクラスでずっとになってしまう。そういった面もあり、学校選択制度では、小規模校から大規模校へ動くケースも見られる。

【委員】

- ・品川区などでは、学校がいったん小規模化すると、加速度的にその傾向は強まっている。小規模校の方が学習指導は丁寧に行えるかもしれないが、学校生活全体をみると、小規模校を敬遠する保護者が多くなっていることは事実である。
- ・一般的にアンケート調査では、年齢が高い層を回答者とするもので「学校の統廃合反対」とする傾向がよくみられる。現在の保護者より、もう一つ上の年齢層で、自分の出身校をなくしたくないという考えを持つ人が、特に地方では多い。浦安ではどうなのか、そのあたりも丁寧にみていく必要があるかもしれない。

【委員】

- ・小規模校対策でも大規模校対策でも、「学区の見直しを」という意見が多い。学区の調整がどの程度可能なのか、事務局から示していただくことは可能か。

【委員】

- ・学区の変更は、さまざまな要因が絡む繊細な問題である。過去の例でも、案を示すとそれが一人歩きしてしまい、收拾がつかなくなるケースがあった。

【委員】

- ・学区の見直しの検討も1つの選択肢としてももちろん必要である。ただし、それができないケースもあり、その場合はどうするか、別の検討が求められる。

【委員】

- ・1つのパターンではうまくいかないようである。どのように整理していくか、委員会としてこれから知恵を絞っていく必要がある。

【委員】

- ・現場の学校の先生方が、どう考えているかについても把握する必要があるのではないか。

【委員】

- ・そうした意味で、学校の代表として2名の校長先生に委員として参加していただいている。

【委員】

- ・バスに関する設問についてだが、基本的に大規模校から小規模校への移動により、各校の適正規模化を図ることが目的だと考えられるが、逆にバスで小規模校から大規模校へ移りたいという声が上がってくることも予想される。その点について事務局の考えを聞きたい。

【事務局】

- ・経済性を考えたとき、学校を新たに設置するよりは、バスでの移動で対応した方が当然コストは安い。本設問は、あくまでもバスでの移動による規模適正化の可能性を検討するために設けたもの。
- ・市で将来通学バスを運行しようという計画は、現状ではない。浦安市は市域が4km四方と狭く、どこへ行くとしてもそれほど遠いわけではない。

【委員】

- ・浦安市ではコミュニティバスは運行されているのか。また、それは子どもの通学用に利用されているか。

【事務局】

- ・コミュニティバスはある。学校選択制度で遠い学校に通う子どもで利用している例もある。

【委員】

- ・現状では、通学距離が最も遠い例でも2km程度。バスが必要というほど遠いというわけではない。

【委員】

- ・最大でも30分程度で通うことができるはずである。

【委員】

- ・「便利さのためのバス」ということではなく、「バスが子供たちの安全のために必要か」という観点で考えるべきだろう。
- ・自治会としては、子供たちの社会性という面を重視したいと考えている。「先生の視点」ではなく「子どもの幸せ」を第一に考えていく必要がある。こうしたことを認識したうえで適正配置を検討していかななくてはならない。何よりも子どものことを第一に考えるべきである。

【委員】

- ・空き教室を他の目的のために活用することについてだが、こうした事例は全国的に広がっているのか。

【委員】

- ・高齢者や子どもなどを対象とした複合施設はできてきている。品川区では「世代を超えて交流する施設」という建前で、高齢者向け、子ども向けといった施設が各階に入る7～8階建の複合施設がある。ただし実際にそれぞれの交流は行われていない。
- ・日本人の年齢構成から考えて、こうした施設は今後増加していきだろう。ただ、浦安市の場合は若い層が多いため、こうした施設が必要になるのはもう少し先だと考えられる。

(2) 今後の委員会での議論の向性について

【事務局】

- ・本日の委員会では、各委員からいろいろな意見をいただいた。なかでも「子どもの社会性」「安全・安心」などはキーワードだと考えられる。
- ・今回の議論を踏まえて、1月下旬に開催予定の第4回委員会においては、児童生徒数の推計も交えながら、テーマを絞って具体的な案を想定し、それについて議論を行っていききたい。

4. 閉 会

以 上

(4) 第4回委員会 議事録

日 時 平成21年1月27日(火) 10:00~11:50

場 所 文化会館 3階 第2練習室

参加委員 13名

次 第

1. 開 会
2. これまでの流れ
3. 議 事
 - (1) 今回の委員会の進め方について
 - (2) 浦安市の学校適正配置の今後の方向性について
 - ・大規模校対策
 - ・小規模校対策
 - ・小中連携・一貫教育について
4. 事務連絡・閉会

○議事要旨

1. 開 会

2. これまでの流れ

- *事務局より、前回議事録の内容について確認。
- ・異論なく、了承される。

3. 議 事

(1) 今回の委員会の進め方について

- *事務局より、資料にもとづき、進め方について説明。

(2) 浦安市の学校適正配置の今後の方向性について

- *事務局より、資料にもとづき、大規模校対策、小規模校対策の事務局案を説明。

【委員】

- ・事務局から説明のあった大規模校対策、小規模校対策の説明についてメンバーから意見を出していただくが、その前に小規模校対策のなかで必然的に絡んでくると考えられる小中連携・一貫教育についても説明いただきたい。

【事務局】

- ・次年度に浦安市としての教育ビジョンの策定を予定しており、その中で浦安市が小中連携・一貫教育についてどう考えていくかを検討していくことになる。本会議は、あくまでも学校の適性規模・適正配置を検討する場。小中連携・一貫の話は、そのなかの方策の1つとして位置づけられるものと認識している。

【委員】

- ・市として小中連携・一貫教育をどう捉えていくかについては別の場で詳しく検討することになるが、一方で本委員会では、適正配置のための方策の一つとして検討したいということだと理解した。
- ・事務局説明では、小規模校対策では具体的に学校名が出ているのに対し、大規模校対策では学校や地域の名前が出ていない。対象として想定している案はあるのか。

【事務局】

- ・ピーク時に 30 学級以上となる過大規模校としては、富岡小、日の出南小、南小が想定されている。
- ・富岡小については既に 30 学級を超えているが、東野小の新設により、2 校に分離することが決定している。日の出南小は、事業者が今後の開発を数年に分けて行うように要請したことにより入居者数が平準化し、ピーク時でも 30 学級程度でおさまることが予想されている。南小はピーク時で 30 学級前後となっている。
- ・25～29 学級の大規模校は、北部小、東小、高洲小があるが、これらの学校にも対応は行っていく。地域の施設とうまく複合化して、耐震化とあわせて生涯学習施設や社会学習施設の充実とからめた対応ができないか検討していく。ただし、各学校別に都度考えていく必要があり、詳しく詰めてはいない。
- ・こうした過大規模校、大規模校が対象となると考えている。

【委員】

- ・小規模校対策の案として小中連携・一貫という話があったが、そもそも浦安市として、小中連携・一貫教育を目指すというビジョンがあるのか。その点を明確にしないと、議論が進まないと考える。
- ・また、大規模校対策のイメージ図にある、アリーナとサブアリーナという施設は、具体的にどのような施設を想定しているのか確認したい。

【委員】

- ・学校の保有教室とのからみもあるだろうから、30 学級を超える過大規模校では施設をどうするとは一概にいけないのではないかと。

【事務局】

- ・確かにその点を明確にしておく必要がある。ピーク時が 30 校となる過大規模校とされる学校では、保有教室は南小は 32、日の出南小は 31 で、その範囲でとりあえずの対応は可能である。

【委員】

- ・大規模校をないがしろにするわけではないということは理解できた。立体的に増改築するという案は現実的だと思うが、施設の増設について説得力のある具体的な話を聞きたい。

【事務局】

- ・サブアリーナ、アリーナの立体的な施設配置については、30 学級以上になると、体育館が不足するようなケースを想定してのもの。例えば体育の授業をサブアリーナ・アリーナに分けてできるような立体的な施設とし、加えてサブアリーナは地域の住民がコミュ

ニティ活動などもできるような複合的な施設とすることをイメージしている。

【委員】

- ・生涯学習施設・社会教育施設としても機能するものという位置づけだと考えられるが、そのあたりを文章で明確に表記した方が良い。学校施設が、地域で求められているさまざまな機能も果たすことができる、複合的な施設として役割を担えることになる。
- ・ただ、このイメージ図では、全ての学校でアリーナ・サブアリーナが設置されると考えられてしまう可能性もある。浦安市全体のことなのかどうか、はっきりさせないと無用な混乱を招く。掲載するなら一般的なイメージだという注記が必要であろう。

【委員】

- ・大規模校対策としては、富岡小の問題は解消したが、それ以外の学校は依然として問題があり、特別教室にも限りがある。この先学校をつくるなら、複合施設としての用途を当初から考えておけば、児童生徒数が減少したときに地域住民も活用できるだろうし、社会人の利用ということも考えられる。方向性としては良いのではないかと思う。

【委員】

- ・増改築するにしてもスピードが重要だと思う。児童数の推移を見ていると、急激な減少もある。今は大規模でもいずれ減っていくのだから、今つくることはないというような話になると、この委員会自体意味がなくなる。スピードが大切。

【委員】

- ・都市部の人口は急激な増加・減少が特徴であるが、従来の発想だと一時的なことなので我慢すればいいという議論が出てきがち。どのように対応していくかを検討しておく必要があるだろう。

【委員】

- ・大規模校は現状維持プラス増改築、小規模校は小中一貫を含めて総合的な対策という事務局案で基本的に良いと思う。将来の変化を前提に考えていくことも大切である。
- ・児童生徒数の推計の表をみると、南小は平成 30 年まで 1,000 人前後で推移するので大規模校だといえる。南小では、提示されているイメージ図のサブアリーナ・アリーナを立体的に増築するということなのか、それとも体育館を新しくつくるという理解なのか。
- ・また、不足教室とはどのような意味か。

【事務局】

- ・南小はピーク時でも保有教室内でおさまるが、必要に応じた増改築は施していくべきだと考えている。
- ・アリーナ・サブアリーナは、こうした対応が例として考えられるというイメージ。各学校で必ずしも増築したり、新たにつくるということではない。
- ・不足教室は、北部小学校では不足した教室対策をこのような手法で対応したことから、他でもこのような形態が想定されるという意味。これもどの学校でもおこなうということではない。

【委員】

- ・例えば南小をどうするかなど、具体的な説明がないとわかりにくい。南小は 1000 人規

模の状態が続く、施設面を充実する必要がある、だからこうするという具体策を整理した方がわかりやすい。

【委員】

- ・個別の学校をどうしていくかについては、この後の各論を議論する段階での話になると思う。現時点では行政の立場からは提案しづらいと思う。

【委員】

- ・学級数が保有教室を上回るなら増築を考えなくては行けないが、そうなったらイメージ図のように考えるということだろう。学校の敷地の問題なども含めて、個別の学校ごとに考えていく必要がある。全ての学校で対応することは難しい。
- ・また、現在ほどの学校でも地域の力を借りて運営しており、地域住民が利用できる場を設けるという考え方は良いと思う。

【委員】

- ・次は小規模校について議論していくが、こちらは具体的に記載されている。大規模校対策と記載の次元をそろえた方がよいだろう。

【委員】

- ・事務局案の字ごとの統合という方向性は良いと思う。ただし、学区が広がることによって子どもの安全対策は問題になる。
- ・また、入船地区の小中連携・一貫校ということになると、入船中には高洲の子どもが通っているから、高洲中も設置する必要があるということになるだろう。

【委員】

- ・「学校を統合することで学校規模を適正化する」ということを、ある程度ははっきり明示すべき。方向性として、統合という言葉を入れる必要があるのではないか。

【委員】

- ・統合という方針は、はっきりと打ち出すべきであろう。

【委員】

- ・美浜地区の3校を統合すると美浜南小はなくなるということか、それとも学校は残してソフト面での一貫教育なのか、あるいはそこまでは考えていないのか、事務局に確認したい。

【事務局】

- ・もし統合が実現すれば、美浜地区で小学校1校、中学校1校ということになるが、このことは本委員会では決定できる問題ではない。ただ、事務局としては美浜地区に小学校1校、中学校1校、入船地区に小学校1校、中学校1校が適正配置だと考えている。案として提示したい。

【委員】

- ・イメージを示すよりも、美浜地区の2小学校1中学校を統合して「美浜学園」とすべきかどうかを、はっきりと議論すべき。こうした施策は思い切った方針として打ち出すべきと考える。

【委員】

- ・各学年単学級の小学校は弊害が多い。小学校1校、中学校1校になっても、指導数の上限から考えても対応できる。入船と美浜という名前が残れば、子どもの教育の面、コミュニケーションの面からみても、良いのではないか。

*事務局より、今後10年間の学校別の児童生徒数の将来推計の結果について説明。

【委員】

- ・統合しても人数に問題がないということでもあり、小中連携・一貫教育の方式を、モデル地区として入船・美浜地区で取り入れていくということで良いのではないか。

【委員】

- ・児童生徒数の今後の推移をみながら検討していく必要がある。美浜・入船地区の小学校の児童数が200~400人程度であり、統合しても600人程度で推移する。このくらいの規模の学校ができるということで整理できる。
- ・その一方で、現在児童数が少ない浦安小、児童数が増加の後に急減が予想される明海南小などの対策も考えていく必要がある。

【委員】

- ・小規模校の統合の根拠は概ね理解できる。ただ、小学校の統合と小中連携・一貫教育とを併せて提示して良いかとなると、もう少し議論をしないといけないのではないか。保護者の視点からみると、小学校同士の統合なら理解できるが、そこに中学校が入ってくるとなると少し抵抗があるだろう。

【委員】

- ・小規模校と大規模校の対策については委員の共通の理解が得られるかを確認する必要がある。小規模校対策について「統合」という文言を入れるかについてどうか。

【委員】

- ・小規模校対策の統合という結論に異論はない。示し方としてやるかやらないかを明確に出していくべき。
- ・大規模校対策については、「原則として学区の変更は行わないが、必要に応じて調整を行う」という表現は問題があるのではないか。「行わない」は1つの意思表示のはず。
- ・調整に言及するなら、「立体的な施設の増築」のなかで、推計が違った場合には学区もこうするというように表現すべきだろう。

【委員】

- ・大規模校対策のなかで、地域も利用できる施設を設置する可能性が示されているが、学校と一緒に利用するとなると、両者の間で軋轢が生じる可能性がある。そうした面で十分な配慮が必要になる。
- ・また、美浜・入船、それぞれの小学校を統合すると、子どもたちはシンボルロードを渡って通学することになる。安全対策も十分に講じていく必要がある。

【委員】

- ・大規模校対策の方向性としては、施設面で対応すればよいということではないはず。ま

ず「学区は変更しない」ことを前提として、次に「ソフトで可能な対応を行う」、その次に「施設で対応する」と、3段階での方針とすべき。

【委員】

- ・大規模校対策と過大規模校対策の区分が曖昧な気がする。
- ・提示されている大規模校対策のイメージ図は、どういう場合に行うのかなどについて、文章や図ではっきりと示しておいた方がよい。

【委員】

- ・過大規模校と大規模校は、あえて分ける必要はないだろう。

【委員】

- ・一般市民の感覚としては、過大規模校は富岡小のみというイメージだった。分校の設置によって対応が施され、この問題がクリアされたと感じている。その次の課題として、次に大きな規模の学校をどうするかということだろう。

【委員】

- ・小規模校対策として、小中連携・一貫教育という方向性は考えられる。時代の流れもその方向にあるといえる。ただ、小規模校対策は、それしかないのか。難しいとは思いますが、他の案も検討できないか。

【委員】

- ・シンボルロードを挟んだ統合では、児童の通学の安全に十分な配慮を行っていく必要がある。
- ・また、仮に統合を打ち出すとしても、美浜学園、入船学園といった名称の掲示や、どちらの小学校を廃止するといったところまで示すのはどうかと感じる。「統合すべき」の表現くらいにとどめておくべきではないか。

【委員】

- ・本委員会として、「小中連携・一貫教育を目指す」と結論づけるには、もう少し議論が必要である。「検討していくべき」程度にすべき。

【委員】

- ・小規模校は統合すべきという方向性は、委員会のメンバーに異論はないはず。そのうえで次にどうしていくべきか。市の政策をはっきりと打ち出すべきである。小中連携・一貫教育をモデルケースとして行うのも1つの考えである。

【委員】

- ・本委員会は学校の適正配置を検討する場。ここでいきなり小中連携・一貫教育を行うべき、と打ち出すのは難しいと考える。

【委員】

- ・この委員会で小中連携・一貫教育については論じないで、別の場に任せるというのも1案。また適正配置を進めるための選択肢として提示するのも1案であろう。
- ・事務局では、今回の報告書をどのようにまとめたいと考えているか。

【事務局】

- ・具体的な方向性を示していきたい。「統合も考えられる」のような抽象的な結論で終わるのではなく、来年度につながる形で、ある程度具体的な方向性を提示したいと考えている。
- ・先般、横浜市でも小中一貫教育の方針が打ち出されたが、実施できるのは12年度から。方針決定から実施までは時間がかかる。方針をできるだけ早めに決めるために、その検討材料となる具体案を提示したい。

【委員】

- ・今までの議論を受けて、個々のメンバーから意見を。

【委員】

- ・大規模校対策、小規模校対策とも、浦安市ではこれまでずっと議論されてきた。この問題では、市全体としての資源の有効活用という視点も必要であろう。

【委員】

- ・大規模校対策の基本的な方向性は良しとして、それをどのように表現するかについては、検討が必要だろう。

【委員】

- ・大規模校対策、小規模校対策にスピードを重視して取り組んでいく必要がある。

【事務局】

- ・イメージ図について、いろいろな意見をいただいた。参考にして考え方を整理していきたい。
- ・ただ、この議論は何年にも渡って行っているが、なかなか前に進んでいない。そろそろ方向性を決めて対応していくべき時期に来ているはず。この委員会の成果として、1つでも2つでも具体的な方向性を打ち出すことにしていきたい。

【事務局】

- ・浦安市では少人数教育の充実を理念に掲げている。統合が行われても、それが揺るがないことを打ち出していくべき。

【事務局】

- ・大規模校対策はハード面だけでなく、ソフト面での対応も考えていくべき。
- ・小規模校対策については、どのように方向性をまとめていくのか、できればこの場で明確にしたい。そうでないと来年度につながるものにはならない。

【委員】

- ・今回、はじめて小中連携・一貫教育の話が出てきた。方向性は正しいと思うが、具体論についてはもう少し議論を深めた方がよいと感じた。
- ・小規模校、大規模校への対策は総体的にはこれでよいと考えるが、わかりやすい表現としてもらいたい。

【委員】

- ・小規模校対策としての学校の統合については、確かに課題はあるが、危機感は待ったなしの段階に来ている。問題があるのは承知しているが統合を行うべきという結論でよいと考える。

【委員】

- ・個人的には小中連携、その先の幼少中連携が望ましいという考えを持っている。
- ・総論賛成各論反対というのが、世の中の常だが、効果が期待できる新しいことには前向きに取り組んでいくべきであろう。

【委員】

- ・新しい試みは、やっていくべき。小中連携・一貫教育について、議論を深めたなかで進めていくべきであろう。

【委員】

- ・統合には良い面もあるが、さまざまな問題もある。統合したあとにどのようなメリット、デメリットがあるかを整理して検討を進めていくべき。

【委員】

- ・小中連携・一貫教育は、小規模校対策だけの施策ではない。大規模校でも小中連携・一貫教育は必要。小規模校対策との組み合わせのみで論じると矮小化されてしまう危険性がある。
- ・浦安市のビジョンとして、どのような教育を目指すのか。報告書の章立てを考える際には、対策を論じる前にそうした面や外部環境の変化などについて記載すべきであろう。

【事務局】

- ・対応にスピードが求められている。この委員会の提案として、来年度の教育ビジョン策定につながる内容が必要である。

【委員】

- ・こうした委員会の報告書は現実的なまとめ方とするケースが多いが、ビジョンを語ることも大切であろう。さまざまな環境の変化のなかで浦安市の学校適正配置を検討していく、今後の作業としては、委員会での意見を踏まえて、考えを具体的に文章化していくことになる。

4. 事務連絡・閉会**【委員】**

- ・事務局より、今後のスケジュールについて、説明を。

【事務局】

- ・今回の委員会は、浦安市の今後 10 年間の学校適正配置の方向性を検討するものであり、その内容をできるだけ具体的なものとしてまとめていきたいと考えている。
- ・今回の委員会の議論を踏まえて、その内容を文章に整理して、メンバーに提示したい。
- ・次回、最終回の委員会は 3 月 3 日の午後を予定している。

以 上

(5) 第5回委員会 議事録

日 時 平成21年3月9日(月) 14:30~15:45

場 所 文化会館 3階 中会議室

参加委員 11名

次 第

1. 開 会
2. 議事録の承認
3. 議 事
 - (1) 報告書のとりまとめ(案)について
 - (2) 来年度の方向性について
4. 事務連絡
5. 閉 会

○議事要旨

1. 開 会

2. 議事録の承認

- *事務局より、前回議事録の内容について確認を求める。
 - ・異論なく、了承される。

3. 議 事

(1) 報告書のとりまとめ(案)について

【委員】

- ・本日は報告書案の内容についての議論と、その承認が主な内容となる。事務局より報告書案についての説明を。

- *事務局より「第2次学校適正配置検討委員会 第5回部会議事のポイント」に従って、第5回部会で検討された内容について説明。

【委員】

- ・確認だが、「第2次学校適正配置検討委員会 第5回部会議事のポイント」とは、第4回委員会の際に意見が出た内容に関して、第5回の部会で行われた議論を整理したものという解釈でよいか。

【事務局】

- ・そのとおり。この委員会のほかに庁内で組織する部会があり、第4回の委員会の内容について、その部会で議論した結果である。

- *事務局より、資料にもとづき、報告書案について説明。

【委員】

- ・第4回の委員会までで議論された内容が文章化され整理されたものが、今回報告書案として提示された。全体的には、委員会の議論がうまくまとめられていると感じる。各委員には確認をお願いしたい。また、意見があれば提示いただきたい。
- ・事務局から修正のポイントとして6点があげられているので、まずこれらについて確認していきたい。
- ・「(1) 対策を行う対象の具体的な学校名は、4章では出すべきではない」という点については、「4章はあくまでも方針を提示することにとどめ、5章で小規模校対策として考えられるモデル校として具体的な学校名を記載する」という扱いにしたということである。これについて意見は。

→異議なし

- ・「(2) ソフト面の対策とはどういうことかはっきりしない」という点については、「指導方法の工夫、教職員の配置、資質の向上」と加筆したとのこと。ハード面、すなわち箱だけで対応するのではなく、人材の育成なども同時に必要だという意味だと考える。これについて意見は。

→異議なし

- ・「(3) 小規模校対策として単純に統合と示すと、小規模校同士の統合（美浜北小と入船北小の組み合わせ）がイメージされる」という点については、地域性を十分に考慮した取組みが必要という趣旨で、「統合」のまえに「地域コミュニティを配慮した」と加筆されている。

【委員】

- ・この部分の表現については、やや違和感を抱く。地域コミュニティが重要なのは小規模校学区に限った問題ではない。地域コミュニティとのあり方は学区の大きさに関係ないと思う。「地域性への配慮」を、小規模校対策の結論を導き出すために、あえてここに加えたような印象を持つ。小規模校対策としては、単純に「統合を推進すべき」で良いのではないか。

【委員】

- ・地域コミュニティの問題は大規模校でも小規模校でも配慮が必要であり、そういう意味で表現を見直したらどうかという指摘である。

【委員】

- ・大規模校については地域コミュニティに配慮しないという意味ではないだろう。統合は数あわせのためのものではなく、地域コミュニティに配慮して行うべきという点を強調するための加筆であり、原案の表現のままで良いと考える。

【委員】

- ・数あわせではない、地域の一体性を考えるべきという視点は重要である。

【委員】

- ・「(4) 4章と5章のつながりを明らかにすべき」という点については、その対応策として、報告書24ページの文章が加筆されている。本来的に本委員会で議論すべき内容は4章までだが、これまでの議論の推移を考えると5章に記載されている内容も重要だと考えられ

る。5章の詳細な内容については、改めて別の委員会などで検討してもらおうとしても、方向性については委員会の提案として提示したいという趣旨だと考える。文章もその流れで記載されており、概ねこれで良いのではないかと。

→異議なし

・「(5) 小中連携・一貫教育が小規模校対策だとのイメージを受ける」についてだが、対応策として、小中連携・一貫教育そのものが考え方であり、将来的には市内のすべての学校に導入すべきとの文章が記載されている。また、「(6) 小中連携・一貫教育の全体像がわかりづらい」もこれに関連したことで、対応策として図表がまとめられている。これらについて意見は。

→異議なし

- ・特に大きな意見はないようなので、事務局から修正してもらったこの6点については、基本的に委員会として了承することにしたい。
- ・他に意見があればお願いしたい。

【委員】

- ・小規模校対策の考え方、今後の子どもの数の推移、デメリットなどについて整理されており、小規模校対策についてはこのようなまとめ方でよいと考える。
- ・ただ小中連携・一貫教育について記載されている量が多く、そちらに重きが置かれているような印象を持った。

【委員】

- ・重要だと考えられる現状の把握もできており、方向性も理解できるので良いと思う。今後はこれを踏まえて、実質的な活動を進めていく必要があるだろう。

【委員】

- ・12 ページの大規模校小規模校のメリット、デメリットの表で、「小規模校のメリット」の欄が空欄になっている。教師と連絡が取りやすいなど、メリットもあるはずである。

【委員】

- ・大規模校学区でも小規模校学区でも、地域のつながりはある。どちらも同じように地域コミュニティは重要だという考え方には賛成である。入船北小と美浜北小の統合であれば、美浜地区、入船地区それぞれの地域性が失われる恐れがある。統合は地域コミュニティに重きをおいて検討して行って欲しい。

【委員】

- ・前回の検討委員会（平成13年度開催）ではアンケート調査を行っていないが、今回はきちんと調査を行ったので、市民の意見を把握するという点で大きな意味があったと思う。
- ・5章について話し合う時間がもっとあれば、より深い議論ができたと感じる。報告書のまとめ方はこれでよいと思う。

【委員】

- ・全体の方向性は良いと思う。
- ・小規模校対策の対応方針の記載方法については、表現で工夫ができれば対応していただきたい。

- ・小中連携・一貫教育を推進していく方向性は賛成だが、この委員会で議論は十分に尽くされてはいないと思う。今後、何らかの他の場で、もっと議論を重ねていくべきだと感じた。

【委員】

- ・28 ページで「中小連携・一貫教育を将来的に市内すべての学校での導入をめざしていくべき」とあるが、委員会でそうした結論までは出ていないと思う。「導入を検討していくべき」程度の表現のほうが良い。

【委員】

- ・小中連携・一貫教育について、さしあたって現実的な対象として検討できるのは小規模校であるが、工夫を施していけば、将来的には大規模校も対象として考えていくことができると思う。大規模校対策としての小中連携・一貫教育も考えられるわけで、例えば、大規模な小学校から中学校に児童を移すという可能性も考えられる。市内の状況をみて、小学校の大規模校解消にもつながる手法を考えても良いのでは。
- ・報告書にコミュニティスクールについて記載があるが、浦安市では中学校区を対象とした中学校区支援協議会による活動が既に行われている。現在行っている施策の目玉であり、これについての話題を絡ませた方が、いきなりコミュニティスクールの話を出すより、スムーズな流れになると思う。

【委員】

- ・千葉県にはまだコミュニティスクールが1校しかない。すぐに設立までもっていくのは難しいかもしれない。

【委員】

- ・報告書のなかの表現についてだが、1 ページに「昭和 40 年代以降の埋立てにより」とあるが、埋立ての開始は昭和 39 年である。「昭和 50 年代以降、人口は急激に増加」も、正確には「40 年代後半から」だと思う。誤解を招かない表現に修正して欲しい。また、同じく 1 ページに「平成 13 年度の第 1 次委員会を流れを踏まえて」とあるが、ここでは「第 1 次」は入れなくても良いのではないか。
- ・15 ページの「公共的な施設に対する市民ニーズの高まり」での公共施設用地の確保についての記載だが、市は埋立て計画のなかで公共施設用地はきちんと確保して対応してきた。結果として用地不足になってしまっているが、施設不足の要因は「適地の確保が困難であること」であるとまではいえないのではないか。「困難な状況にある」程度の表現にとどめておくべきである。

【委員】

- ・部会で検討した内容がきちんと修正されている。まとめ方に問題はない。

【委員】

- ・21 ページの大規模校対策について、北部小の例を出して説明している。その量が半分以上を占めているが、個別校の例をここまで出さなくても良いのではないか。
- ・コミュニティスクールについてはそれほど議論されていない。意見にあったように、既に行われている中学校区支援協議会の話題を記載するのも 1 つの方法であろう。

【委員】

- ・コミュニティスクールの理念と、地域コミュニティを重視していこうとする考え方は、実はつながっているもの。「地域のつながり」を大事にして、地域の学校について地域で考えていこうとしていけば、コミュニティスクールの考え方が出てくるのは自然な流れである。地域は地域のもので、学校は学校のもの、ということではなく、両者を一体と考えれば、こういう考え方になる。
- ・ただ、まだ機が熟していないため、今すぐにコミュニティスクールを、となると問題があるかもしれない。これについては、今後別途議論してもらうこととして、コミュニティスクールの話は、問題提起という趣旨で記載するということが良いのではないかな。

【委員】

- ・委員会で議論していく段階では問題なかったが、報告書としてまとめるには出典をはっきりさせた方がいい部分がある。例えば、13 ページにある品川区の事例だが、報告書に記載するのであれば、新聞やレポートなどで根拠を明示すべきである。
- ・18 ページで学区の見直しが難しいという話が出ているが、地図を見る限りその根拠がわかりづらい。施設の規模から困難、通学距離から困難などの理由を補足しておいた方が良い。
- ・20 ページの児童生徒数の推計結果については、詳細について付属資料などに示すべき。どのような推計なのか、後で確認できるようにしておくべきである。
- ・33 ページの「終わりに」では、今回の委員会で新しく認識された部分ができるように記載されていると、後でこの経緯をたどらなくてよく、親切だといえる。前回から踏襲されているものと、変更した部分を明記しておいた方が良いでしょう。

【委員】

- ・各委員からいろいろな意見が出された。事務局はこれらの意見を踏まえて、報告書の修正を進めて欲しい。
- ・今後、修正を要する点、気づいた点などがあれば、期日を設けるので、それまでに事務局まで連絡してほしい。
- ・今後の流れだが、委員長として委員会での議論を精査して、事務局と協議しながら最終的な報告書を完成させることとしていきたい。今後の作業は委員長と事務局に一任していただきたい。
→異議なし

(2) 来年度の方向性について

【委員】

- ・事務局から、今回の委員会を踏まえての来年度の予定についての説明を。

【事務局】

- ・方針を検討する本検討委員会は今回で終了し、21 年度は新たに具体的な推進計画を策定するための委員会を立ち上げる予定。5 回の開催を計画している。今回の報告書の内容をもとに、具体策や手順、スケジュールを検討しようと考えている。
- ・また来年度は、浦安市の学校教育の根幹となる教育ビジョンの策定も進めていく予定である。

【委員】

- ・本委員会の活動はここまでだが、来年度の委員会で委員を引き受けていただく方に要望や意見があれば。

【委員】

- ・今回は小規模校大規模校という色分けがあったので、あまり話ができなかったが、適正配置について考えるなら高洲中の建設は必須の条件だと思う。次回の委員会ではぜひ検討してもらいたい。

【委員】

- ・各論について議論が行われていけば、必ずグランドデザイン（総論）が欲しくなるものである。順序からすれば先に総論があり、各論はそれに基づいて決定されるものだが、現実的にはなかなかそうはいかないケースが多い。今回は、教育ビジョンの策定という総論の前に、適正配置という各論について議論を行ってきたわけだが、委員会のメンバーとして、これがグランドデザインにどう反映されるのか注視していきたいと考えている。

4. 事務連絡

【事務局】

- ・近日中に本会議の議事録を各委員に配布する。追加の意見があれば、期日を設定するのでそれまでに事務局宛に連絡いただきたい。その後の報告書のとりまとめ作業に関しては、委員長と事務局に一任してもらいたい。

【委員】

- ・委員の皆様には、忙しいなかで委員会に参加いただき、活発に議論していただいたことに御礼を申し上げます。今回いただいた意見を整理して、来年度には具体的な学校適正配置に向けての活動を進めていくこととしたい。小中連携・一貫教育やコミュニティスクールについての意見もいただいたが、これらは教育ビジョンの検討のなかで活かしていきたいと考えている。

5. 閉会

以上

2. 小中一貫校先進事例「興本扇学園」視察結果

日 時：平成 20 年 7 月 16 日（水） 10：00～12：00

場 所：興本扇学園（足立区立興本小学校、扇中学校）

面談者：興本扇学園学校関係者

足立区教育委員会学校教育課教育部教育改革推進課

面談経緯：

- ・学校適正配置等検討委員会の天笠委員長から、小中一貫校の先進事例として興本扇学園の紹介を受け、その現状を把握すべく、同校を訪問したもの。

目 的

- 関係者から小中一貫校設立までの経緯等についてヒアリングを行う。
- 学校施設の視察を行う。

○ヒアリング内容

(1) 全体的な説明

- ・興本扇学園は、近接して立地している興本小学校と扇中学校を、特区の認可を経て小中一貫校として一体化させ、平成 18 年度よりスタートさせた学校。区内での名称は「興本扇学園」だが、東京都など対外部での正式名称は、従来どおり「足立区立興本小学校」と「足立区立扇中学校」のままである。
- ・足立区では、中 1 ギャップ（小学校から中学校へ進学したときの段差の存在）など、現在の義務教育における問題を解決するために小中一貫教育の推進を図っており、当校がその第 1 号となった。平成 22 年度には第 2 号として新田地区に施設一体型の一貫校を開校すべく準備が行われている。
- ・9 年間で 4 年間のⅠ期（小 1～小 4）、3 年間のⅡ期（小 5～中 1）、2 年間のⅢ期（中 2～中 3）に区分。それぞれに副校長を置き、担当させている。
- ・学識経験者、校長会など関係者による指導委員会を組織し、年に 3 回開催している。その場で当校からの経過の報告とそれに対する指導を受けている。
- ・当校に来て 2 年目だが、私立の一貫校と公立の一貫校は全く違うということを感じている。私立はその学校に入れたいと思って子どもを入学させるため、親は基本的に学校に協力する。親の意識にそれほど差異はない。公立の一貫校は選択制度で入ってくる子どももいるが、大半は学区内から入学する子どもで、親の意識や経済環境に大きな開きがある。学校側ではこうしたことをしっかりと意識する必要がある。学校の運営も私立のように簡単にはいかない。
- ・現在開校して 3 年目だが、これまでの経緯等について広く周知させることにより、小中一貫校を促進させていくことが当校の役割だと考えている。

(2) 興本扇学園設立までの経緯

- ・足立区では、地域を中心として学校を活性化していこうという趣旨で、平成 12 年度に「開かれた学校づくり協議会」を区内の 5 校で設置した。その後 14 年度には、この協議会を区内の全校に設置し、地域で協力しながら学校を盛り立てていこうという流れをつくってきた。
- ・「開かれた学校づくり協議会」は区の条例で設定したもので、学校の内部組織ではなく、学校外の組織。
- ・13 年度からは学校選択制度もスタートさせた。
- ・興本小と扇中は近接した立地にあり、区内で小中一貫校とするのに最も適していると判断し、検討を開始した。
- ・平成 16 年 6 月に興本小 PTA、扇中 PTA、及び「開かれた学校づくり協議会」との意見交換会を皮切りに、その後 2 年 9 ヶ月、計 29 回の地元説明会を行った。小中一貫校に不安を持つ保護者も少なくなかったが、何回も説明会を行うことによって、理解していただいた。
- ・また 16 年 12 月に「開かれた学校づくり協議会」の委員、PTA、校長、教員をメンバーとする「興本扇学園小中一貫教育推進委員会」を設置した。その後 17 回の会合を開催することによって、地域全体で一貫校をつくっていこうと努めてきた。
- ・特区（「小中一貫教育による人間力育成特区」）の申請は、16 年度中に認可された。16、17 年度の準備期間を経て、18 年 4 月に小中一貫校「興本扇学園」が開設された。
- ・開校後、児童生徒数は着実に増加している。平成 16 年には扇中の生徒は 116 人であったが、20 年度は 188 人まで増加した。小中一貫校になり、学校選択制度を活用して、学区外から当校に入りたいという生徒が増加したため。
- ・足立区のなかで当校を第 1 号の一貫校にしたのは、小学校と中学校の距離が近かったこと、扇中の生徒数が少なく興本小の 5.6 年生を収容することができたこと、興本小と扇中が合同で各種行事を行ってきており、地域住民の理解が得やすかったこと、などの条件が整っていたため。
- ・小中一貫校がうまくいくためには、小中 2 つの学校の距離が近いことと、地域の理解・協力が得られることの 2 つが条件といえる。地域コミュニティが確立されていない場所で、いきなり小中一貫校の話を進めるのは難しいだろう。
- ・足立区ではさまざまな教育改革に取り組んでおり、こうした一連の教育改革のなかで、小中一貫校興本扇学園ができあがったと考えている。
- ・興本扇学園に続き、新田地区に新たな施設一体型の一貫校を 22 年度に開校の予定。この学校を一貫校として選択したのも、地理的な条件が整っていたため。

(3) 特区申請について

- ・特区は 17 年 1 月 26 日に申請し、同 3 月 28 日に認定された。
- ・具体的な変更点のうち主なものは以下のとおり。
 - ① 4・3・2 制の実施
 - ～Ⅰ期：「学びの基本姿勢」、Ⅱ期：「意欲的な学習姿勢」、Ⅲ期：「主体的な学習姿勢」
 - ② Ⅰ期の国語、算数の授業時間の増加（各学年 国語、算数とも +17～18 時間）
 - ③ 人間力の育成（道徳の時間：各学年 +10 時間）

- ④選択授業・習熟度別授業の実施（特別指導講師〔ステップアップ講師〕の雇用）
- ⑤授業時間の変更（5.6年の授業を45分から50分へ）
- ⑥小・中学校教員の兼務発令（同じ教師が小中での授業が可能）
- ⑦Ⅱ期（5年生）からのクラブ活動の実施
- ・今回の申請における特例措置（規制緩和を求めた点）は以下の2点。
 - ①必要となる教育課程の変更
 - ・5.6年で学習意欲を高めるため、国語、算数、英語の選択学習を行う。
 - ・年間授業数：35時間。
 - ・総合学習の時間をあてる。
 - ②国際コミュニケーション科の新設
 - ・コミュニケーション能力や問題解決能力を育成することが目的。
 - ・総合学習ではなく教科なので「評価」をつける。評価をつけるこうした取組みは全国でも他にはない。
 - ・年間授業数 1.2年：10時間、3.4年：105時間、5～9年：65～75時間
- ・今回の特区申請の対象は興本扇学園のみ。22年度スタート予定の新田地区での新たな一貫校に関しては、改めて手続きが必要となる。
- ・一貫校の取組みの認可に関しては、これまでの特区申請から、文科省への申請に仕組みが変わる模様である。

(4) 小中一貫教育について

- ・足立区で、小中一貫教育を推進したいと考えた理由は以下の2つ。
 - ①現在の6・3制が現状の子どもの発達段階と合致していないと考えられること（6・3制は60年前に制定されたもの）
 - ②小学校から中学校へ上がる時に大きな段差があり、その段差が子どもにとって心理的抵抗、ストレスになっていると考えられること
- ・義務教育の9年間で段差を解消し、一貫したカリキュラムで子どもたちの教育を進め、人間力の育成を図っていこうと考えた。
- ・小中一貫教育のメリットとしては、以下の5点があげられる
 - ①発達段階に応じた計画的・継続的教科指導、生活指導ができる
 - ②小・中学校間の難易度の急激な変化を緩和できる（算数⇒数学など）
 - ③幅広い異年齢集団の活動をとおして、社会性・人間性を育成できる
 - ④小学校から中学校へ進学する際のストレスを軽減できる（不登校の予防等）
 - ⑤小中の教員の相互協力により、高い教育効果が期待できる

(5) 教員の授業交流について

- ・Ⅰ期（1～4年）は学級担任制だが、Ⅱ期（5.6年）は一部教科担任制を敷いている。社会、理科、体育は全学級とも学年内教科担任が、音楽、図工、家庭は専科教員が担当している。6年生では国語も専科教員（ステップアップ講師）が担当している。
- ・小学校籍の教員、中学校籍の教員の授業交流としては以下のような例がある。
 - ・6年担任（小学校籍）が9年（中学校）の理科を担当
 - ・7年数学担当（中学校籍）が5.6年（小学校）の算数を担当
 - ・7年理科担当（中学校籍）が5.6年（小学校）の選択授業（国語・算数）を担当

- ・こうした交流は積極的に行っている。ただし取得している免許により、担当できる教科が限定されることが課題。

(6) 学校内視察における説明

- ・旧興本小が東校舎、旧扇中が西校舎。東校舎で1～4年生が、西校舎で5～9年生が学んでいる。従来の5～6年生が東校舎から西校舎に移った形。
- ・2つの校舎の敷地は隣接してはいない。徒歩で約3分の距離にある。遠いと感じるかどうかは意識の問題。
- ・両者が離れているので、会議の開催など連絡を取りあう必要がある。そのために各教員にはPCが配布されており、LANでつながっている。
- ・西校舎では、同じ階で、5年生の学級の隣に7年生の学級、6年生の学級の隣に8年生の学級が配置されている（小学生と中学生を隣に配置）。異年齢と交流させるために、意識的に離して配置している。
- ・給食はそれぞれ別々で調理していたが、昨年9月以降はすべて西校舎の給食室で調理して、東校舎の分は車で運搬し、配膳のみ東校舎で行っている。
- ・図書室では地域のボランティアが図書の整理を行ってくれる。足立区では市民によるボランティア活動を推進している。

(7) その他

- ・足立区は学校選択制度を実施している。ベースとしての学区はあるが、希望すれば自由に学校を選ぶことができる。ただし、受入できる数には限度があり、それを超えると抽選になる。興本扇学園は入学希望者が多く、限度である各学年3学級を超えると抽選が行われる「抽選校」。
- ・選択制度の利用者は小学校では通学距離が重視されることから少ないが、中学校ではかなり多い。
- ・都内は私立中学校への進学を志向する傾向が高いが、足立区はそれほどでもない。興本扇学園では6年生から私立の中学へ進学するのは2割弱。
- ・学園の設立当初は、子どもたちにもとまどいが見られた。例えばそれまで最上級学年だった6年生には上ができた。4年生はいきなり最上級学年となった。小学生は私服であるのに対し、中学生は標準服（制服）。違和感があつたのは当然かもしれない。
- ・Ⅰ期が終了する4年生の最後には「進級式」が行なわれ、Ⅱ期へあがることが意識される。Ⅱ期からⅢ期へあがる際には、特に何も行っていない。
- ・入学式は1年時と7年時、卒業式は6年時と9年時にある。6年生から私立中学や学校選択制度で他の中学へ進学する児童もいるし、学校選択制度などで7年生から入ってくる生徒もいるため。
- ・運動会は1年から9年までが一緒に参加し、非常に活気がある催しになっている。一般的な中学校の運動会は見に訪れる父兄は少ないが、小学生の父兄が多く来るために、中学生は張り切って一生懸命にやる。その迫力を見た小学生も刺激を受けて一生懸命に取り組み、全体として大いに盛り上がる。異年齢の子どもがともに活動することにより、生徒指導面でもプラスの面が大きいと感じている。
- ・教師の人事異動は、小学校は小学校、中学校は中学校で行われる。ただしお互いに兼務発令がなされており、対象の教員免許があれば小学校の教員でも中学校で、またその逆も指

導することができる。

- 一貫校の課題は、地域との連携、PR などいろいろあるが、学校の側から考えると「教員の意識をどう高めていくか」ということが最も重要だといえる。
- モデル的な一貫校であるため、教員の異動については、教育委員会もある程度校長の要望を聞いてくれる。例えば「小学校で英語を話せる教員を」という希望をかなえてもらっている。また、教員数は基準どおりで総勢約 60 人だが、それ以外の非常勤講師（ステップアップ講師）を他校より多く配置してくれている。
- ただし、教員のレベルが特に高いわけではない。一貫校として教育の質を高めていくために、教員の意識をどうやって盛り上げていくかは大きな課題である。

以 上

3. アンケート調査結果

(1) アンケート調査の概要

○目的

- ・浦安市における学校適正配置について市民の意見を幅広く収集し、今後の施策策定のための参考とする。

○調査対象

対 象	配布先	配布数	回収数	回収率
①小学校児童・ 中学校生徒保護者	・17 小学校×3 学年 ・8 中学校×1 学年	1,918	1,702	88.7%
②幼稚園児・ 保育園児保護者	・15 幼稚園×1 学年 ・7 保育園×1 学年	639	536	83.9%
③自治会会長	・全ての自治会長	79	54	68.4%
④学校評議員	・全ての学校評議員	169	113	66.9%

○調査時期

- ・平成 20 年 9 月

○調査項目

◇適正配置に関する設問－1 ～「自分の子どもの学校」について

- 1) 学校規模
 - 1)－2 学校を大規模と感じる理由（対象者を限定）
 - 1)－3 学校を小規模と感じる理由（対象者を限定）
- 2) 通学距離
- 3) 地域活動の活発度

◇適正配置に関する設問－2 ～「浦安市の学校全体」について

- 1) 学校配置を行っていくうえで重視すべき点
- 2) 大規模校対策
 - 2)－2 通学方法（対象者を限定）
- 3) 小規模校対策
 - 3)－2 空き教室の活用方法（対象者を限定）

◇小中連携一貫教育についての設問

- 1) 小中連携一貫教育のメリット
- 2) 小中連携一貫教育のデメリット

◇属 性

- ・学校、学年、居住年数

○クロス集計軸の設定について

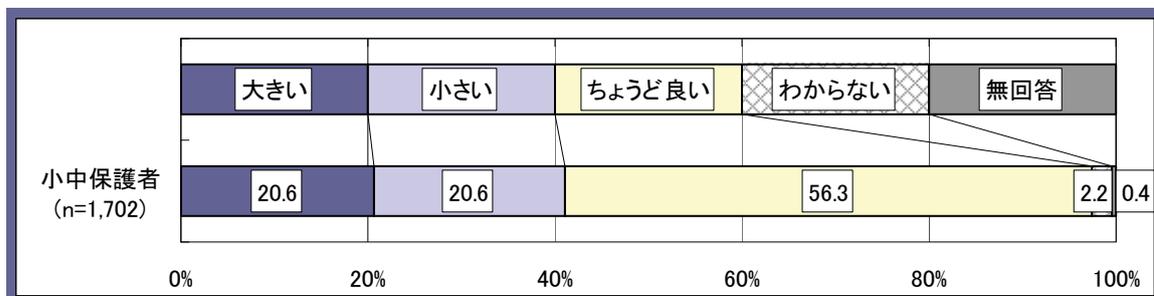
(クロス軸)	対象数	地区別	学年別	居住年数別	(1) 学校の規模別	(2) 通学距離別	(3) 地域活動の活発度別	学校別
◆適正配置に関する設問-1(自分の子どもの学校について)								
1) 学校規模	1,702	●	●		×			●
1) - 2 大規模と感じる理由	350							●
1) - 3 小規模と感じる理由	351							●
2) 通学距離	1,702	●	●			×		●
3) 地域活動の活発度	1,702	●		●	●	●	×	●
◆適正配置に関する設問-2(浦安市の学校全体について)								
1) 学校配置の上で重要な点	1,702	●	●	●	●	●	●	●
2) 大規模校対策	1,702	●	●		●			●
2) - 2 通学方法	534	●	●		●			●
3) 小規模校対策	1,702	●	●		●			●
3) - 2 空き教室の活用方法	589	●						
◆小中連携一貫教育について								
1) 小中連携一貫教育のメリット	1,702	●	●		●			●
2) 小中連携一貫教育のデメリット	1,702	●	●		●			●

(2) 集計結果

*以下、「小学校児童・中学校生徒の保護者を対象とした調査」の内容を掲載。

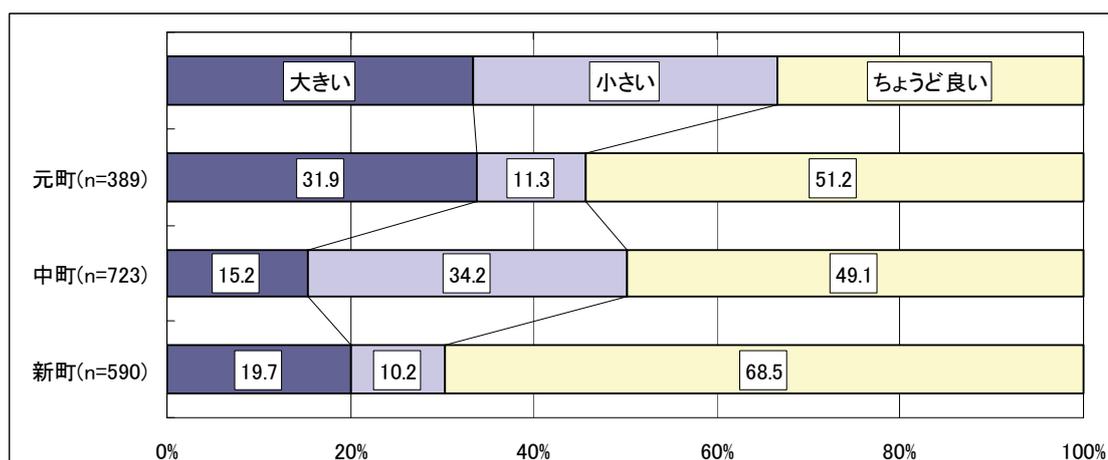
◇適正配置に関する設問－1 ～「自分の子どもの学校」について

1) 学校規模

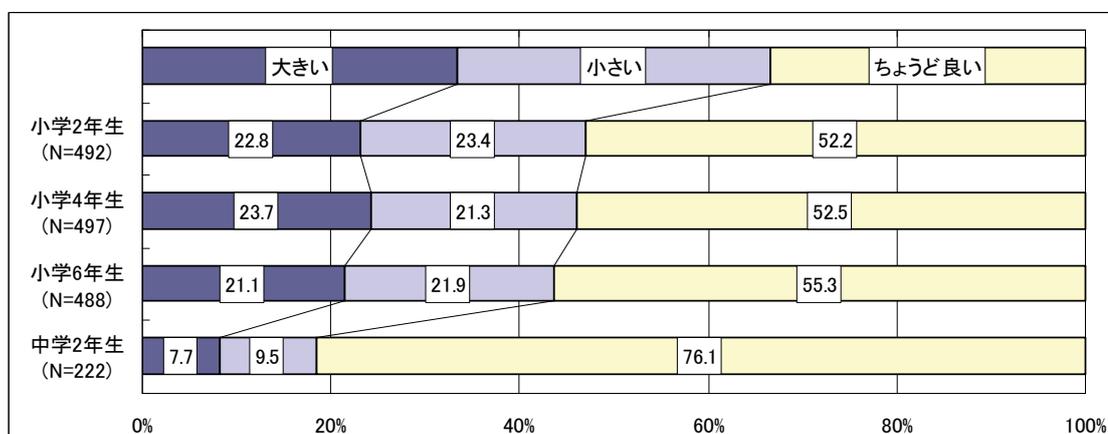


【クロス集計分析】（「わからない」「無回答」を除いて集計。合計は100%にならない）

①地区別



②学年別



③学校別（「学校規模」について）

		(%)	学級数	大きい	小さい	ちょうど良い
合計(n=1702)				20.6	20.6	56.3
元町	浦安小学校(n=76)	12	1.3	56.6	42.1	
	南小学校(n=86)	29	51.2	0.0	43.0	
	北部小学校(n=90)	27	44.4	0.0	52.2	
	東小学校(n=90)	25	27.8	1.1	62.2	
中町	見明川小学校(n=80)	17	2.5	10.0	86.3	
	富岡小学校(n=101)	32	91.1	1.0	7.9	
	美浜南小学校(n=87)	12	0.0	57.5	41.4	
	美浜北小学校(n=73)	6	0.0	94.5	5.5	
	入船北小学校(n=84)	6	0.0	96.4	3.6	
	入船南小学校(n=89)	15	0.0	25.8	74.2	
	舞浜小学校(n=96)	23	14.6	1.0	82.3	
新町	日の出小学校(n=90)	22	14.4	1.1	84.4	
	日の出南小学校(n=91)	29	69.2	0.0	29.7	
	明海小学校(n=85)	14	0.0	28.2	70.6	
	明海南小学校(n=82)	22	9.8	0.0	86.6	
	高洲小学校(n=91)	25	34.1	0.0	62.6	
	高洲北小学校(n=88)	13	0.0	31.8	68.2	
元町	浦安中学校(n=26)	18	42.3	0.0	50.0	
	堀江中学校(n=21)	13	14.3	0.0	66.7	
	見明川中学校(n=29)	13	0.0	3.4	93.1	
中町	入船中学校(n=32)	11	0.0	0.0	93.8	
	富岡中学校(n=26)	12	7.7	7.7	73.1	
	美浜中学校(n=26)	9	0.0	42.3	53.8	
新町	日の出中学校(n=28)	12	3.6	14.3	82.1	
	明海中学校(n=35)	13	0.0	8.6	85.7	

 : 最も多い回答

〔コメント〕

○全体

・「大きい」「小さい」との回答が、それぞれ約2割となっている。

○地区別

・元町で「大きい」、中町で「小さい」との回答が多い。新町は「ちょうど良い」が多い。

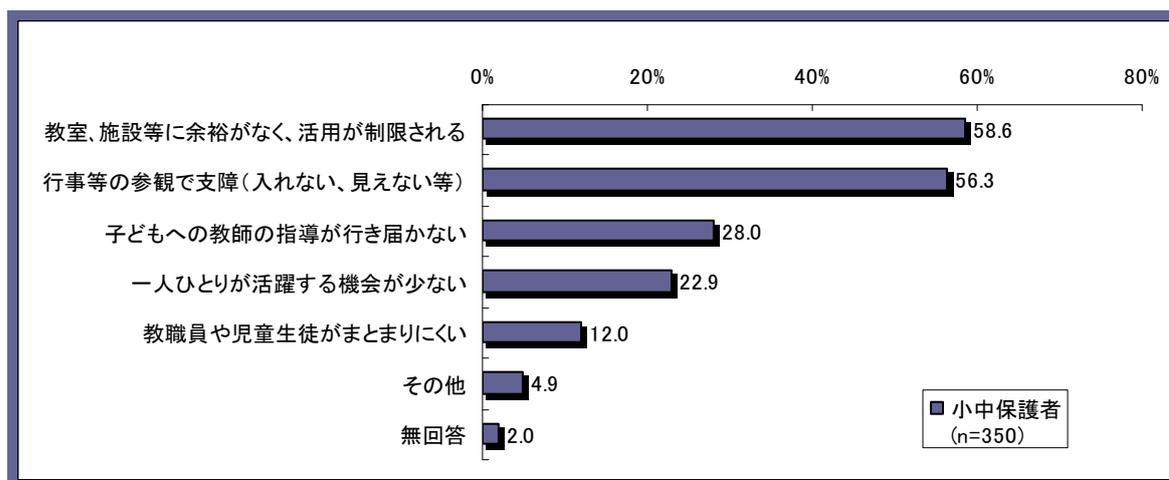
○学年別

・小学校では違いは少ない。中学校は小学校と比較して「大きい」「小さい」が少なく、「ちょうど良い」が多い。

○学校別

・富岡小、日の出南小で「大きい」との回答が多い。南小、北部小でも「大きい」と認識されている（他の大規模校である東小、高洲小はそれほどでもない）。
・入船北小、美浜北小、美浜南小、浦安小などで「小さい」との回答が多い。

1) - 2 学校を大規模と感じる理由 (対象：1) で「規模が大きい」とした回答者のみ)



【クロス集計分析】(「その他」「無回答」を除いて集計)

①学校別 (対象：大規模校等)

(単位：%)

	学級数	教室、施設等に余裕がなく、活用が制限される	行事等の参観で支障(入れない、見えない等)	子どもへの教師の指導が行き届かない	一人ひとりが活躍する機会が少ない	教職員や児童生徒がまとまりにくい
合計(n=350)	—	58.6	56.3	28.0	22.9	12.0
南小学校(n=44)	29	38.6	61.4	31.8	27.3	25.0
北部小学校(n=40)	27	72.5	62.5	35.0	17.5	10.0
東小学校(n=25)	25	84.0	24.0	32.0	12.0	8.0
富岡小学校(n=92)	32	73.9	80.4	15.2	28.3	6.5
高洲小学校(n=31)	25	35.5	71.0	35.5	22.6	19.4
日の出南小学校(n=63)	29	63.5	36.5	15.9	20.6	6.3
浦安中学校(n=11)	18	36.4	9.1	63.6	0.0	27.3

: 平均より目立って多い回答
 : 平均より目立って少ない回答

[コメント]

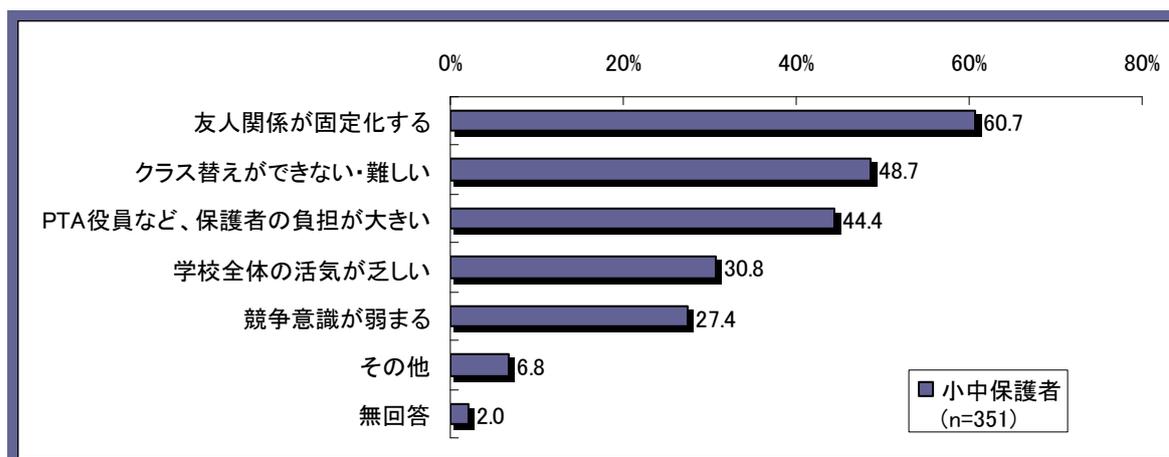
○全体

- ・「教室、施設等に余裕がない」「行事等の参観で支障」との回答が多い。

○学校別

- ・「教室、施設等に余裕がない」は東小、富岡小、北部小で特に多い。
- ・「行事等の参観で支障」は富岡小、高洲小で特に多い。
- ・「教師の指導が行き届かない」は浦安中で多くなっている。

1) - 3 学校を小規模と感じる理由 (対象：1) で「規模が小さい」とした回答者のみ)



【クロス集計分析】 (「その他」「無回答」を除いて集計)

①学校別 (対象：小規模校等)

(単位：%)

	学級数	友人関係が固定化する	クラス替えができない・難しい	PTA役員など、保護者の負担が大きい	学校全体の活気が乏しい	競争意識が弱まる
合計(n=351)	—	60.7	48.7	44.4	30.8	27.4
浦安小学校(n=43)	12	79.1	25.6	32.6	18.6	58.1
美浜南小学校(n=50)	12	56.0	20.0	64.0	44.0	16.0
美浜北小学校(n=69)	6	66.7	85.5	37.7	20.3	39.1
入船北小学校(n=81)	6	50.6	81.5	65.4	22.2	21.0
入船南小学校(n=23)	15	69.6	30.4	39.1	43.5	17.4
美浜中学校(n=11)	9	45.5	9.1	36.4	45.5	18.2

: 平均より目立って多い回答
 : 平均より目立って少ない回答

[コメント]

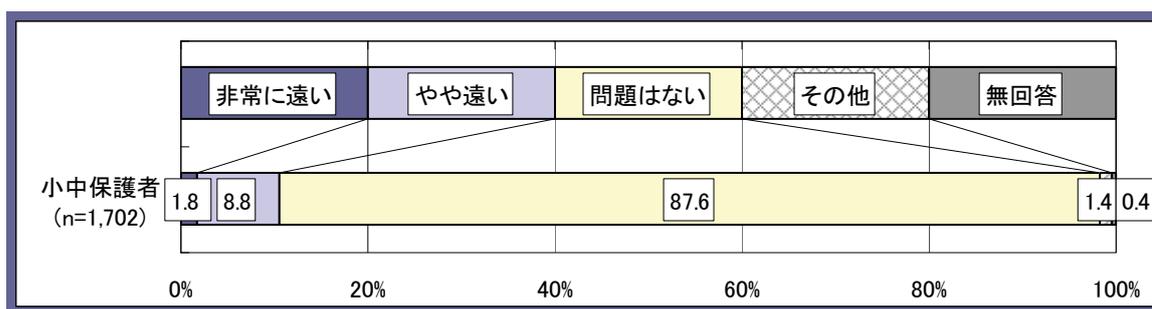
○全体

- ・「友人関係が固定化」「クラス替えができない・難しい」「PTA 役員などの保護者の負担」の順で多くなっている。

○学校別

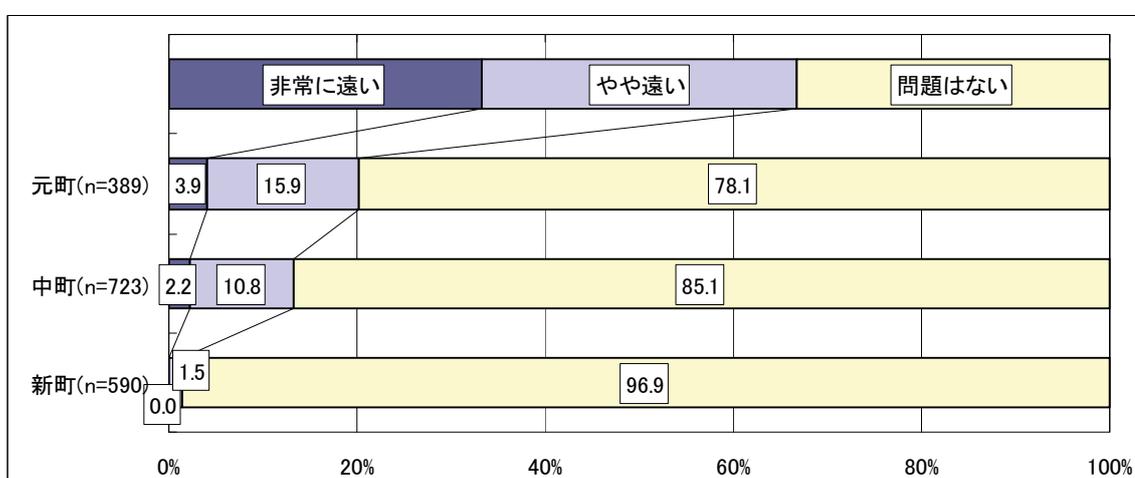
- ・「友人関係が固定化」は浦安小で特に多い。
- ・「クラス替えができない・難しい」は美浜北小、入船北小で特に多い。
- ・「PTA 役員などの保護者の負担」は入船北小、美浜南小で特に多い。

2) 通学距離

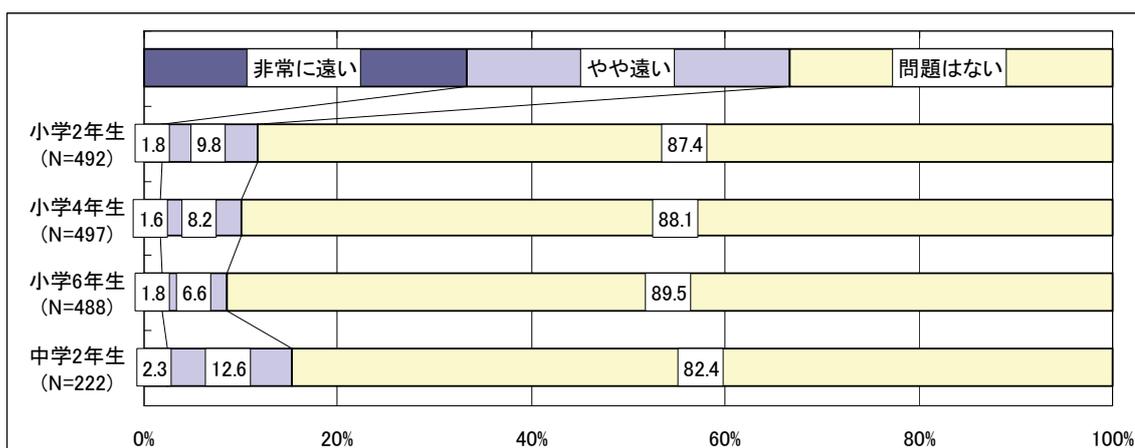


【クロス集計分析】（「その他」「無回答」を除いて集計。合計は100%にならない）

①地区別

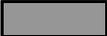


②学年別



③学校別（「通学距離」について）

		(%)	非常に遠い +やや遠い	非常に遠い	やや遠い	
		合計(n=1702)	10.6	1.8	8.8	
小学校	元町	浦安小学校(n=76)	11.8	1.3	10.5	
		南小学校(n=86)	12.8	0.0	12.8	
		北部小学校(n=90)	30.0	11.1	18.9	
		東小学校(n=90)	22.2	1.1	21.1	
	中町	見明川小学校(n=80)	13.8	8.8	5.0	
		富岡小学校(n=101)	19.8	3.0	16.8	
		美浜南小学校(n=87)	2.3	0.0	2.3	
		美浜北小学校(n=73)	5.5	1.4	4.1	
		入船北小学校(n=84)	4.8	1.2	3.6	
		入船南小学校(n=89)	2.2	0.0	2.2	
		舞浜小学校(n=96)	31.3	2.1	29.2	
	新町	日の出小学校(n=90)	3.3	0.0	3.3	
		日の出南小学校(n=91)	1.1	0.0	1.1	
		明海小学校(n=85)	1.2	0.0	1.2	
		明海南小学校(n=82)	0.0	0.0	0.0	
		高洲小学校(n=91)	0.0	0.0	0.0	
		高洲北小学校(n=88)	2.3	0.0	2.3	
	中学校	元町	浦安中学校(n=26)	26.9	11.5	15.4
			堀江中学校(n=21)	14.3	0.0	14.3
見明川中学校(n=29)			17.2	3.4	13.8	
中町		入船中学校(n=32)	34.4	3.1	31.3	
		富岡中学校(n=26)	3.8	0.0	3.8	
		美浜中学校(n=26)	15.4	0.0	15.4	
新町		日の出中学校(n=28)	0.0	0.0	0.0	
		明海中学校(n=35)	5.7	0.0	5.7	

 :平均より目立って多い回答

 :平均よりやや多い回答

[コメント]

○全体

・9割近くが「問題はない」と回答している。

○地区別

・「遠い」との回答（「非常に」＋「やや」。以下同じ）が、元町、中町でやや多く、新町ではほとんどない。

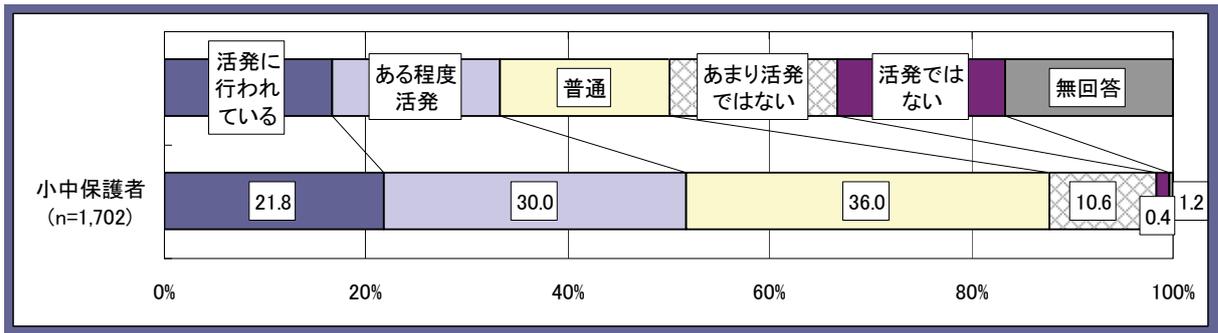
○学年別

・小学生と比較して、中学生で「遠い」との回答がやや多くなっている。

○学校別

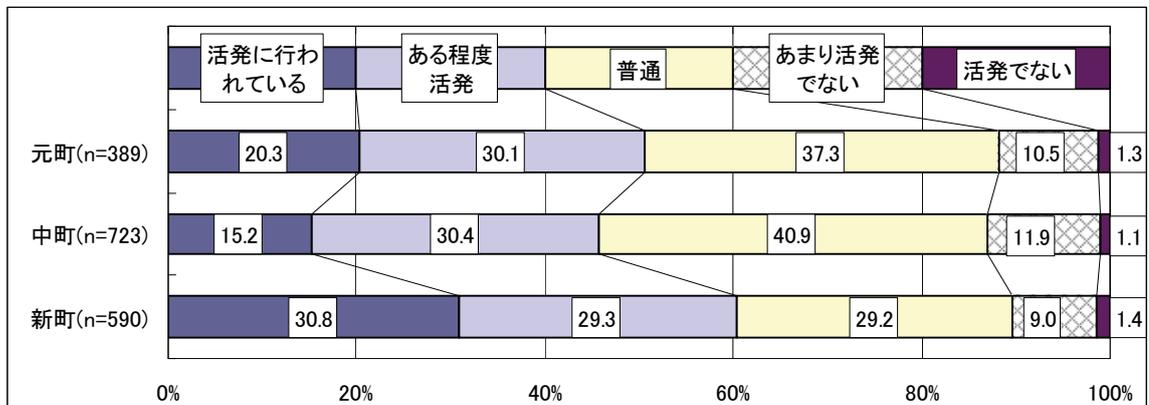
・小学校では舞浜小、北部小、東小、中学校では入船中、浦安中で「遠い」との回答が多くなっている。

3) 地域活動の活発度

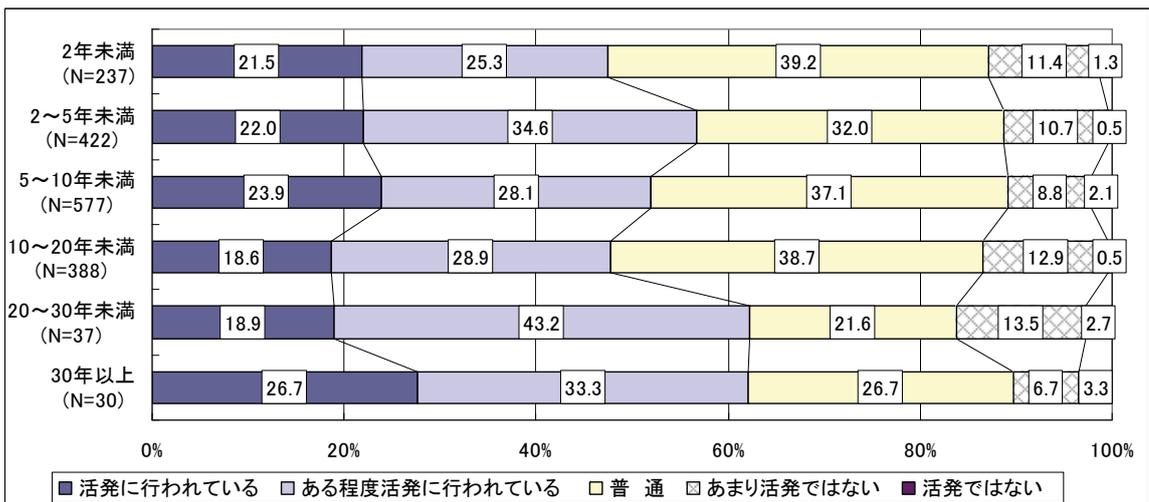


【クロス集計分析】（「無回答」を除いて集計。合計は100%にならない）

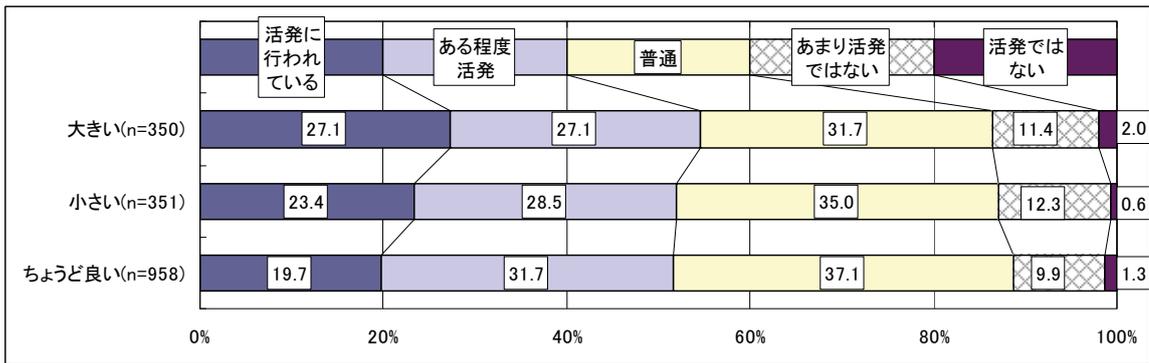
①地区別



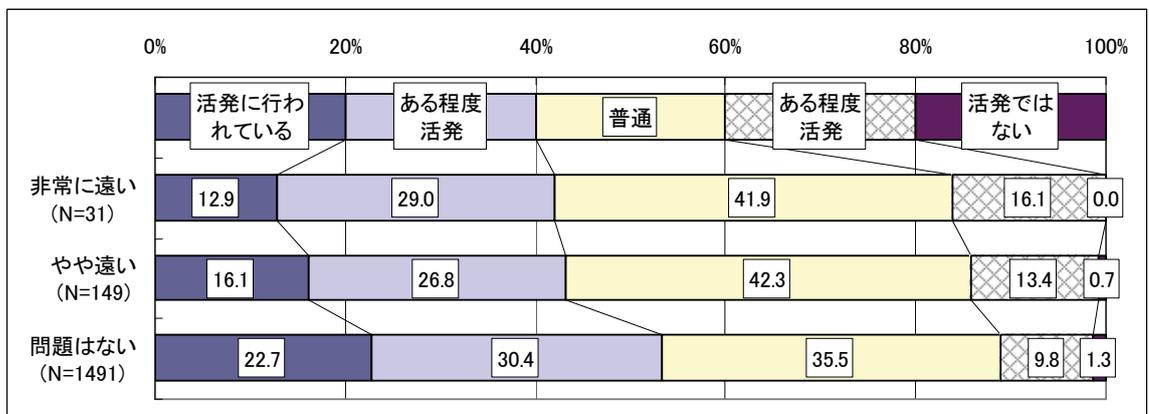
②居住年数別



③学校の規模別（「地域活動の活発度」について）



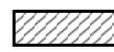
④通学距離別（「地域活動の活発度」について）



⑤学校別（「地域活動の活発度」について）

		(%)	「活発」+ 「ある程度 活発」	活発に行わ れている	ある程度活 発に行われ ている
		合計(n=1702)	51.8	21.8	30.0
小学校	元町	浦安小学校(n=76)	81.6	57.9	23.7
		南小学校(n=86)	53.5	12.8	40.7
		北部小学校(n=90)	38.9	6.7	32.2
		東小学校(n=90)	44.5	16.7	27.8
	中町	見明川小学校(n=80)	45.0	7.5	37.5
		富岡小学校(n=101)	63.4	29.7	33.7
		美浜南小学校(n=87)	31.0	8.0	23.0
		美浜北小学校(n=73)	53.4	20.5	32.9
		入船北小学校(n=84)	61.9	28.6	33.3
		入船南小学校(n=89)	45.0	12.4	32.6
	新町	舞浜小学校(n=96)	27.1	4.2	22.9
		日の出小学校(n=90)	74.4	44.4	30.0
		日の出南小学校(n=91)	84.6	56.0	28.6
		明海小学校(n=85)	62.4	35.3	27.1
明海南小学校(n=82)		56.1	25.6	30.5	
高洲小学校(n=91)		56.1	23.1	33.0	
中学校	元町	高洲北小学校(n=88)	29.6	8.0	21.6
		浦安中学校(n=26)	26.9	7.7	19.2
		堀江中学校(n=21)	28.6	4.8	23.8
	中町	見明川中学校(n=29)	44.8	13.8	31.0
		入船中学校(n=32)	40.7	9.4	31.3
		富岡中学校(n=26)	50.0	19.2	30.8
	新町	美浜中学校(n=26)	26.9	3.8	23.1
		日の出中学校(n=28)	64.3	25.0	39.3
		明海中学校(n=35)	48.6	14.3	34.3

 :平均より目立って多い回答

 :平均よりやや多い回答

〔コメント〕

○全体

- ・「活発」「ある程度活発」が全体の過半数を占めている。「あまり活発でない」「活発でない」との回答は、合計で約1割しかない。

○地区別

- ・「活発」との回答が新町、元町、中町の順で多くなっている。

○居住年数別

- ・20年以上で「活発」「ある程度活発」との回答がやや多くなっている。

○学校の規模別

- ・地域活動の活発さと自らの学校の規模との間で相関性は見られない。

○通学距離別

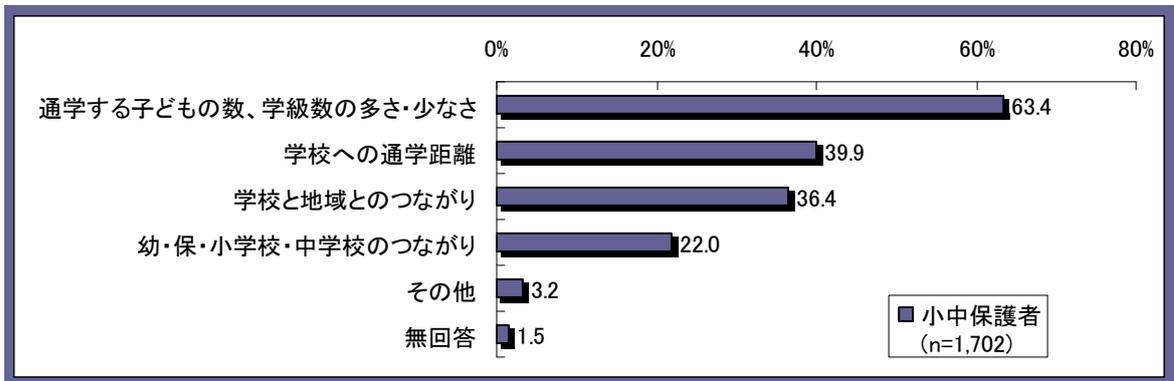
- ・通学距離が遠いと、地域活動が活発との回答が少なくなる傾向が見られる。

○学校別

- ・日の出南小、浦安小、日の出小で「活発」が多くなっている。全体的に見て、小学校の方が「活発」の比率が高い。

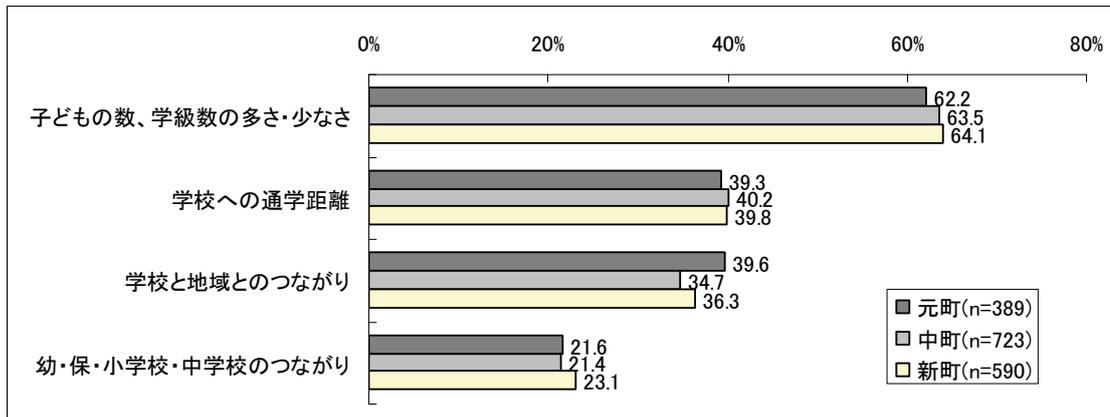
◇適正配置に関する設問－２ ～「浦安市の学校全体」について

1) 学校配置を行っていくうえで重視すべき点

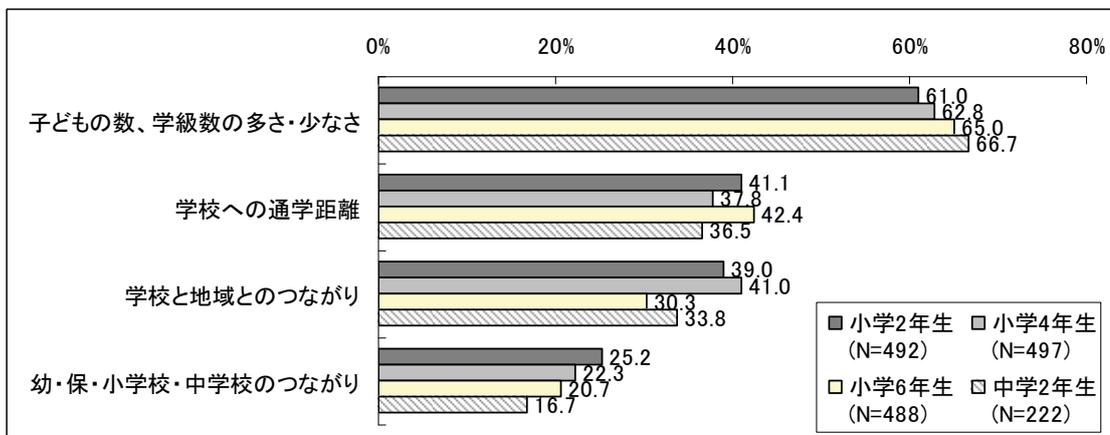


【クロス集計分析】（「その他」「無回答」を除いて集計）

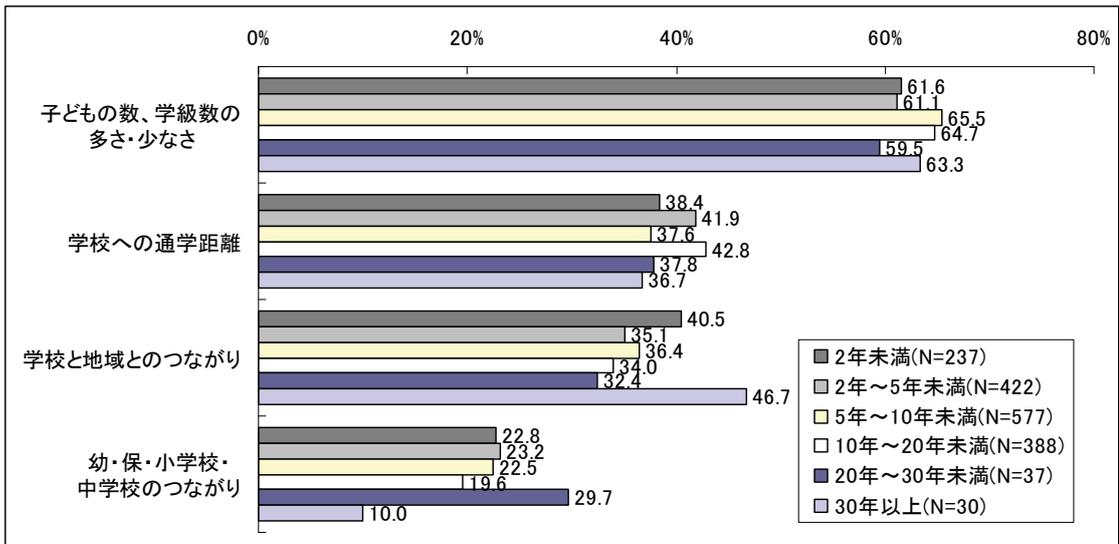
①地区別



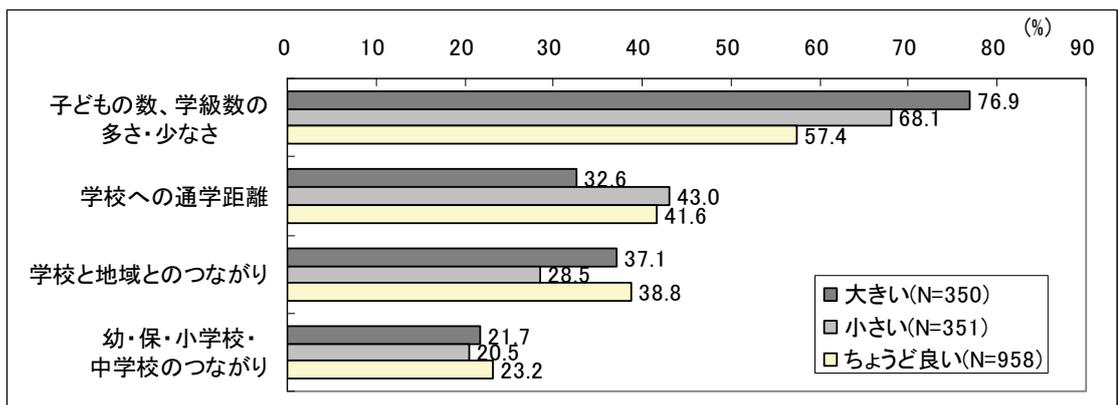
②学年別



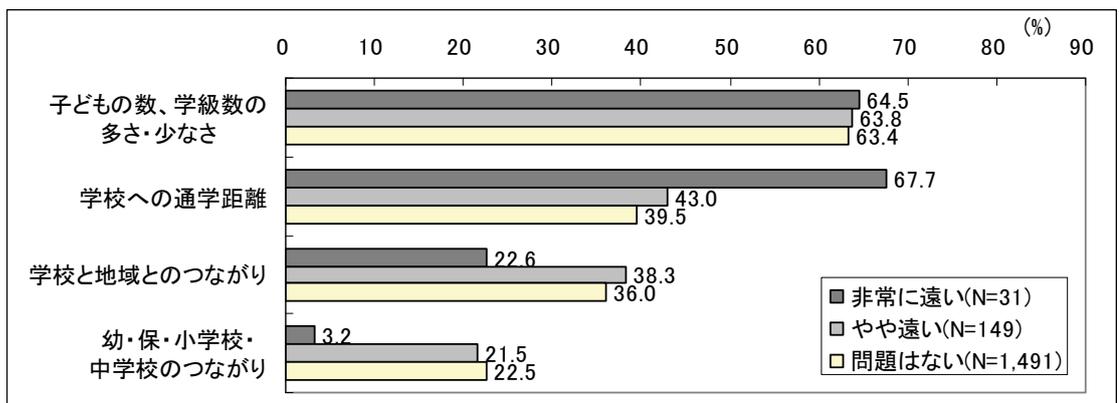
③居住年数別（「学校配置の上で重要な点」について）



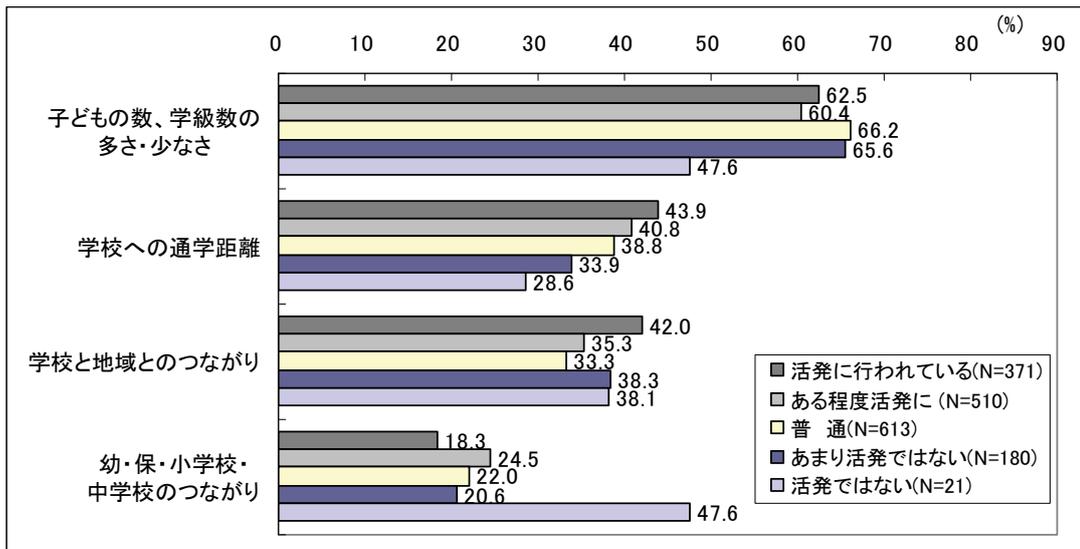
④学校の規模別（「学校配置の上で重要な点」について）



⑤通学距離別（「学校配置の上で重要な点」について）



⑥地域活動の活発度別（「学校配置の上で重要な点」について）



⑦学校別（「学校配置の上で重要な点」について）

		(%)	学級数	子どもの数、学級数の多さ・少なさ	学校への通学距離	学校と地域とのつながり	幼・保・小学校・中学校のつながり
小学校	元町	浦安小学校(n=76)	12	65.8	47.4	43.4	9.2
		南小学校(n=86)	29	58.1	34.9	37.2	26.7
		北部小学校(n=90)	27	60.0	48.9	32.2	24.4
		東小学校(n=90)	25	61.1	27.8	48.9	25.6
	中町	見明川小学校(n=80)	17	57.5	46.3	41.3	16.3
		富岡小学校(n=101)	32	78.2	31.7	37.6	16.8
		美浜南小学校(n=87)	12	54.0	48.3	32.2	16.1
		美浜北小学校(n=73)	6	67.1	43.8	28.8	31.5
		入船北小学校(n=84)	6	70.2	42.9	31.0	22.6
		入船南小学校(n=89)	15	55.1	43.8	33.7	29.2
	新町	舞浜小学校(n=96)	23	60.4	39.6	37.5	25.0
		日の出小学校(n=90)	22	63.3	38.9	42.2	20.0
		日の出南小学校(n=91)	29	70.3	30.8	47.3	14.3
		明海小学校(n=85)	14	61.2	37.6	30.6	30.6
明海南小学校(n=82)		22	63.4	34.1	47.6	17.1	
高洲小学校(n=91)		25	61.5	48.4	25.3	31.9	
中学校	元町	高洲北小学校(n=88)	13	60.2	45.5	28.4	29.5
		浦安中学校(n=26)	18	76.9	46.2	30.8	19.2
		堀江中学校(n=21)	13	61.9	28.6	38.1	19.0
	中町	見明川中学校(n=29)	13	55.2	34.5	41.4	20.7
		入船中学校(n=32)	11	62.5	31.3	40.6	18.8
		富岡中学校(n=26)	12	80.8	26.9	26.9	15.4
		美浜中学校(n=26)	9	57.7	30.8	26.9	11.5
		日の出中学校(n=28)	12	60.7	46.4	28.6	28.6
新町	明海中学校(n=35)	13	77.1	42.9	34.3	5.7	

■ : 平均より目立って多い回答

[コメント]

○全 体

- ・「規模」を重要とする回答が 6 割を超えている。「通学距離」「地域とのつながり」を重要とする回答は、それぞれ 4 割弱となっている。

○地区別

- ・地区別で大きな違いは見られない。

○学年別

- ・「規模」は小学校高学年、中学生になるほど重要と考えられている。
- ・「幼・保・小中学校のつながり」は低学年ほど重要と考えられている。

○居住年数別

- ・「規模」「通学距離」では、居住年数により大きな違いは見られない。
- ・「地域とのつながり」は、居住年数 30 年以上で重要と考えられている。
- ・「幼・保・小中学校のつながり」を重要と考えている比率は、居住年数 20～30 年で高く、30 年以上で低くなっている。

○学校の規模別

- ・自らの子どもの学校の規模が「大きい」と考えている人は「規模」「地域とのつながり」を、「小さい」と考えている人は「通学距離」を重視している傾向が見られる。

○通学距離別

- ・自らの子どもの通学距離が「非常に遠い」と考えている人は「通学距離」を重視している傾向が見られる。

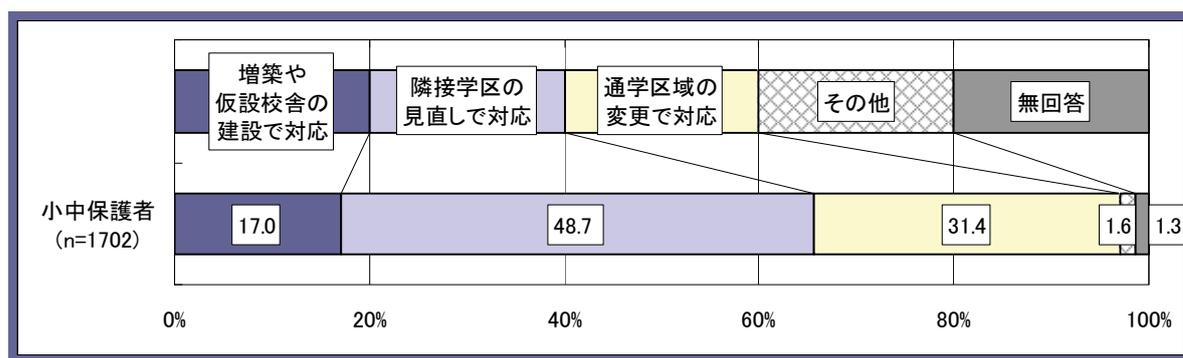
○地域活動の活発度別

- ・地域活動が活発と回答した人ほど「通学距離」を重視する傾向が見られる。
- ・活発ではないと回答した人は「幼・保・小中学校のつながり」を重要と考えている。

○学校別

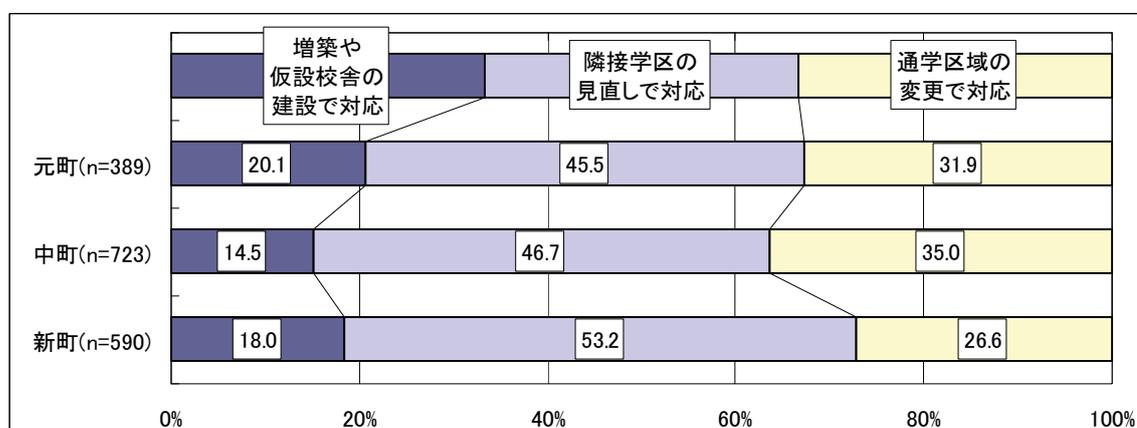
- ・「規模」は、富岡小、富岡中、明海中、浦安中などで重要と考えられている。
- ・「地域とのつながり」は、東小、明海南小、日の出南小などで重要と考えられている。

2) 大規模校対策

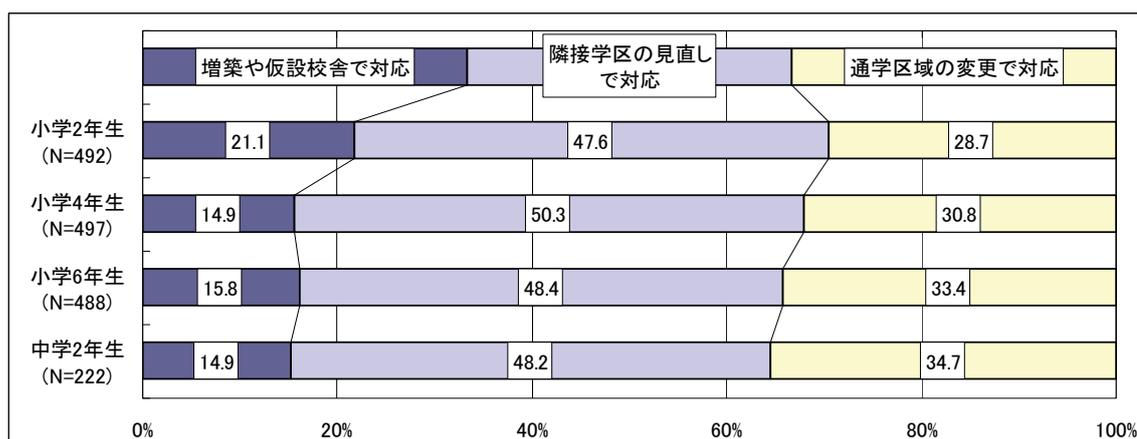


【クロス集計分析】（「その他」「無回答」を除いて集計。合計は100%にならない）

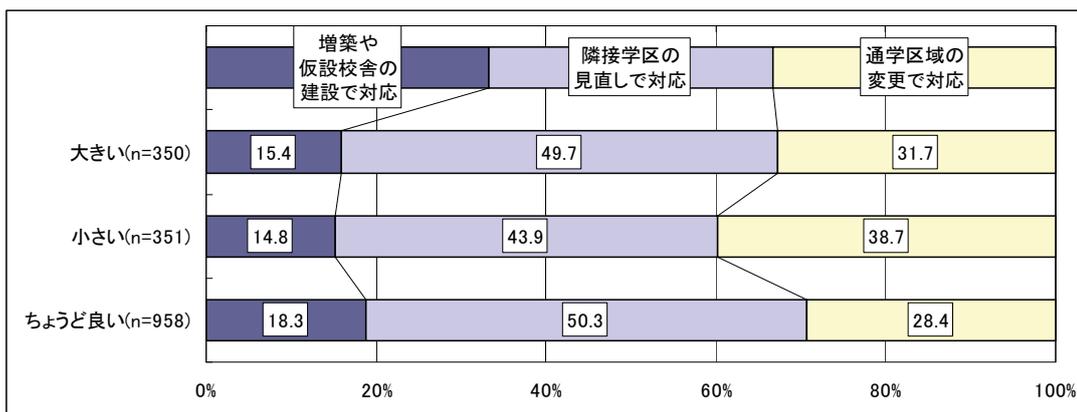
①地区別



②学年別



③学校の規模別（「大規模校対策」について）



④学校別（「大規模校対策」について）

		(%)	学級数	増築や仮設校舎の建設で対応する	隣接学区の見直しで対応する	通学手段を工夫して通学区の変更で対応する
合計(n=1702)		—	—	17.0	48.7	31.4
小学校	元町	浦安小学校(n=76)	12	18.4	44.7	31.6
		南小学校(n=86)	29	12.8	45.3	39.5
		北部小学校(n=90)	27	26.7	46.7	26.7
		東小学校(n=90)	25	24.4	44.4	27.8
	中町	見明川小学校(n=80)	17	17.5	51.3	27.5
		富岡小学校(n=101)	32	19.8	47.5	22.8
		美浜南小学校(n=87)	12	11.5	49.4	35.6
		美浜北小学校(n=73)	6	16.4	45.2	38.4
		入船北小学校(n=84)	6	9.5	26.2	63.1
		入船南小学校(n=89)	15	15.7	55.1	24.7
		舞浜小学校(n=96)	23	14.6	51.0	30.2
	新町	日の出小学校(n=90)	22	17.8	52.2	27.8
		日の出南小学校(n=91)	29	16.5	60.4	23.1
		明海小学校(n=85)	14	24.7	52.9	18.8
明海南小学校(n=82)		22	18.3	48.8	31.7	
高洲小学校(n=91)		25	12.1	53.8	30.8	
高洲北小学校(n=88)	13	17.0	51.1	29.5		
中学校	元町	浦安中学校(n=26)	18	19.2	34.6	46.2
		堀江中学校(n=21)	13	9.5	61.9	23.8
		見明川中学校(n=29)	13	3.4	55.2	41.4
	中町	入船中学校(n=32)	11	12.5	43.8	40.6
		富岡中学校(n=26)	12	19.2	65.4	11.5
		美浜中学校(n=26)	9	11.5	23.1	65.4
	新町	日の出中学校(n=28)	12	17.9	53.6	25.0
		明海中学校(n=35)	13	22.9	51.4	22.9

 : 平均より目立って多い回答
 : 平均よりやや多い回答

[コメント]

○全 体

- ・「隣接学区の見直しで対応」、「通学区域の変更で対応」の順で回答が多くなっている。
- ・「増築や仮設校舎の建設で対応」は 17.0%となっている。

○地区別

- ・新町で「隣接学区の見直しで対応」が多く、「通学区域の変更で対応」が少なくなっている。

○学年別

- ・小学校低学年で「増築や仮設校舎の建設で対応」が多い傾向が見られる。

○学校の規模別

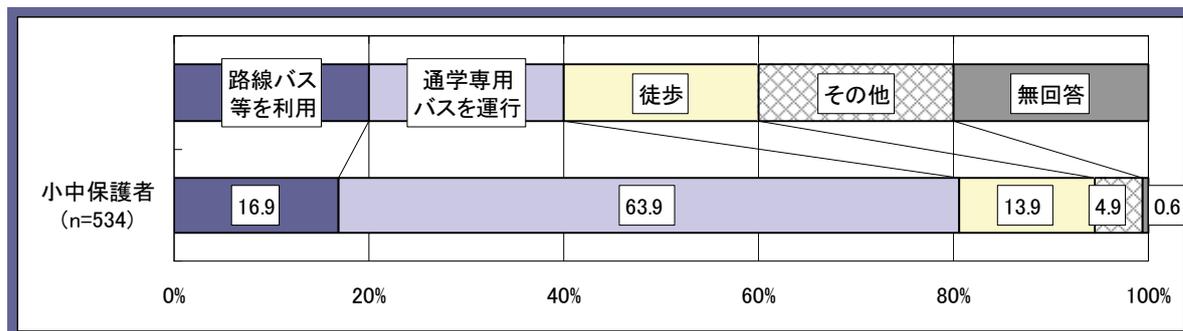
- ・自らの子どもの学校が「大きい」とした回答者とそれ以外との間で、大きな違いは見られない。

○学校別

- ・富岡中、堀江中などで「隣接学区の見直しで対応」がやや多い。
- ・美浜中、入船北小などで「通学区域の変更で対応」がやや多い。
- ・現在の大規模校、過大規模校（南小、北部小、東小、富岡小、高洲小、日の出南小）の多くは、全体平均とさほど異なる比率構成となっていない（日の出南小で「隣接学区の見直しで対応」がやや多くなっている）。

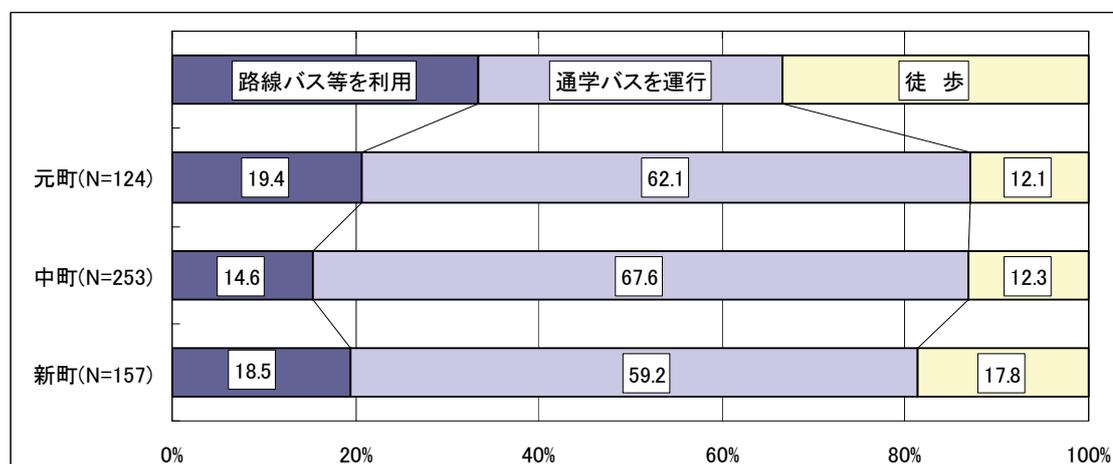
2) - 2 通学方法 (対象: 2) で「通学区域の変更で対応」とした回答者のみ)

～通学区域の変更により学区を越えて通学距離が長くなった場合、望ましい対応策

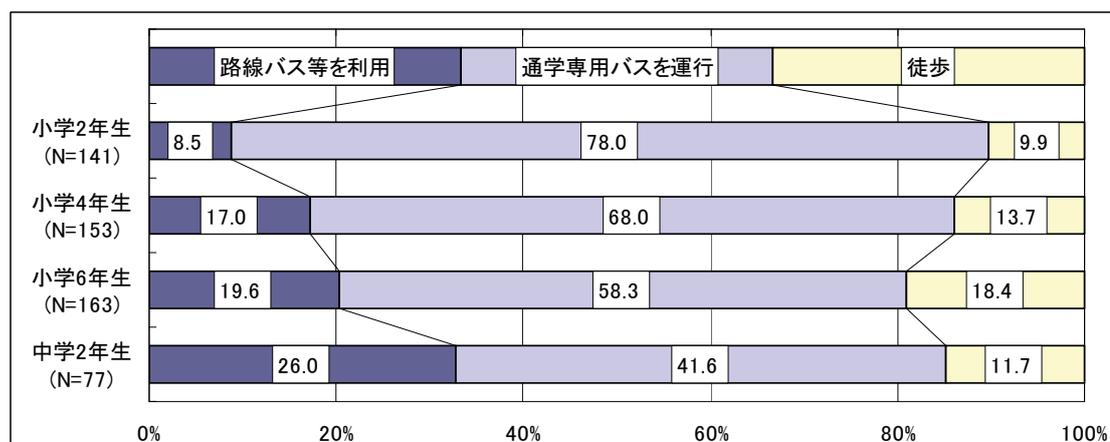


【クロス集計分析】(「その他」「無回答」を除いて集計。合計は100%にならない)

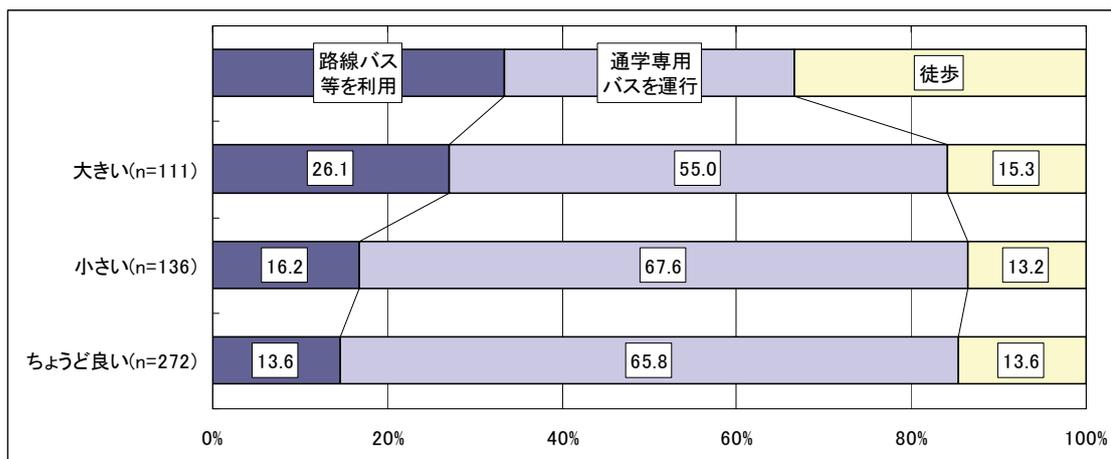
①地区別



②学年別



③学校の規模別（「通学方法」について）



④学校別（「通学方法」について）

		(%)	学級数	路線バス等 を利用する	通学専用バ スを運行す る	徒歩
合計(n=534)				16.9	63.9	13.9
小学校	元町	浦安小学校(n=24)	12	8.3	70.8	16.7
		南小学校(n=34)	29	23.5	58.8	14.7
		北部小学校(n=24)	27	20.8	62.5	8.3
		東小学校(n=25)	25	20.0	68.0	8.0
	中町	見明川小学校(n=22)	17	9.1	68.2	18.2
		富岡小学校(n=23)	32	21.7	65.2	13.0
		美浜南小学校(n=31)	12	12.9	64.5	19.4
		美浜北小学校(n=28)	6	17.9	75.0	7.1
		入船北小学校(n=53)	6	7.5	81.1	11.3
		入船南小学校(n=22)	15	13.6	59.1	18.2
		舞浜小学校(n=29)	23	6.9	89.7	3.4
	新町	日の出小学校(n=25)	22	28.0	60.0	12.0
		日の出南小学校(n=21)	29	23.8	61.9	14.3
		明海小学校(n=16)	14	18.8	43.8	37.5
		明海南小学校(n=26)	22	11.5	53.8	26.9
高洲小学校(n=28)		25	10.7	71.4	14.3	
高洲北小学校(n=26)	13	15.4	69.2	11.5		
中学校	元町	浦安中学校(n=12)	18	33.3	41.7	8.3
		堀江中学校(n=5)	13	0.0	60.0	20.0
		見明川中学校(n=12)	13	16.7	58.3	16.7
	中町	入船中学校(n=13)	11	23.1	38.5	7.7
		富岡中学校(n=3)	12	0.0	33.3	33.3
		美浜中学校(n=17)	9	41.2	29.4	5.9
	新町	日の出中学校(n=7)	12	0.0	57.1	14.3
		明海中学校(n=8)	13	50.0	25.0	12.5

■ : 平均より目立って多い回答

▨ : 平均よりやや多い回答

[コメント]

○全 体

- ・「通学専用バスを運行」が最も多く、6割以上を占めている。

○地区別

- ・中町で「通学専用バスを運行」、新町で「徒歩」がやや多くなっている。

○学年別

- ・小学校高学年、中学生になるほど「路線バス等を利用」が増加し、「通学専用バスを運行」が減少する傾向が見られる。

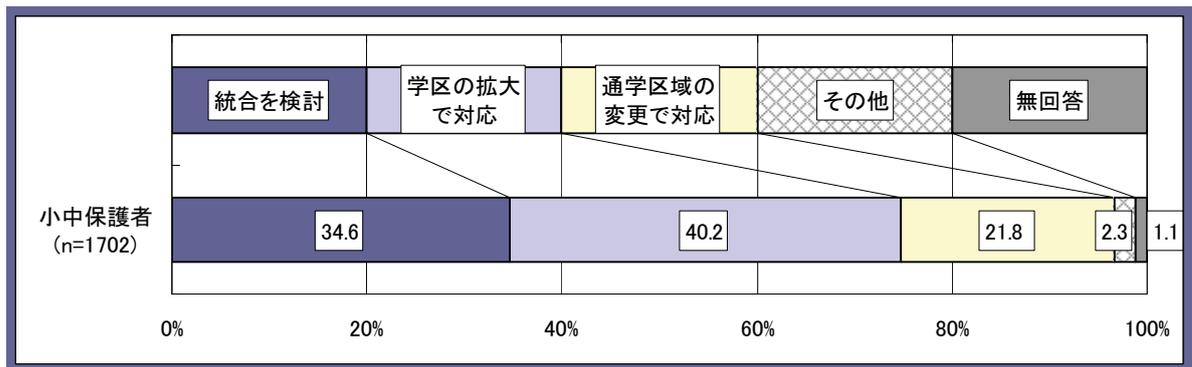
○学校の規模別

- ・自らの子どもの学校が「大きい」とした回答者は「路線バス等を利用」が多く、「通学専用バスを運行」が少ない傾向が見られる。

○学校別

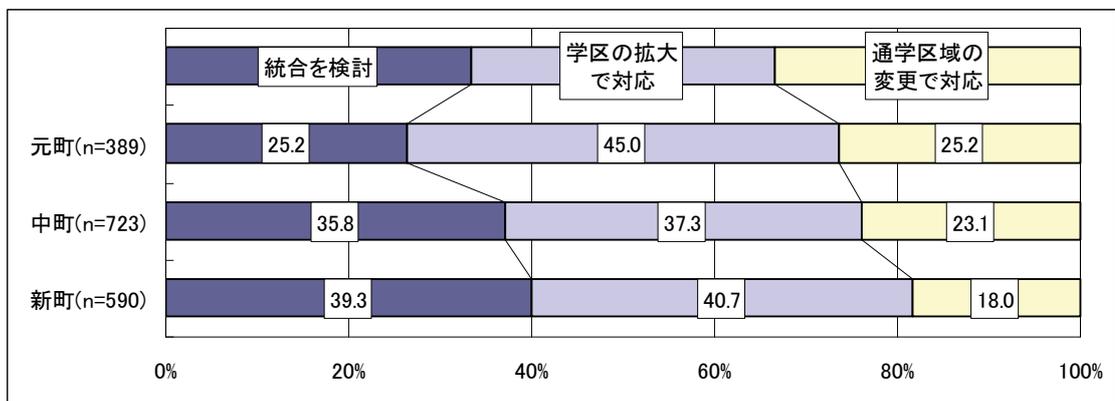
- ・美浜中、明海中などで「路線バス等を利用」が多い。
- ・舞浜小、入船北小、美浜北小などで「通学専用バスを運行」が多い。
- ・明海小、明海南小、富岡中などで「徒歩」が多い。
- ・現在の大規模校、過大規模校（南小、北部小、東小、富岡小、高洲小、日の出南小）は、全体平均とさほど異なる比率構成となっていない。

3) 小規模校対策

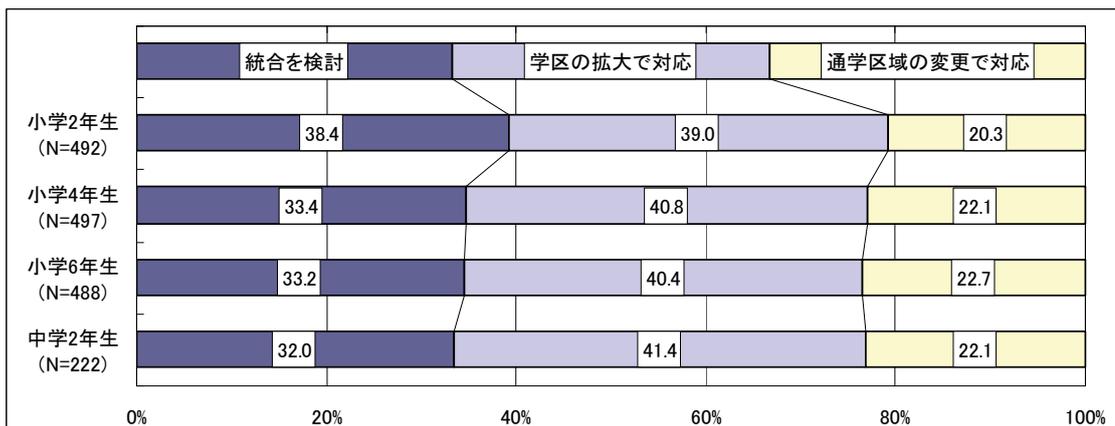


【クロス集計分析】（「その他」「無回答」を除いて集計。合計は100%にならない）

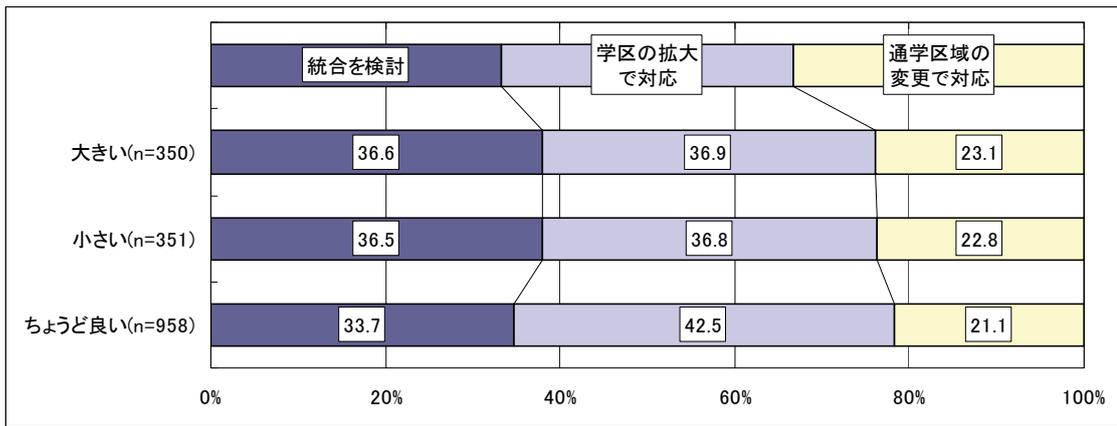
①地区別



②学年別



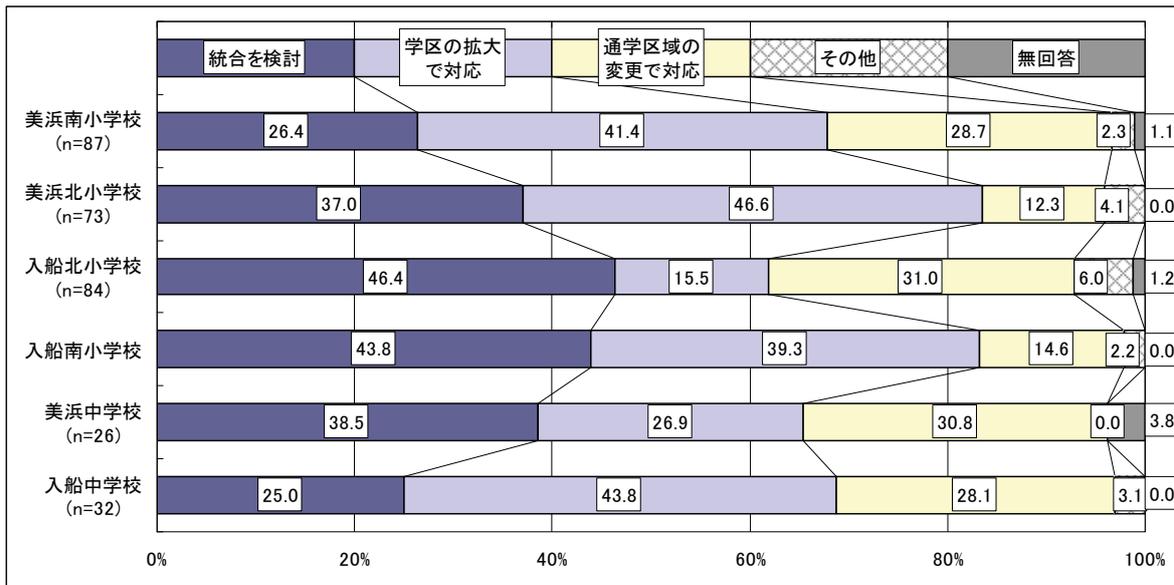
③学校の規模別（「小規模校対策」について）



④学校別（「小規模校対策」について）

	(%)	学級数	統合を検討する	学区の拡大で対応する	通学手段を工夫して通学区域の変更で対応する	
合計(n=1702)						
小学校	元町	浦安小学校(n=76)	12	18.4	50.0	28.9
	南小学校(n=86)	29	24.4	41.9	26.7	
	北部小学校(n=90)	27	32.2	42.2	23.3	
	東小学校(n=90)	25	22.2	52.2	22.2	
	中町	見明川小学校(n=80)	17	36.3	42.5	20.0
	富岡小学校(n=101)	32	46.5	30.7	18.8	
	美浜南小学校(n=87)	12	26.4	41.4	28.7	
	美浜北小学校(n=73)	6	37.0	46.6	12.3	
	入船北小学校(n=84)	6	46.4	15.5	31.0	
	入船南小学校(n=89)	15	43.8	39.3	14.6	
	舞浜小学校(n=96)	23	22.9	39.6	32.3	
	新町	日の出小学校(n=90)	22	36.7	46.7	14.4
	日の出南小学校(n=91)	29	42.9	36.3	20.9	
	明海小学校(n=85)	14	36.5	49.4	10.6	
	明海南小学校(n=82)	22	41.5	34.1	22.0	
	高洲小学校(n=91)	25	41.8	38.5	17.6	
	高洲北小学校(n=88)	13	37.5	37.5	23.9	
	中学校	元町	浦安中学校(n=26)	18	30.8	26.9
堀江中学校(n=21)		13	28.6	42.9	19.0	
見明川中学校(n=29)		13	31.0	44.8	24.1	
中町		入船中学校(n=32)	11	25.0	43.8	28.1
富岡中学校(n=26)		12	23.1	57.7	15.4	
美浜中学校(n=26)		9	38.5	26.9	30.8	
新町		日の出中学校(n=28)	12	32.1	42.9	25.0
明海中学校(n=35)		13	42.9	42.9	8.6	

: 平均より目立って多い回答
 : 平均よりやや多い回答



〔コメント〕

○全体

- ・「学区の拡大で対応」が 40.2%で最も多く、「統合を検討」は次順位で 34.6%となっている。

○地区別

- ・元町で「統合を検討」が少なく、「学区の拡大で対応」が多い傾向が見られる。

○学年別

- ・小学2年生で「統合を検討」がやや多くなっている。

○学校の規模別

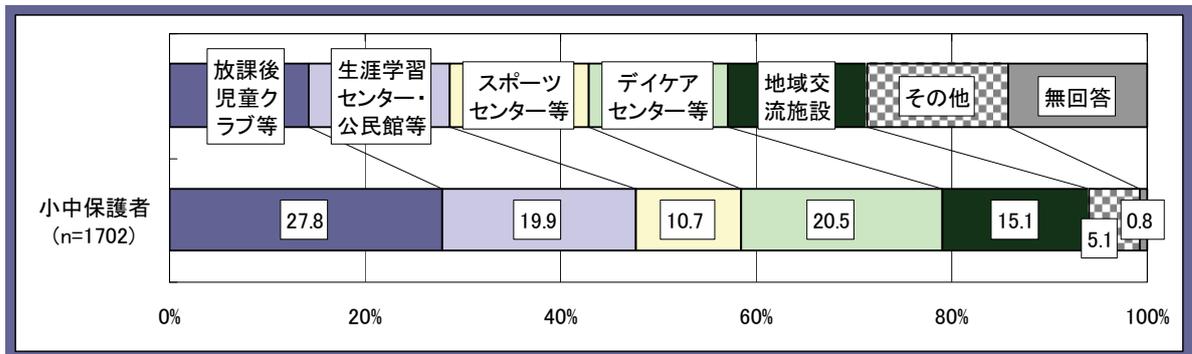
- ・自らの子どもの学校が「小さい」とした回答者とそれ以外との間で、大きな違いは見られない。

○学校別

- ・富岡小、入船北小で「統合を検討」の比率が高い。
- ・東小、富岡中で「学区の拡大で対応」の比率が高い。
- ・入船北小、入船南小、美浜北小では「統合を検討」の比率が全体平均を上回っているが、美浜南小では下回っている。同じく美浜中では上回っているが、入船中では下回っている。

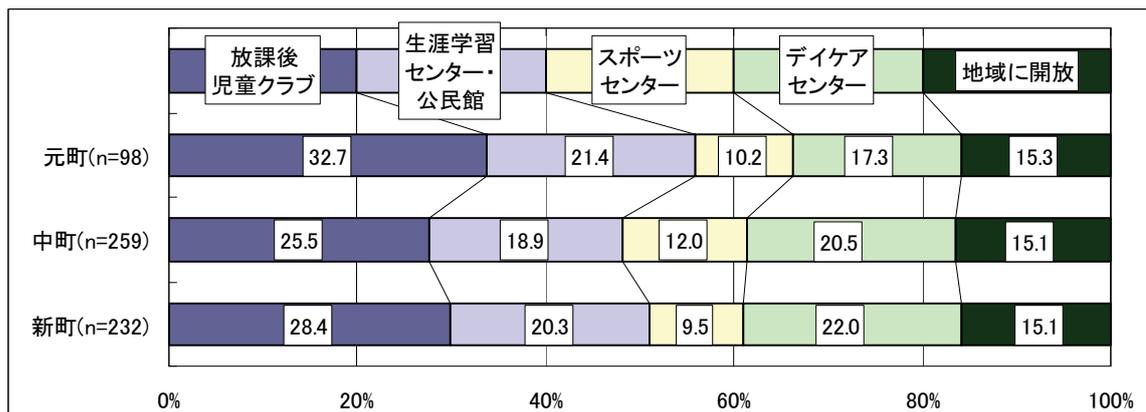
3) - 2 空き教室の活用方法 (対象: 3) で「統合を検討する」とした回答者のみ)

～学校統合により空き教室等ができた場合の活用方法



【クロス集計分析】 (「その他」「無回答」を除いて集計。合計は100%にならない)

①地区別



〔コメント〕

○全体

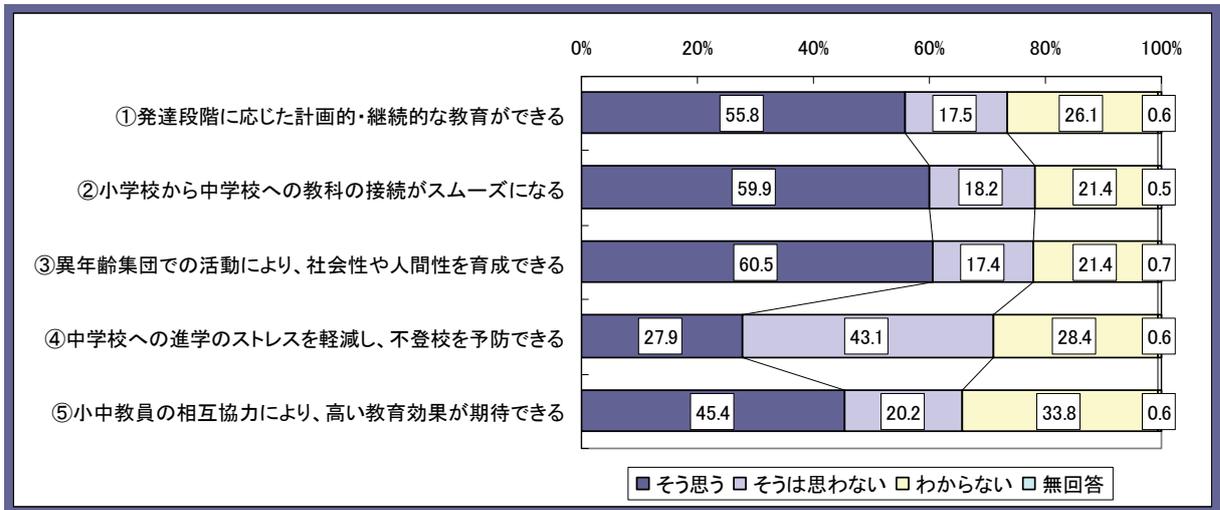
- ・「放課後児童クラブ等」「デイケアセンター等」「生涯学習センター・公民館等」の順で回答が多くなっている。

○地区別

- ・元町で「放課後児童クラブ等」がやや多い傾向が見られる。

◇小中連携・一貫教育についての設問

1) 小中連携・一貫教育のメリット



(注)

- ・「そう思う」＝「メリットがあると思う」＝「小中連携・一貫教育に肯定的」
- ・「そうは思わない」＝「メリットがあるとは思わない」＝「小中連携・一貫教育に否定的」

[コメント]

○全体

- ・多くの項目について「メリットがある」と肯定的に考えられている。
- ・唯一「進学ストレスの軽減、不登校の予防」については「そうは思わない」との回答の方が多くなっている。

○地区別

- ・「異年齢集団での活動で、社会性や人間性を育成」「小中教員の相互協力で、高い教育効果を期待」は、新町地区でメリットがあると考えられている。

○学年別

- ・「小学校から中学校への教科の接続がスムーズ」「進学ストレスの軽減、不登校の予防」は、低学年になるほどメリットがあると考えられている。

○学校の規模別

- ・各項目で大きな違いは見られない。

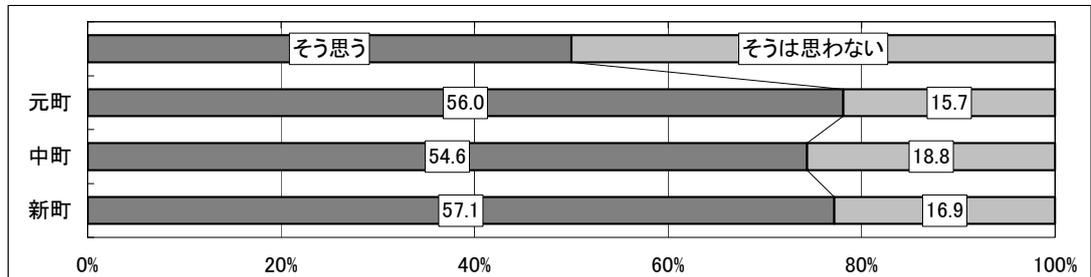
○学校別

- ・北部小、日の出南小、高洲北小などで、より多くの項目でメリットがあると考えられている傾向が見られる。
- ・全体的にみて、中学校より小学校のほうが、メリットについて肯定的に考えられている。

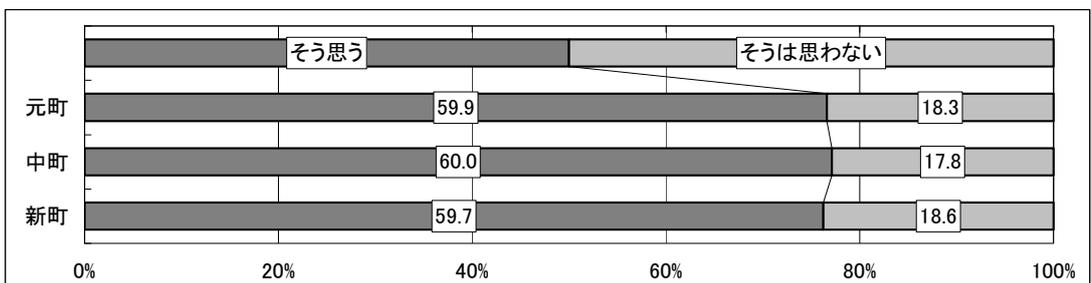
【クロス集計分析】（「わからない」「無回答」を除いて集計。合計は100%にならない）

①地区別（「小中連携・一貫教育のメリット」について）

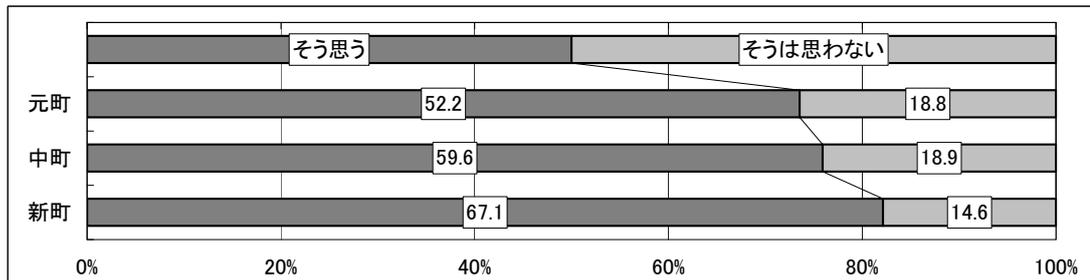
①発達段階に応じた計画的・継続的な教育ができる



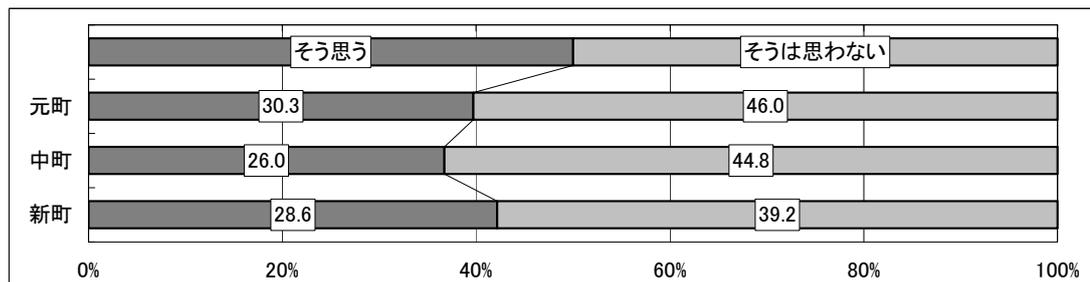
②小学校から中学校への教科の接続がスムーズになる



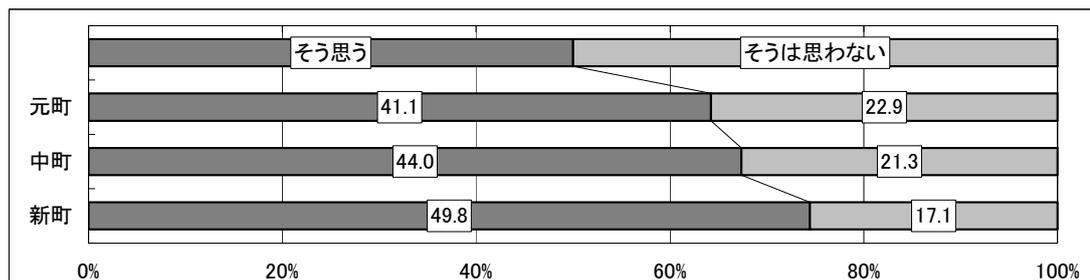
③異年齢集団での活動により、社会性や人間性を育成できる



④中学校への進学ストレスを軽減し、不登校を予防できる

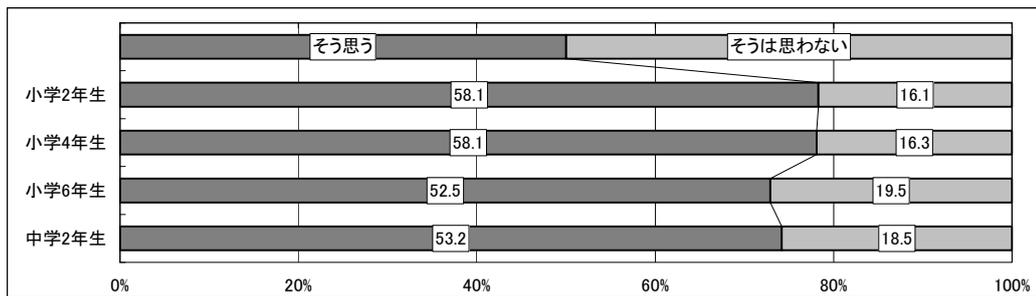


⑤小中教員の相互協力により、高い教育効果が期待できる

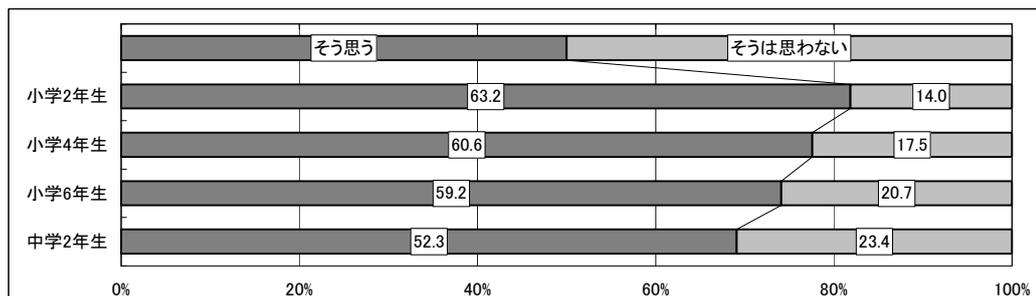


②学年別（「小中連携・一貫教育のメリット」について）

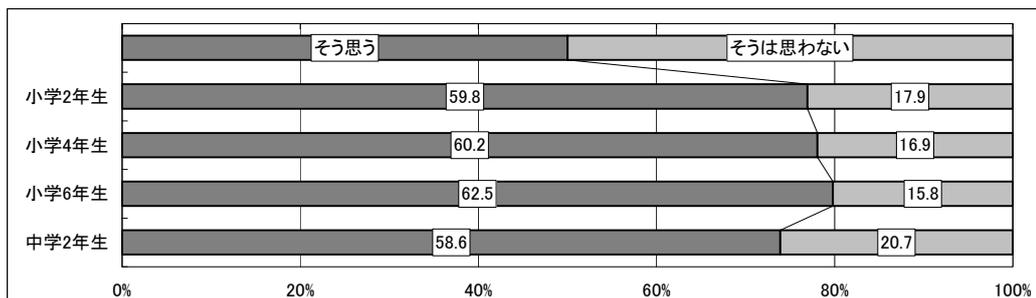
①発達段階に応じた計画的・継続的な教育ができる



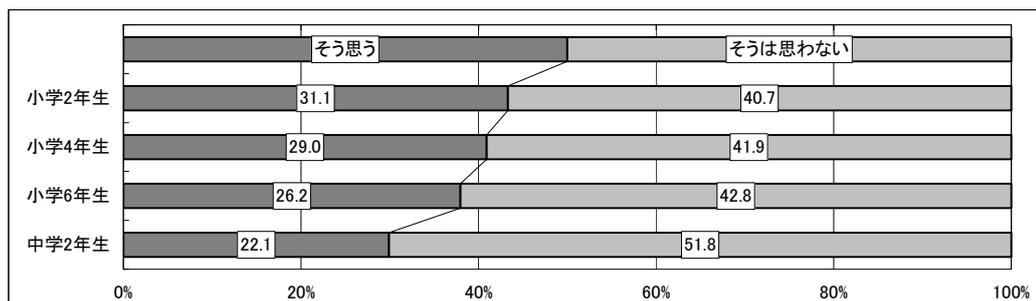
②小学校から中学校への教科の接続がスムーズになる



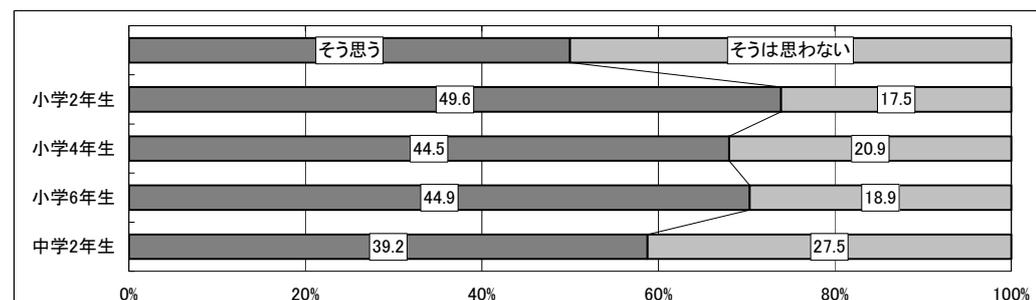
③異年齢集団での活動により、社会性や人間性を育成できる × 問10学年



④中学校への進学ストレスを軽減し、不登校を予防できる

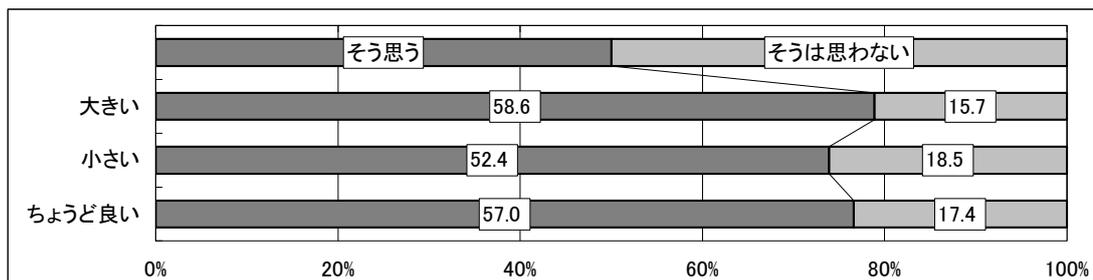


⑤小中教員の相互協力により、高い教育効果が期待できる

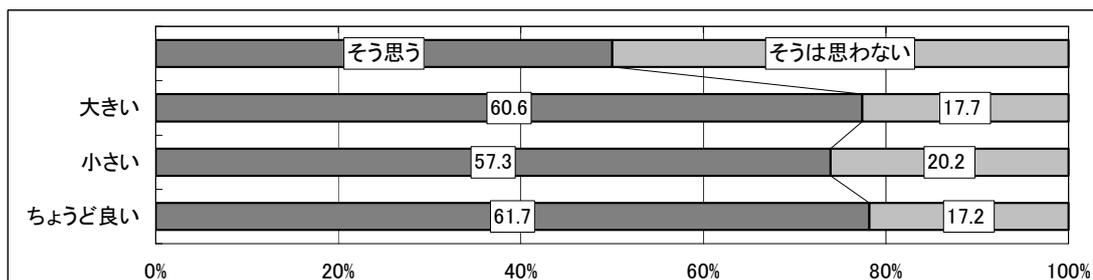


③学校の規模別（「小中連携・一貫教育のメリット」について）

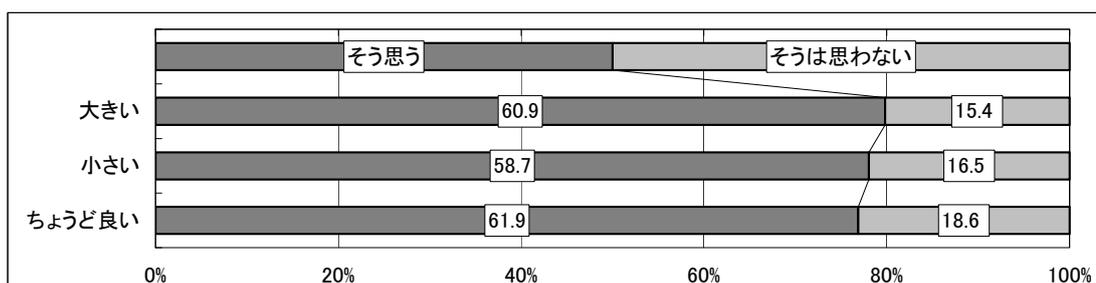
①発達段階に応じた計画的・継続的な教育ができる



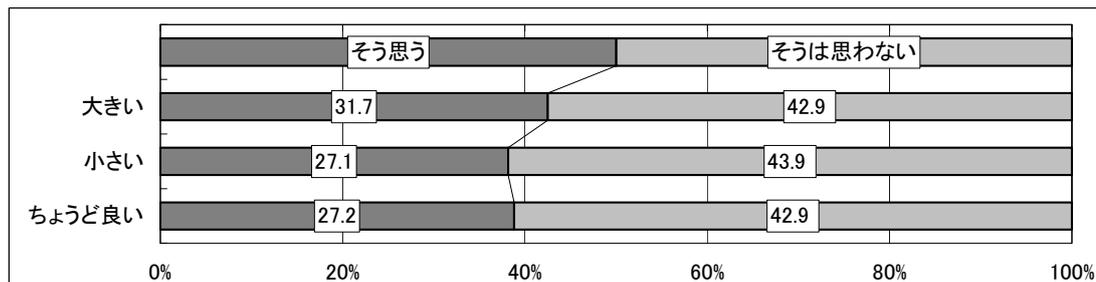
②小学校から中学校への教科の接続がスムーズになる



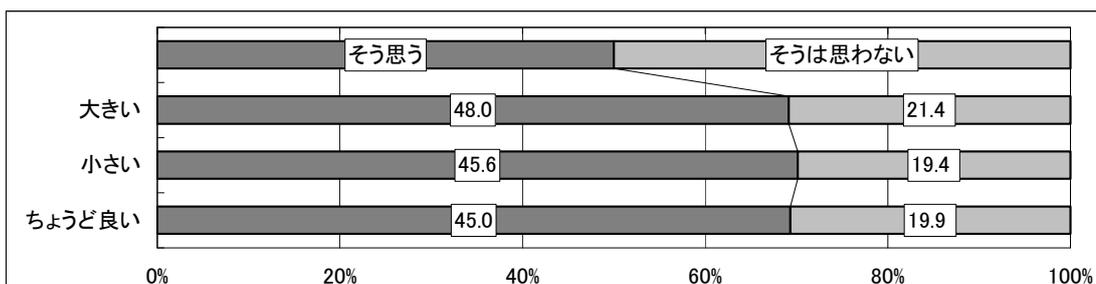
③異年齢集団での活動により、社会性や人間性を育成できる



④中学校への進学ストレスを軽減し、不登校を予防できる



⑤小中教員の相互協力により、高い教育効果が期待できる



④学校別（「小中連携・一貫教育のメリット」について）

		「そう思う」の割合 （「そう思う」+ 「そうは思わない」）	学級数	①発達段階に応じた計画的・継続的な教育ができる	②小学校から中学校への教科の接続がスムーズになる	③異年齢集団での活動により、社会性や人間性を育成できる	④中学校への進学のストレスを軽減し、不登校を予防できる	⑤小中教員の相互協力により、高い教育効果が期待できる
		合計(n=1702)	—	76.1	76.7	77.7	39.3	69.2
小学校	元町	浦安小学校(n=76)	12	78.2	75.0	70.3	37.2	60.8
		南小学校(n=86)	29	74.2	73.2	68.3	30.3	60.4
		北部小学校(n=90)	27	88.4	86.3	84.6	51.4	78.0
		東小学校(n=90)	25	68.9	73.3	75.0	40.6	60.4
	中町	見明川小学校(n=80)	17	74.5	71.4	78.2	41.9	74.1
		富岡小学校(n=101)	32	76.3	80.5	73.7	34.3	57.6
		美浜南小学校(n=87)	12	65.1	69.6	71.3	42.8	64.5
		美浜北小学校(n=73)	6	69.8	75.4	80.8	46.8	72.8
		入船北小学校(n=84)	6	76.9	79.7	79.7	44.7	75.0
		入船南小学校(n=89)	15	78.5	82.8	78.2	35.9	67.3
		舞浜小学校(n=96)	23	80.9	84.0	75.3	30.1	72.8
	新町	日の出小学校(n=90)	22	70.0	76.0	72.0	35.0	67.8
		日の出南小学校(n=91)	29	81.2	81.8	83.8	47.5	82.4
		明海小学校(n=85)	14	63.8	69.7	79.7	54.6	67.2
		明海南小学校(n=82)	22	80.7	76.5	89.7	54.0	83.3
		高洲小学校(n=91)	25	84.9	80.5	83.1	37.1	77.2
		高洲北小学校(n=88)	13	82.4	83.8	84.9	38.3	80.3
	中学校	元町	浦安中学校(n=26)	18	85.0	66.7	73.9	39.1
堀江中学校(n=21)			13	75.0	80.0	50.0	33.3	53.4
見明川中学校(n=29)			13	78.3	66.7	70.9	32.0	61.1
中町		入船中学校(n=32)	11	72.7	76.0	80.0	31.6	70.6
		富岡中学校(n=26)	12	75.0	73.7	80.0	23.5	52.9
		美浜中学校(n=26)	9	58.9	76.2	60.0	15.0	52.7
新町		日の出中学校(n=28)	12	66.7	57.2	79.1	31.8	54.6
		明海中学校(n=35)	13	81.0	61.5	85.2	29.2	65.2

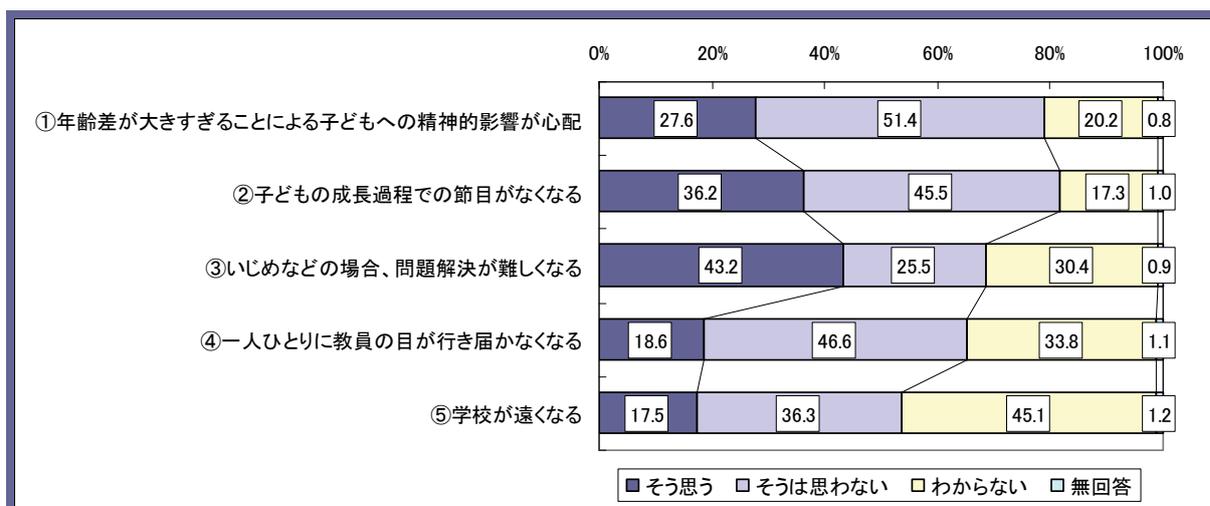


:平均より目立って多い回答
=「小中連携一貫」に肯定的



:平均より目立って少ない回答
=「小中連携一貫」に否定的

2) 小中連携・一貫教育のデメリット



(注)

- ・「そう思う」＝「デメリットがあると思う」＝「小中連携・一貫教育に否定的」
- ・「そうは思わない」＝「デメリットがあるとは思わない」＝「小中連携・一貫教育に肯定的」

[コメント]

○全体

- ・デメリットとしてあげた多くの項目で、「そうは思わない」（＝肯定的）との回答が「そう思う」（＝否定的）よりも多くなっている。
- ・唯一「いじめなどの問題解決が難しくなる」は、「そう思う」の方が多い。

○地区別

- ・各デメリット項目について、「そう思う」（＝否定的）との回答が、元町で多く、新町で少ない傾向が見られる。
- ・特に「一人ひとりに教員の目が行き届かなくなる」「学校が遠くなる」というデメリットについて、元町で「そう思う」と考えられている。

○学年別

- ・「年齢差が大きすぎることで子どもへの精神的影響が心配」は、低学年ほど「そう思う」（＝否定的）と考えられている。逆に「子どもの成長過程での節目がなくなる」は小学校高学年、中学生になるほど「そう思う」と考えられている。

○学校の規模別

- ・各設問で大きな違いは見られない。

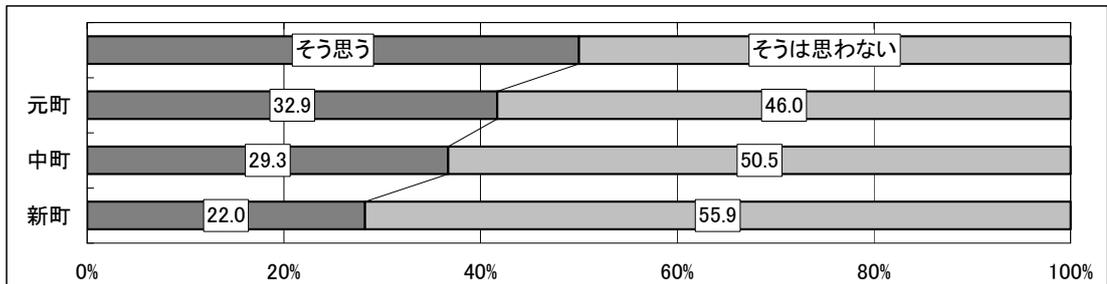
○学校別

- ・小学校では浦安小、東小、南小、中学校では日の出中などで「そう思う」（＝否定的）と考えられている項目が多い。
- ・逆に、小学校では明海南小、高洲小、中学校では明海中などで「そうは思わない」（＝肯定的）と考えられている項目が多い。

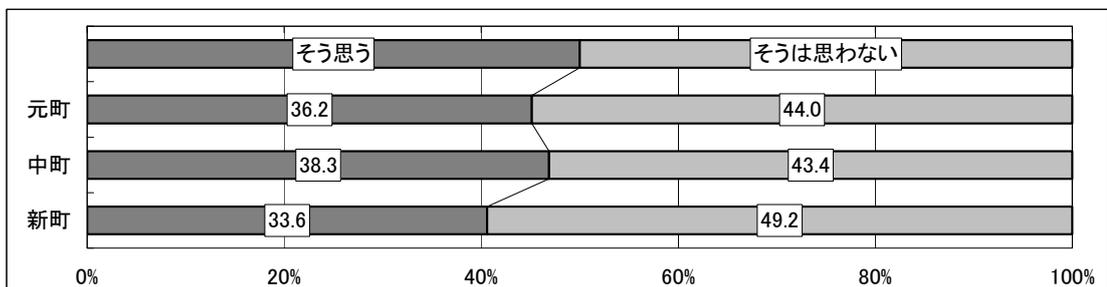
【クロス集計分析】（「わからない」「無回答」を除いて集計。合計は100%にならない）

①地区別（「小中連携・一貫教育のデメリット」について）

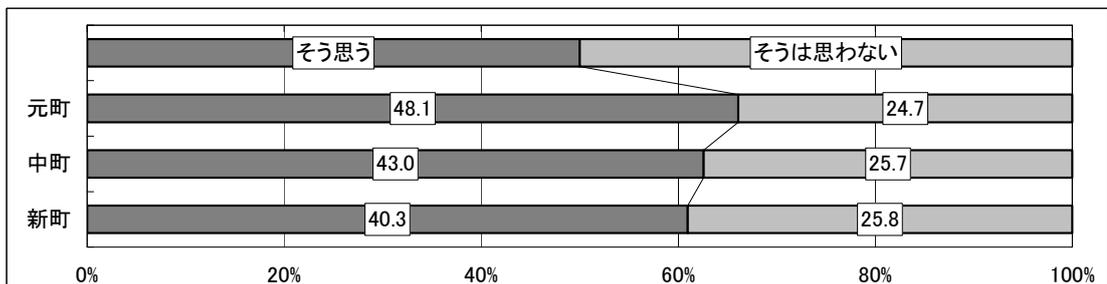
①年齢差が大きすぎることによる子どもへの精神的影響が心配



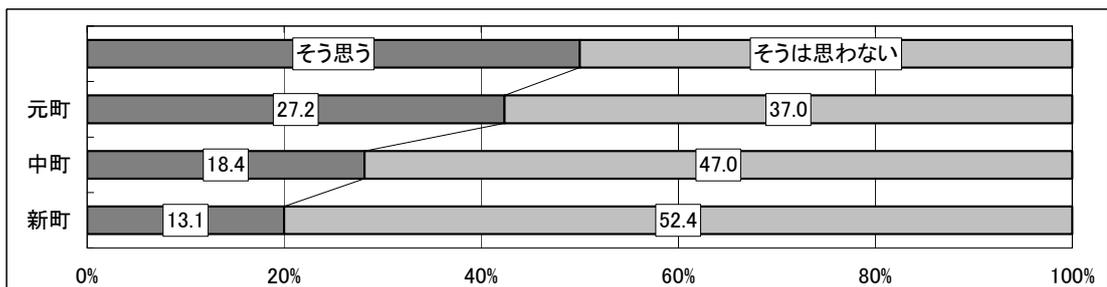
②子どもの成長過程での節目がなくなる



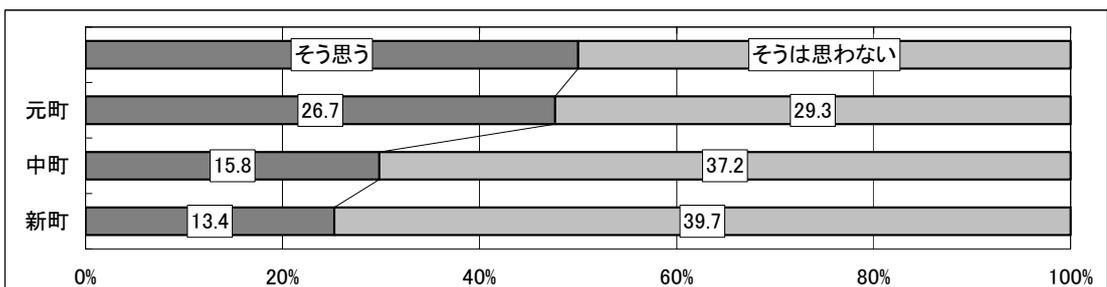
③いじめなどの場合、問題解決が難しくなる



④一人ひとりに教員の目が行き届かなくなる

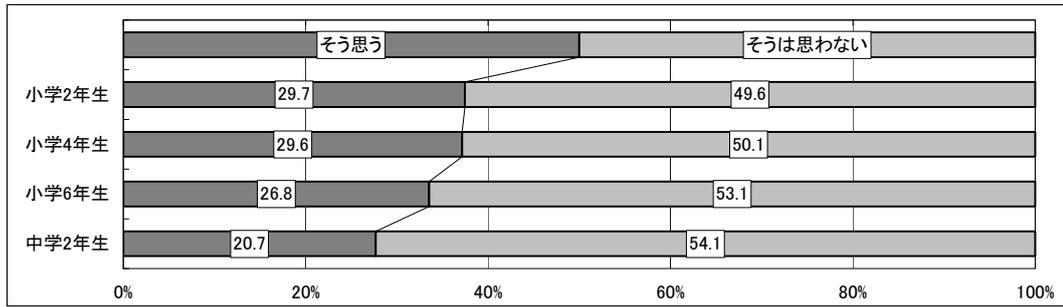


⑤学校が遠くなる

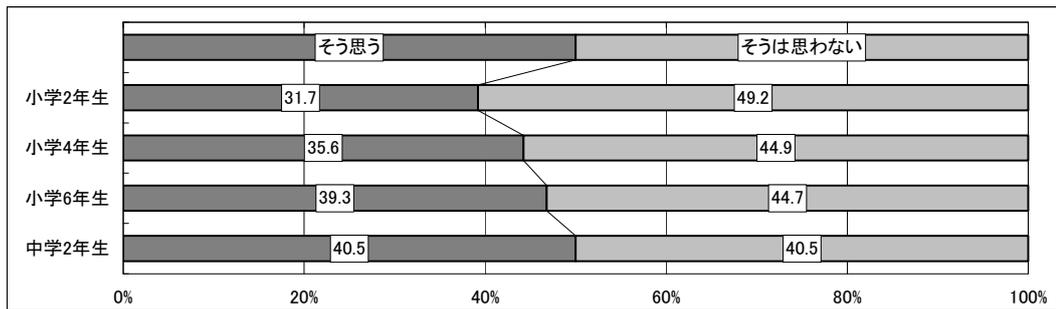


②学年別（「小中連携・一貫教育のデメリット」について）

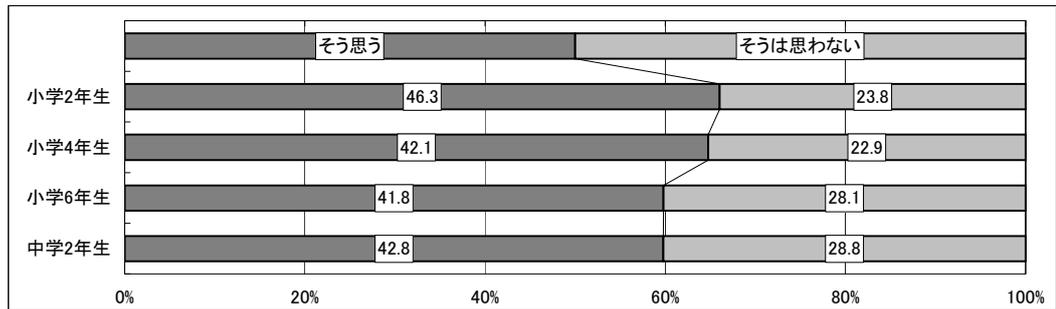
①年齢差が大きすぎることによる子どもへの精神的影響が心配



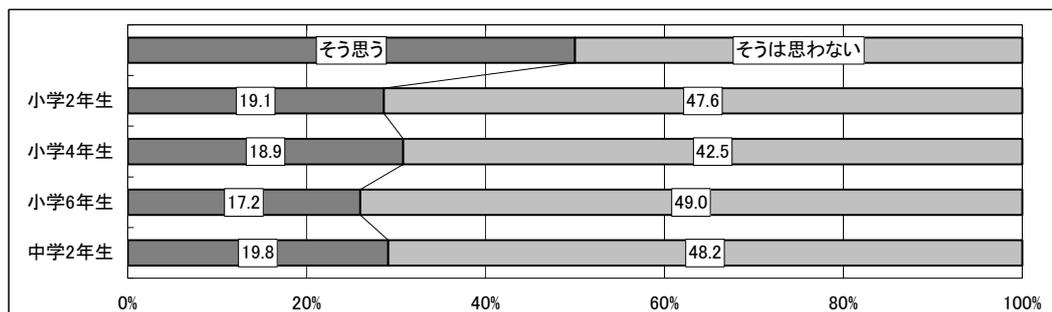
②子どもの成長過程での節目がなくなる



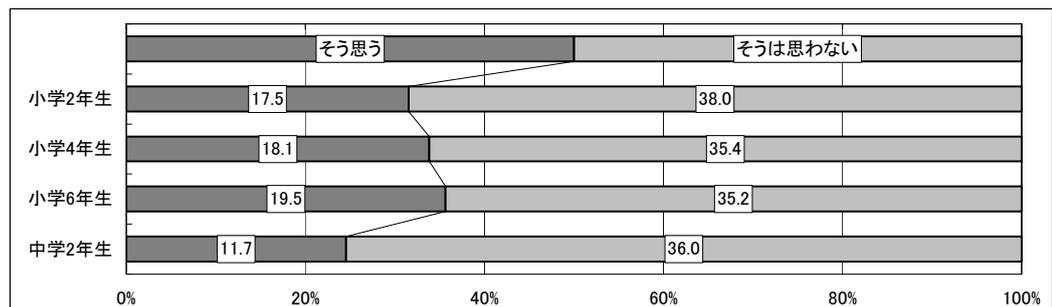
③いじめなどの場合、問題解決が難しくなる



④一人ひとりに教員の目が行き届かなくなる

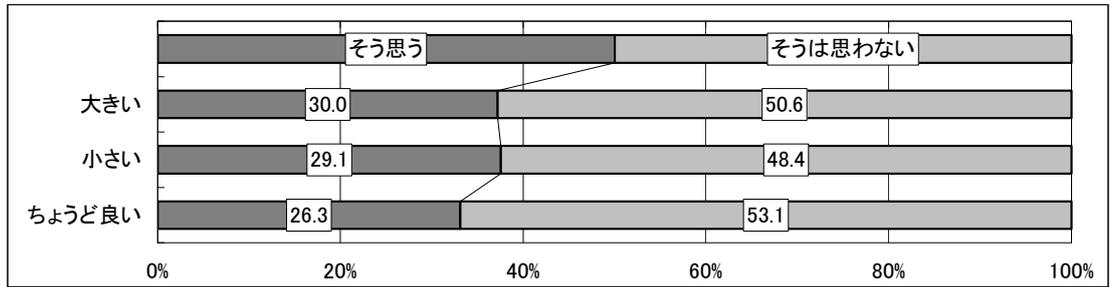


⑤学校が遠くなる

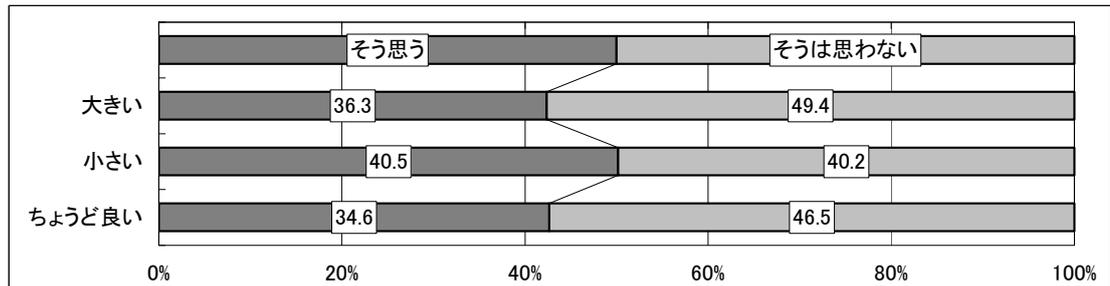


③学校の規模別（「小中連携・一貫教育のデメリット」について）

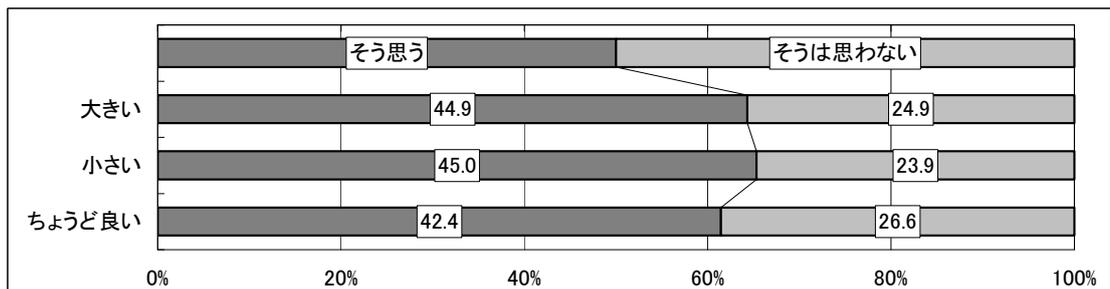
①年齢差が大きすぎることによる子どもへの精神的影響が心配



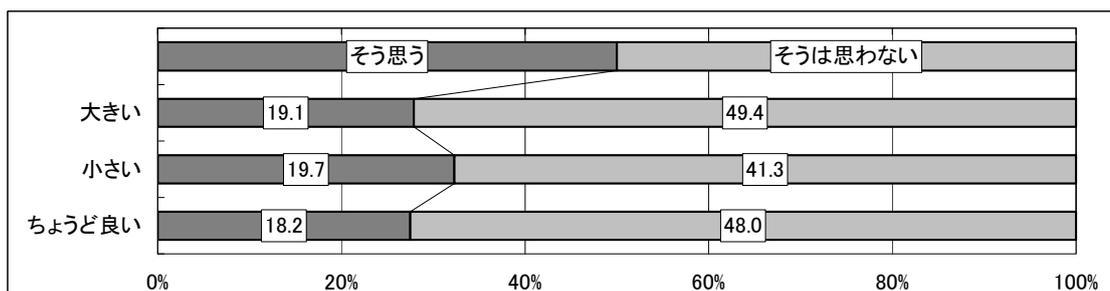
②子どもの成長過程での節目がなくなる



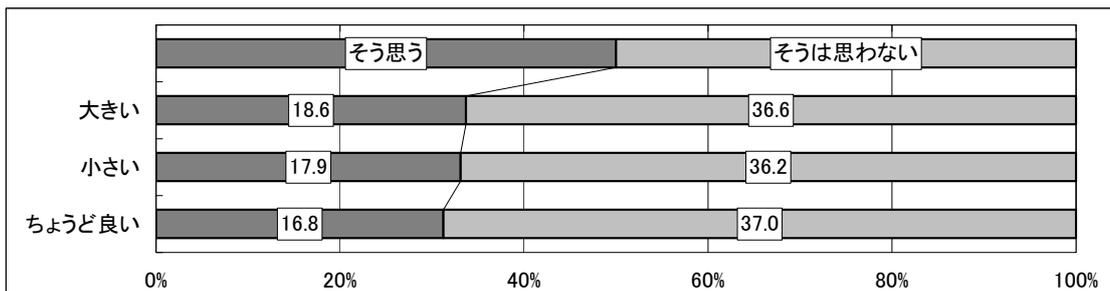
③いじめなどの場合、問題解決が難しくなる



④一人ひとりに教員の目が行き届かなくなる



⑤学校が遠くなる



④学校別（「小中連携・一貫教育のデメリット」について）

		「そう思う」の割合 （「そう思う」+ 「そうは思わない」）	学級数	①年齢差が大きすぎることによる子どもへの精神的影響が心配	②子どもの成長過程での節目がなくなる	③いじめなどの場合、問題解決が難しくなる	④一人ひとりに教員の目が行き届かなくなる	⑤学校が遠くなる	
		合計(n=1702)	—	34.9	44.3	62.9	28.5	32.5	
小学校	元町	浦安小学校(n=76)	12	42.1	46.6	70.6	60.0	51.9	
		南小学校(n=86)	29	40.8	45.1	71.6	45.0	25.1	
		北部小学校(n=90)	27	42.6	36.5	61.1	24.6	60.3	
		東小学校(n=90)	25	52.0	50.0	65.1	45.7	51.0	
	中町	見明川小学校(n=80)	17	32.8	41.1	62.3	22.9	32.5	
		富岡小学校(n=101)	32	35.8	48.8	64.7	29.0	10.5	
		美浜南小学校(n=87)	12	49.3	47.9	64.5	29.8	50.0	
		美浜北小学校(n=73)	6	41.1	50.9	58.7	32.5	27.6	
		入船北小学校(n=84)	6	29.4	40.6	55.7	30.9	37.8	
		入船南小学校(n=89)	15	33.8	50.0	55.2	28.6	16.7	
	新町	舞浜小学校(n=96)	23	36.6	43.4	71.2	26.8	52.2	
		日の出小学校(n=90)	22	35.2	43.6	66.7	28.6	20.0	
		日の出南小学校(n=91)	29	34.3	45.7	62.5	17.2	31.8	
		明海小学校(n=85)	14	32.2	51.5	56.4	25.5	23.3	
		明海南小学校(n=82)	22	17.6	22.4	58.6	9.4	8.0	
		高洲小学校(n=91)	25	23.6	31.0	61.9	13.1	36.0	
	中学校	元町	高洲北小学校(n=88)	13	32.8	45.8	66.6	24.1	34.0
			浦安中学校(n=26)	18	19.1	42.8	64.7	47.8	35.7
堀江中学校(n=21)			13	20.0	64.3	53.8	30.7	33.3	
中町		見明川中学校(n=29)	13	47.8	34.6	59.1	38.9	10.0	
		入船中学校(n=32)	11	40.0	42.9	68.0	18.2	33.4	
		富岡中学校(n=26)	12	20.0	59.1	66.7	18.7	16.7	
		美浜中学校(n=26)	9	37.5	71.4	60.0	29.4	16.5	
新町		日の出中学校(n=28)	12	28.5	54.6	65.2	35.3	50.0	
		明海中学校(n=35)	13	11.6	40.7	36.4	15.3	6.3	



:平均より目立って多い回答
=「小中連携一貫」に否定的



:平均より目立って少ない回答
=「小中連携一貫」に肯定的

4. 児童生徒数推計結果

(1) 推計内容

1) 推計期間

○平成 21 年～30 年

・平成 20 年 4 月 1 日の人口の、住民基本台帳にもとづく通学区域別・男女別年齢別人口を基準人口とした。

2) 推計対象

○小学校区：市内 17 学校 学区別・学年別児童数

○中学校区：市内 8 学校 学区別・学年別生徒数

【年齢と学年の関係】

◇小学生

年齢	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳
学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年

◇中学生

年齢	12 歳	13 歳	14 歳
学年	1 年	2 年	6 年

【学区別】

①地区別の小中学校の立地

{小学校}

立地地区	学校数	学校名			
元町	4校	浦安小学校	南小学校	北部小学校	東小学校
中町	7校	見明川小学校	富岡小学校	舞浜小学校	入船北小学校
		入船南小学校	美浜北小学校	美浜南小学校	
新町	6校	日の出小学校	日の出南小学校	明海小学校	明海南小学校
		高洲北小学校	高洲小学校		
合計	17校				

{中学校}

立地地区	学校数	学校名			
元町	2校	浦安中学校	堀江中学校		
中町	4校	見明川中学校	富岡中学校	入船中学校	美浜中学校
新町	2校	日の出中学校	明海中学校		
合計	8校				

②小学校・中学校の学区・居住地区等の関係

[小学校]

	小学校名	学校の立地地区	児童の居住地区	進学する中学校	備 考
1	浦安小学校	元町	元町	浦安中学校	
2	南小学校	元町	元町	堀江中学校	
3	北部小学校	元町	元町	浦安中学校	
4	見明川小学校	中町	中町	見明川中学校	
5	富岡小学校	中町	中町	富岡中学校	
6	美浜南小学校	中町	中町	美浜中学校	
7	入船北小学校	中町	中町	入船中学校	
8	東小学校	元町	元町・中町	浦安中学校	・海楽地区(中町)を学区に含む
9	入船南小学校	中町	中町	入船中学校	
10	舞浜小学校	中町	元町・中町	堀江中学校 見明川中学校	・富士見3～5丁目地区(元町)を学区に含む ・学区内児童は、2つの中学校に進学
11	美浜北小学校	中町	中町	美浜中学校	
12	日の出小学校	新町	新町	日の出中学校	
13	明海小学校	新町	新町	明海中学校	
14	高洲小学校	新町	新町	入船中学校	(入船中へ進学)
15	日の出南小学校	新町	新町	日の出中学校	
16	明海南小学校	新町	新町	明海中学校	
17	高洲北小学校	新町	新町	入船中学校	(入船中へ進学)

[中学校]

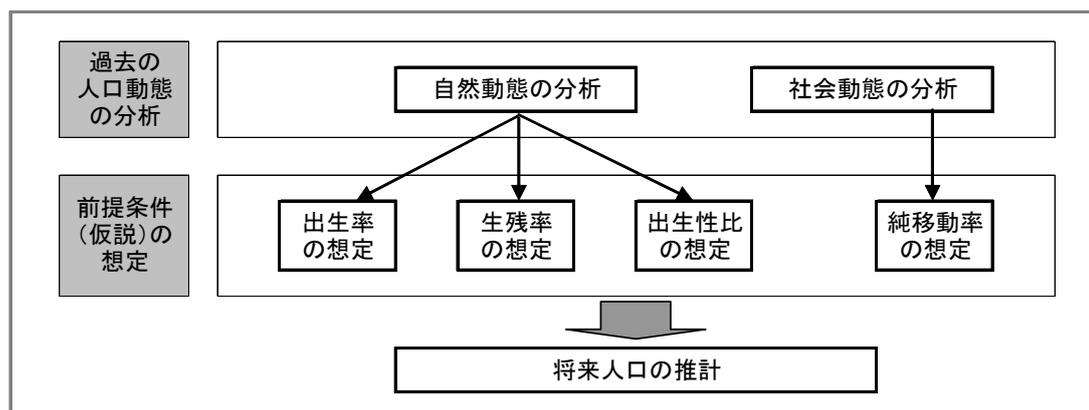
	中学校名	学校の立地地区	生徒の居住地区	進学元の小学校	備 考
1	浦安中学校	元町	元町	浦安小・北部小・東小	
2	堀江中学校	元町	元町・中町	南小・舞浜小	・東野3丁目地区(中町)を学区に含む ・舞浜小の児童は見明川中と分かれて進学
3	見明川中学校	中町	中町	見明川小・舞浜小	・舞浜小の児童は堀江中と分かれて進学
4	入船中学校	中町	中町	入船北小・入船南小・ 高洲小・高洲北小	
5	富岡中学校	中町	中町	富岡小	
6	美浜中学校	中町	中町	美浜北小・美浜南小	
7	日の出中学校	新町	新町	日の出小・日の出南小	
8	明海中学校	新町	新町	明海小・明海南小	

(2) 推計手法

1) 手 法

○「コーホート要因別変化率法」

- ある時点における男女別、年齢階層別に区分された人口の集団（＝コーホート）を基準人口として、過去の人口動態の分析から、それぞれのコーホートについて「生残率」「出生率」「移動率」等の将来の仮定を設定し、これを用いて将来人口を推計する手法。



2) 推計を行ううえでの変動要因

- 一般の人口推計においては、変動要因である「生残率」「出生率」「出生性比」「純移動率」の4要素について仮定を設定するが、今回行う児童・生徒数推計では、これに加えて「就学率」についても仮定を設定する必要がある。

生残率	・あるコーホートの人口が、翌年までに生残する比率
出生率	・1人の女性が15歳から49歳までの間に出生する子どもの数 (その年と同じ条件下と仮定したときの、各歳での出生数の合計)
出生性比	・出生数の男女の比率
純移動率	・あるコーホートにおける転入超過数が基準人口に占める比率
就学率	・ある地域における学校に就学している児童生徒数の比率

3) 変動要因の仮定の設定

〔基本的考え方〕

- 仮定を設定する各要素については、その対象地域が狭いほど、その地域の傾向を盛り込んだ指標を算出することができる。
- 一方、対象地区を狭めることは、指標を算出するための母数（サンプル数）が少なくなることの意味する。母数が少ないと誤差率が高くなり、導き出された結果が十分に信頼できないものとなる可能性が高まるという欠点がある。また個別データについては、細かい地域ごとに整備されていないケースもある。

- ・こうした長所・短所を総合的に考慮しながら、生残率、出生率、移動率、出生性比、就学率の各要素について、仮定を設定していくこととする。

[各要素の仮定設定方法について]

①生残率

- ・学区別や市単位の男女別各歳別の各コーホートの母数は少なく、これを基に生残率を算出すると、年齢ごとのバラツキが見られる（なめらかな曲線にならない）。
- 生命表から求められる県内の男女別各歳別生残率の推移をもとに推計した男女別各歳別コーホートの生残率を、各学区の生残率として用いる。

②出生率

- ・出生率を算出するには母親の年齢別出生率の算出が必要となるが、学区別や市単位での母親の年齢別出生の母数は少なく、年齢ごとのバラツキが見られる（なめらかな曲線にならない）。
- ・また、算出の対象期間を長くすると母数は増加するが、出生率は時期により大きく変動するため、長期のデータを用いるのは好ましくない。
- 原則として過去5年間の市内の母親の年齢別出生率の平均値を、各学区の出生率として用いる。ただし、実際の出生率と大きな差異がある学区については、調整を行うこととする。

③純移動率

- ・転入、転出といった移動の傾向は、各学区により大きな差異がある。
- 原則として当該学区の各コーホートの過去10年間の純移動率の平均値を、各学区の純移動率として用いる。ただし、その学区で大きな変動があった期間がある場合は、その要因を除くように調整を行うこととする。

④出生性比

- ・出生性比（男女別の出生数の比率）は自然動態で決定される比率であり、基本的に市内における大きな差異はないと考えられる。
- 過去20年間の市内における男女別出生数の比率の平均値を、各学区の出生性比として用いる。

⑤就学率

- ・浦安市は東京都に隣接していることもあり、私立学校への通学する子どもの数は少ない。就学率は各学区別に差異がある。
- 過去5年間の学区別就学率の平均値を、各学区の就学率として用いる。ただし、開校が新しい学校については、入手可能なデータの平均値を用いることとする。

*なお、浦安市では小規模学校選択制度が導入されており、制度を利用して児童生徒が自分の居住する学区以外の学校へ通学しているケースがある。しかし、そうした移動の要因は把握できないため、今回の推計ではこの要因は除外している。このため、20年の児童生徒数は、実際の数字と異なるものとなっている。

(3) 推計結果

1) 各小学校の児童数の推移（単位：人）

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
浦安小	274	277	275	271	268	263	261	278	291	311	333
南小	1,031	1,025	1,017	1,015	998	981	972	951	939	924	943
北部小	902	931	885	879	866	856	837	823	831	831	836
見明川小	604	637	633	618	622	611	590	600	615	635	649
富岡小	1,189	1,239	1,235	1,246	1,224	1,255	1,252	1,239	1,223	1,217	1,222
美浜南小	338	310	318	296	311	309	310	324	320	334	327
入船北小	221	229	234	229	235	219	221	226	226	240	232
東小	874	861	863	858	822	793	743	743	715	703	707
入船南小	427	428	428	429	409	400	407	419	438	437	454
舞浜小	835	797	797	749	756	736	698	723	727	763	787
美浜北小	169	166	181	180	183	179	183	194	197	208	211
日の出小	717	809	804	820	832	834	891	875	864	839	807
明海小	395	398	444	555	583	574	599	592	559	542	520
高洲小	847	820	812	949	1,048	982	898	848	795	765	730
日の出南小	1,020	1,065	1,094	1,073	1,048	1,029	948	904	846	814	774
明海南小	689	728	754	732	691	657	597	539	482	436	400
高洲北小	433	671	695	754	798	847	872	868	839	784	722
合計	10,965	11,391	11,470	11,653	11,693	11,525	11,278	11,146	10,906	10,785	10,652

(参考)

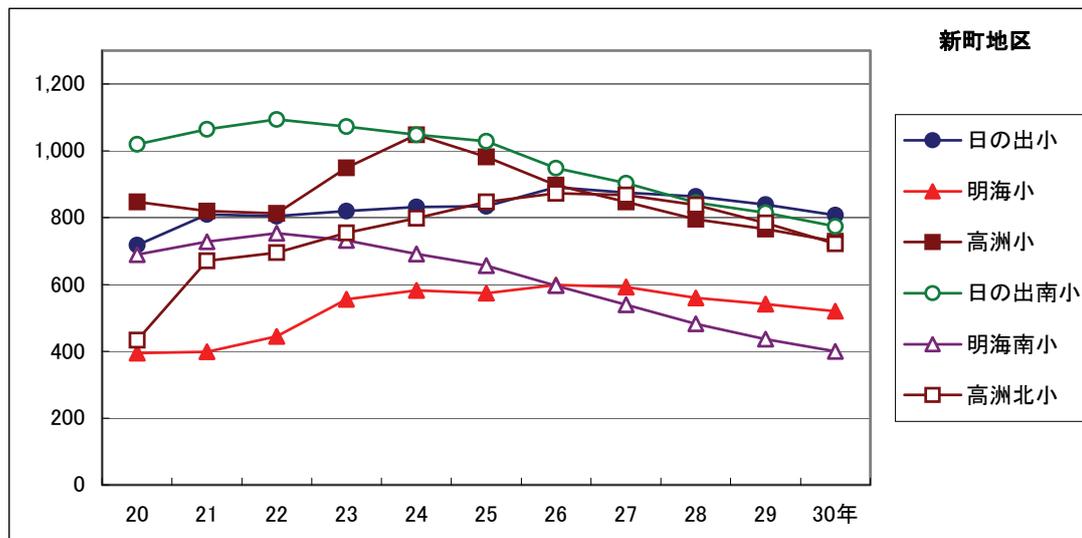
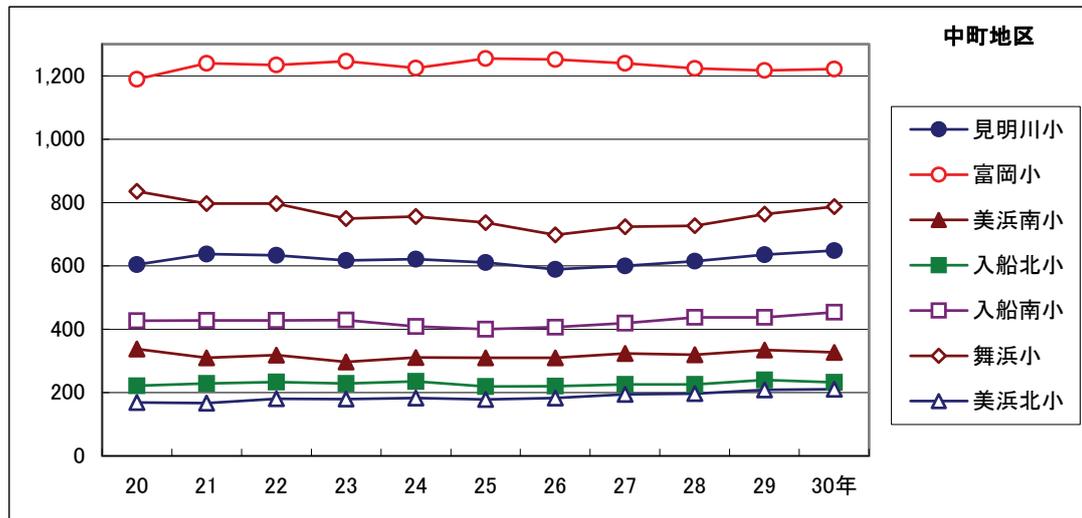
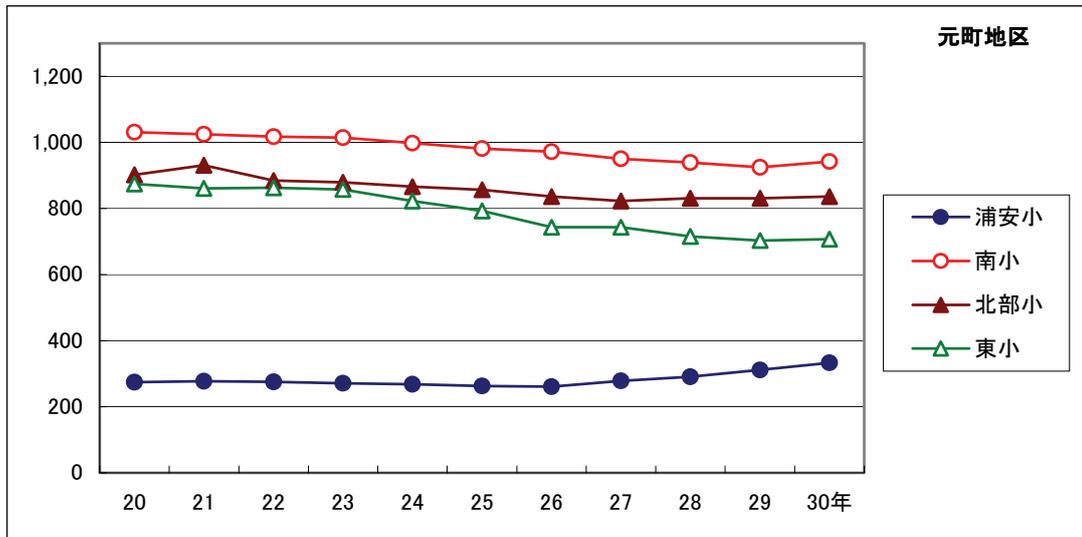
美浜地区2校	507	477	499	476	494	488	493	518	517	543	538
入船地区2校	648	658	661	658	644	619	628	645	664	677	686

 :ピーク  :新規入居計画がある時期

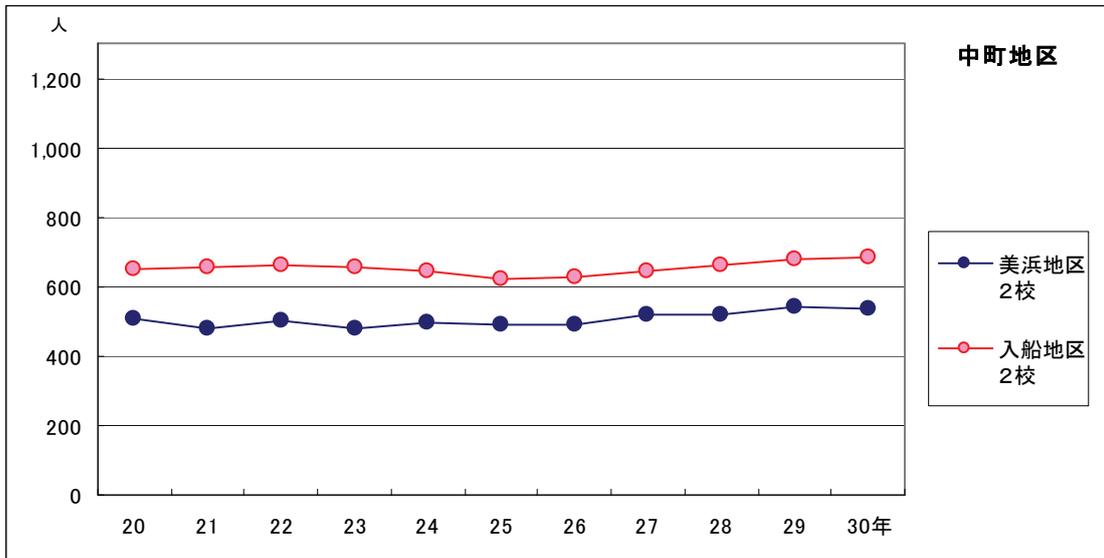
2) 各中学校の生徒数の推移（単位：人）

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
浦安中	725	710	768	769	790	775	775	769	751	739	707
富岡中	411	423	467	487	523	510	514	518	529	534	512
堀江中	659	703	722	728	671	657	645	669	678	655	625
見明川中	220	219	234	246	253	250	248	261	260	247	237
美浜中	158	156	141	133	121	128	120	116	119	115	127
日の出中	416	475	553	620	676	702	714	736	725	692	642
明海中	285	338	347	418	442	499	490	505	505	508	478
入船中	578	706	712	823	911	935	942	911	914	908	911
合計	3,452	3,730	3,944	4,224	4,388	4,454	4,448	4,485	4,481	4,398	4,238

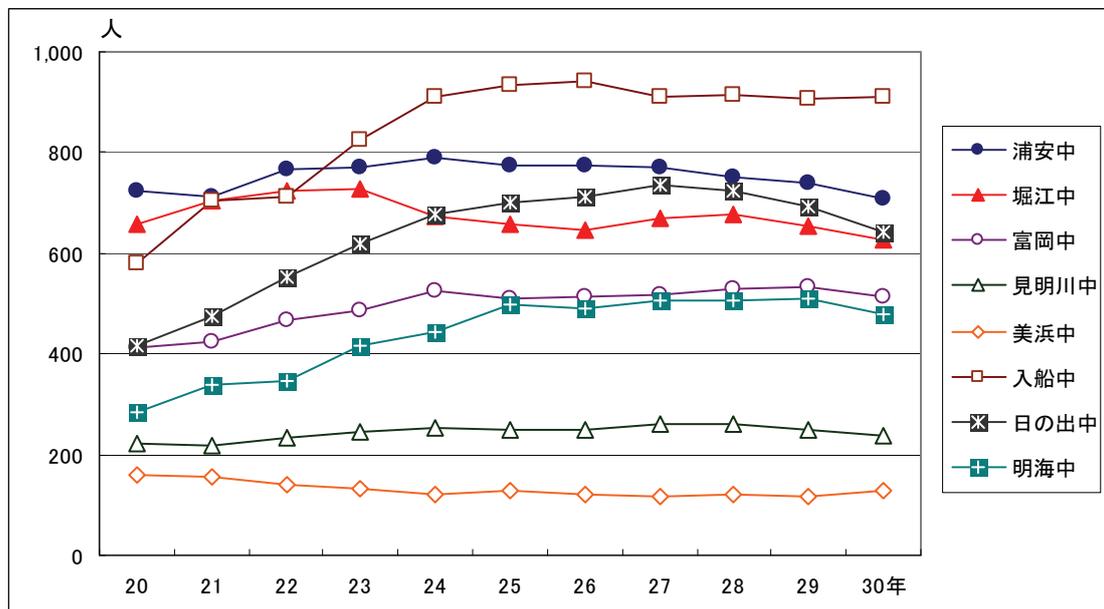
◇地区別 個別小学校の児童数の推移 (単位：人)



◇美浜地区、入船地区の2小学校の合計児童数の推移



◇個別中学校の生徒数の推移 (単位:人)



3) 児童生徒数の推計結果から算出した各小中学校のクラス数の推移 (単位: 学級)

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	保有 教室数
浦安小	11	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	14
南小	29	30	28	28	28	29	28	28	28	27	26	32
北部小	27	27	25	26	24	25	25	25	25	24	24	27
見明川小	18	18	18	18	18	18	18	19	19	20	20	21
富岡小	34	35	34	35	35	35	35	35	34	34	35	33
美浜南小	12	12	12	12	12	11	10	11	11	12	12	25
入船北小	7	8	9	9	9	9	9	9	9	10	10	17
東小	25	25	25	25	24	24	22	21	21	21	22	27
入船南小	14	13	13	14	14	13	13	13	15	15	16	16
舞浜小	23	23	23	21	22	22	20	21	20	21	22	24
美浜北小	6	6	7	7	7	6	6	7	8	9	9	14
日の出小	22	23	23	23	23	23	25	25	25	25	24	27
明海小	13	13	14	17	18	18	18	18	18	18	17	18
高洲小	25	23	23	27	29	27	25	24	23	23	22	29
日の出南小	30	30	30	29	29	29	26	24	23	23	23	29
明海南小	22	23	23	23	21	21	19	17	15	14	13	24
高洲北小	13	20	21	22	23	24	24	25	23	22	21	18

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	保有 教室数
浦安中	20	19	21	21	22	21	21	21	21	20	19	23
富岡中	12	12	13	14	15	15	15	15	15	15	14	14
堀江中	18	19	19	20	18	18	17	18	18	18	17	18
見明川中	6	6	7	8	8	8	8	9	9	8	7	17
美浜中	6	6	5	5	4	5	4	4	4	4	5	17
日の出中	12	13	16	17	18	18	19	20	20	19	18	15
明海中	8	10	10	12	13	14	13	14	14	14	13	15
入船中	16	19	19	22	25	25	25	24	24	24	24	19

:ピーク
 :ピーク時に、保有教室数で不足するケース

(注) 小学1、2年生は38人、それ以上は40人を1学級の上限とする

(参考) 学校別 過去の児童生徒数、学級数

◇学校別児童・生徒数の推移

【小学校】

	平成10年	平成15年	平成20年
浦安小	325	286	339
南小	978	999	976
北部小	737	755	871
見明川小	536	487	574
富岡小	789	884	1,117
美浜南小	602	423	347
入船北小	292	214	179
東小	624	745	812
入船南小	618	325	467
舞浜小	627	706	803
美浜北小	206	159	185
日の出小	644	902	716
明海小	350	583	403
高洲小	—	759	838
日の出南小	—	—	964
明海南小	—	—	669
高洲北小	—	—	422
合計	7,328	8,227	10,682

【中学校】

	平成10年	平成15年	平成20年
浦安中	619	611	612
堀江中	541	528	454
富岡中	281	224	394
見明川中	421	346	400
美浜中	357	285	403
入船中	378	206	286
日の出中	318	468	408
明海中	—	—	467
合計	2,915	2,668	3,424

◇学校別学級数の推移

【小学校】

	平成10年	平成15年	平成20年
浦安小	12	12	12
南小	28	28	29
北部小	23	21	27
見明川小	16	15	17
富岡小	23	25	32
美浜南小	18	13	12
入船北小	11	6	6
東小	18	23	25
入船南小	19	11	15
舞浜小	19	22	23
美浜北小	7	6	6
日の出小	19	26	22
明海小	12	18	14
高洲小	—	24	25
日の出南小	—	—	29
明海南小	—	—	22
高洲北小	—	—	13
合計	225	250	329

【中学校】

	平成10年	平成15年	平成20年
浦安中	16	17	18
堀江中	15	15	13
富岡中	9	7	13
見明川中	11	10	11
美浜中	11	9	12
入船中	11	7	9
日の出中	9	13	12
明海中	—	—	13
合計	82	78	101